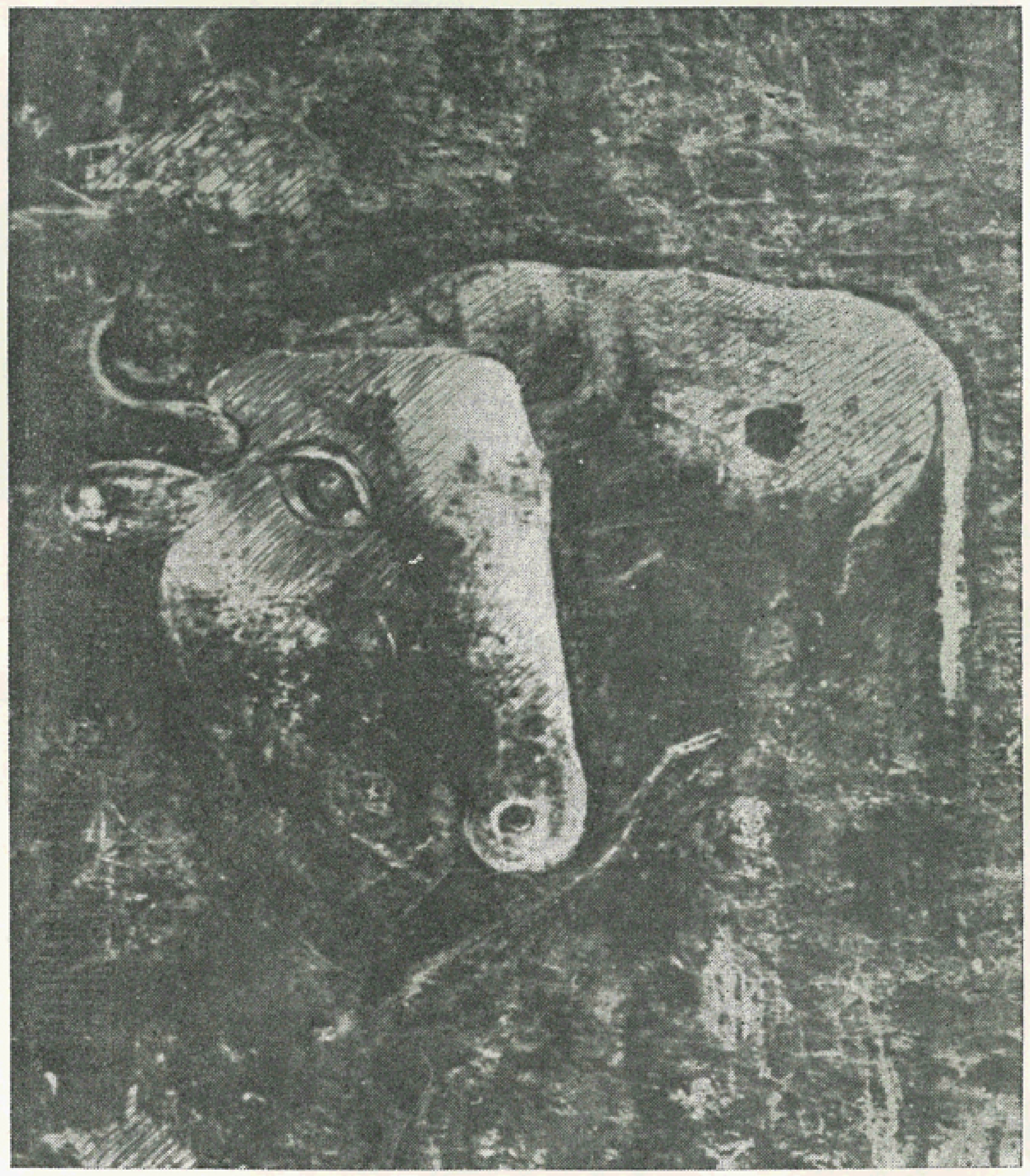
6561
15.4.1

緑丘

1968 No. 63
43年度 第3号



まつりの牛
尾形圭介

小樽商大
同窓会誌

ッポロビール は
初のうまさが持続する

ールが90年の歴史のうちに育て上げた名酵母M_2。それが純粋
をつくります。いやなニガ味やくどさがありません。だから何杯
うまさが持続。一度ぜひ ほかのビールと飲み比べて下さい。

の――――――ミュンヘン・サッポロ・ミルウォーキー

緑丘

全国版

（通巻）No.　63号
（43年度　3号）

（「緑丘」編集部）
兵庫県西宮市清水町1の16
蟇目英三内

（緑丘会大阪支部）
大阪市北区梅田八番地
新阪急ビル8階
サッポロビール(株)内

読者の声

再び「O氏」について
―中野清一氏へ―

木村吉三郎（大一三）

本誌五五号『手塚寿郎先生特集号』に掲載していただいた「屋根裏の隣人」に私が引用した岩崎卯一氏の『社会学の人と文献』の中の手塚先生に関する一節に出てくる「在独のO教授」を私は大塚金之助氏であろうと推断しておきました。これに対して本誌五六号に中野先生は「まだとけぬ謎」の終近いところで「あのO教授は大塚金之助さんかどうか、数学に関連して今一ケ所O氏が出てくる筈で、このO氏が小倉金之助（不思議と名が大塚氏と同じ）であることは岩崎先生から福岡で聞きました。（中略）原田博治氏にO氏が大塚か小倉か聞き質してみたいところです。」と述べて疑問を提起されました。

しかし私が岩崎氏の本から引用した文章は「（中略）T君の先輩（東京商大）で同じく経済学を研究していた在独のO教授（以下略）」であります（傍点及び括弧内は筆者）から数学者小倉金之助でないことは明白と思われます。尚一九二〇――一九二二年頃、大塚氏がベルリンに留学中であったことを示す同氏の随筆「ゾムバートの研究指導室」を偶然抜蔵していた古雑誌（『経済往来』昭和二年頃？）の中から発見しました。

更に「在独のO教授」が小倉氏でないことは同氏の『数学者の回想』（昭和三十一年刊河出文庫）によっても明らかです。この本の一九二一年前後の段（一三四―一三五頁）に「私の留学期限はおよそ三年くらいという約束なので、初めの一年半をフランスで、後の一年半をドイツで送るつもりで出発したのであります。しかし（中略）ドイツをのぞいてくることもできなければ、アメリカも廻ることもできず、まっすぐに日本に帰ることに決めたのでありますす。」とあることによって、「在独の小倉教授」は実在しなかったことが分かります。

尚、先生が指摘されました「もう一ケ所O氏が出てくる筈で、このO氏が小倉金之助であること（以下略）」については、岩崎氏の本を繰返し調べてみましたが、「もう一ケ所のO氏」を、私の見落しでしょうか見付け出すことができませんでした。

以上から見て問題の「O氏」は大塚氏であって、小倉氏でないと断じてよいのではないでしょうか。

序ながらこの機会に小倉金之助氏の実弟小倉謙三君は緑丘第十一回生の私と同期であり、現に酒田市に在住されていることをお知らせ致します。大正の末年帰省中の謙三君を同市稲荷小路のご実家に訪ねた記憶が今も心に浮んできてなつかしく思います。

手塚さんと「O氏」
―木村先輩に詫びつつ―

中野清一（大一五）

本誌五六号での私の疑問提起について木村吉三郎先輩からその誤りの御指摘を受けました。確かに私が間違っていたのです。

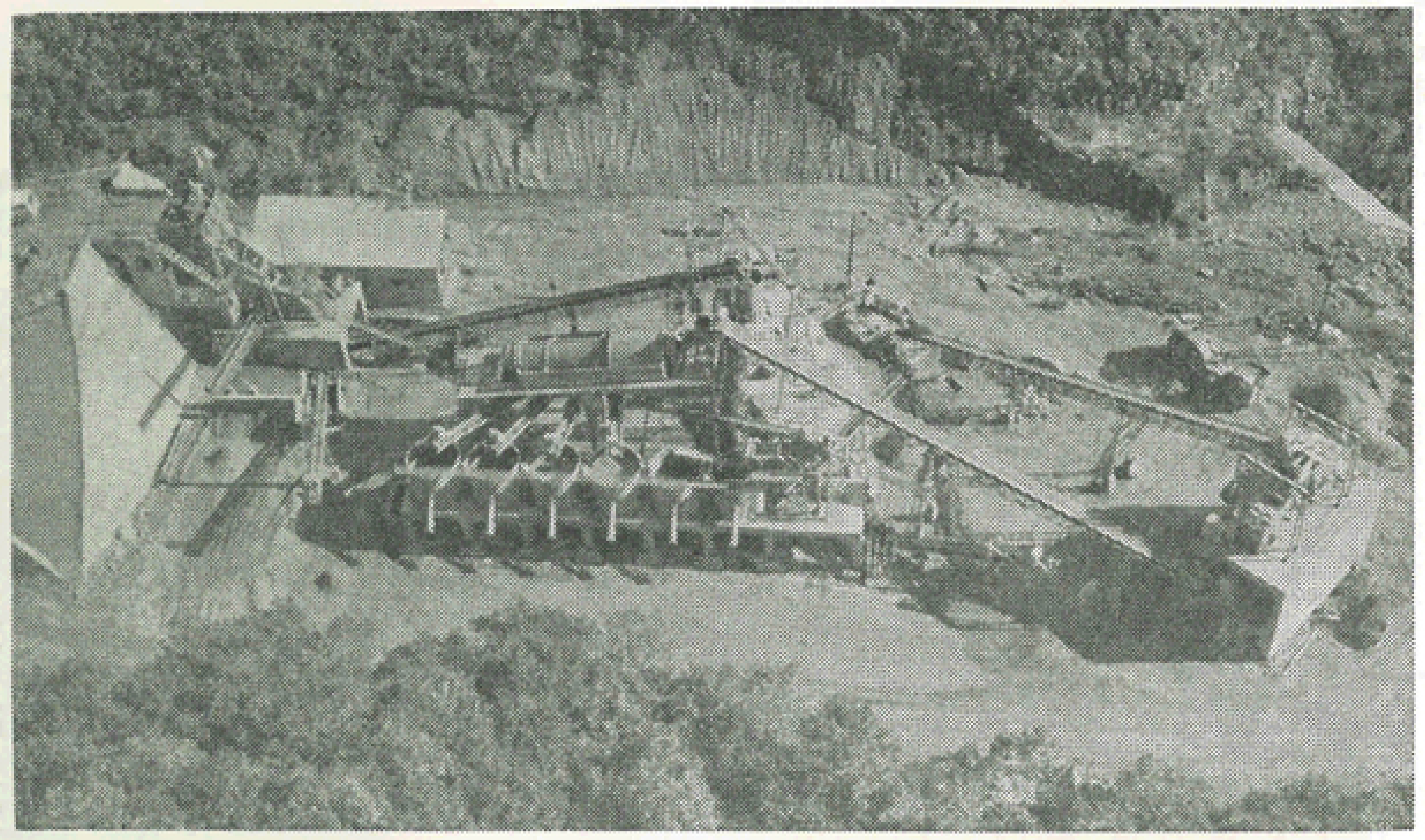
五六号に私が書いた時、私の手許には肝心の岩崎卯一先生の名著「社会学の人と文献」大正十五年七月初版本がありませんでした。古い昔のことを書くようで恐縮ですが、この初版本を当時母校の三年生だった私は発売と同時に手に入れ、昭和十年頃迄は大事に持っていました。それがいつ頃、どうして無くなって終ったのか未だにわかりません。それはさておき初版本（戦後に復刊されま

技術革新時代を生きる
ナイス低温溶接棒

製造元
ナイス低温溶接棒株式会社
総発売元
協和商事株式会社
取締役社長　四谷宗義（大11）

本　社／尼崎市北大物町1番地　電（481）8221(代)
富山出張所／電(31)1425　東京支店／電(552)8711(代)　九州支店／電(76)6885(代)
名古屋出張所／電(941)2063　仙台出張所／電(22)9549　小倉出張所／電(56)5648
高松出張所／電(31)4747
姫路出張所／電(22)7331　静岡出張所／電(85)2675　広島出張所／電(21)1078
新潟営業所／電(66)2295　水戸出張所／電(24)4611　長崎営業所／電(44)6345

国土綜合開発に貢献する



KYCプラント

―営業品目―
砕石プラント　アスファルトプラント　バッチャースケール
砂利選別プラント　クラッシャー　ベルトコンベアー
バッチャープラント　コンクリートミキサー

KYC光洋機械工業株式会社
代表取締役社長　奥村正美（昭17卒業）
本社　大阪市北区南同心町1丁目31番地　電話大阪(358)3521(大代表)

大阪支店　電話大阪(358)3521(大代表)
東京支店　電話東京(254)5601～5
広島支店　電話広島(61)5101～3
福岡支店　電話福岡(43)6461～4
札幌支店　電話札幌(24)9594～6
仙台支店　電話仙台(25)4441～3
名古屋営業所　電話名古屋(221)7037～8
高松営業所　電話高松(61)4391～3
鹿児島営業所　電話鹿児島(2)3055・1650

したがこの方は某出版社が勝手気まな大削除をやらかした省略版で旧版の面目は全く失われています）を手許に置かずに本誌五六号に書いたのですから恥入る他ありません。学問、しかも社会学の道を歩き続けている私としては大変な失態でした。木村先輩に御詫び申上げると同時に私の誤りを正確に指摘されるために先輩がとって下さった大変な御努力に厚く御礼申上げます。

今度の御指摘を拝見すると同時に私はK大学のO博士から問題の初版本を借覧しました。往昔を偲びつつ懐しく読み耽りました。大塚金之助さんのお名前が何回か出てきます。それなのに木村先輩が五五号に寄せられた一文中で引用された箇所では「T君」とか「O教授」とか英語スペルのイニシャルでしか出てきません。しかし本文中に何回かそのままに出てくる「大塚金之助」という日本語でのフルネームが少しでも私の念頭にあつたら、小活字で書き込まれている短文中の「O教授」が紛れもなく「大塚金之助」さんその人であることは自明の筈で、本誌五六号で私が軽卒にも持ち出した「O教授」は小倉金之助さんではないだろうかという疑問など起りえようも無かったのです。

岩崎卯一先生には私が九州大学に入ってから二年間、昭和二年と同三年ですが親しく指導を受けました。木村先輩が五五号に御寄稿の一文によりますと、手塚さんが昭和九年に山形に巡回講演に行かれた時、木村先輩は「社会学の人と文献」初版本中に出てくる「T君」とは手塚さんに相違いないと考えておられたので聞きただされたところ矢張りそうだったと書かれています。私は私で著者の岩崎先生にやはりあの「T君」とは手塚寿郎さんだと福岡で教えられました。

なおその時、岩崎先生はパリの屋根裏時代の手塚さんとの交友の濃やかさや公私にわたるエピソードを数々話してくれました。そのお話の中に大塚金之助さんのお名前の他に小倉金之助さんのお名前も出てきました。小倉さんとのことでは今も忘れ得ずにいる一つのエピソードがありました。パリかどこかで手塚さんが小倉さんに会われた時、数学の勉強をもっとやらなくてはと痛感したと岩崎先生にもらした。というエピソードです。この点を未だに忘れ得ずにいるのは偉大な先輩手塚さんは偉大であればこそ謙虚な人柄だったと深く感じ入ったからでした。

「社会学の人と文献」初版本に関する限り「O氏」はこの小倉金之助さんではありません。ですから私が本誌五六号に「数学に関連して今一ケ所O氏が出てくる筈で云々」と書きましたのはやはり私の粗忽でした。私が迂闊だったばかりに、木村先輩にこの「今一ケ所」を丹念に探し求めさせる御苦労をかけて終いました。重々御詫び申上げます。

なお最後に今一つ蛇足を加えさせて下さい。木村先輩は既に御気づきのように問題の初版本は、何種類かの雑誌に岩崎先生が発表されたものを集めて一冊にまとめられたものですが、収録に当っては若干削除されたようです。その削除された部分は「社会学の人と文献」第五篇中に特に多いように思います。従ってこの書物に収録されていない部分、特にパンタレオーニ教授訪問記の全文を関西大学の「千里山学報」か「日本社会学雑誌」かで見たいと今考えているところです。単行本の中にあると私が間違って思い込んでいた「今一ケ所云々」が削除された部分の中に或いは出てきはしないかと思うからです。近い機会をとらえて岩崎先生未亡人のお宅をお訪ねし、見せて頂いた上で木村先輩の御厚情におこたえ申上げたく存じている次第です。

『よりよき「緑丘」への提案』に対し

T・K生（昭一一）

No.六二の緑丘に記載のS・E氏のお説に対し、いささか私見を述べさせて頂き度いと思い筆を執りました。

「これ以上の壁を破る事は個人としての限界があるのではなかろうか」と云っておられるのは正にその通りです。ご説明の中の「全卒業生（同窓生）の中の何十分の一かに過ぎない一人、二人の如何にも誇らしげな報道のみに急では多くの同窓の共感を呼ぶには云々」とのお説が少々実状をご存知なさすぎるのではないかと思われます。と申しますのは、彼、編集子が、如何に原稿を集める事に苦労をして居るかと云う実状を御存知ないからではなかろうかと思われます。

予め執筆の依頼を出し、大体の頁数を割当てて待って居る原稿がなかなか届かない。その為に時間と費用をかけて再依頼する。それでも原稿は届かないとなると彼としてはプランを変更して身近の誰かに穴埋の原稿を依頼する。之が前記の何十分の一かの一人、二人と云う事になるのではないでしょうか。従ってこの件は少く共「緑丘」に愛着を感じて居る皆さんが何かに付け編集子に宛てて原稿紙一枚でも二枚でもいいですから、面倒がらず書き送ってやって頂けば彼は彼なりの編集手腕でこれを纏めて行く事で解決されるのではないかと愚考する次第です。

同期生である彼編集子の夜に日をついで努力している姿を見るにつけ、また会社での馬力のある執務態度を見るにつけ、倒れられては大変だと緑丘愛読者を代表して激励している一人です。良心的な彼は私心を投げうって、大きな立場でこのような出版は東京でやるべきだとさえ洩らしています。

胎動はすでに始まっていることでしょうが何れにせよより多くの同窓諸兄が、この機会に一致してご協力頂く事、これのみがよりよき「緑丘」にする為の唯一の道と考える次第です。

そしてお説の「緑丘舎」が出来、そこから「緑丘」が発行される、等の行き方が最もよいのではないかと思われます。何かと勝手な事を申し上げたご無礼のお許しを乞い筆を擱きます。

新図書館

＝美しい緑の前庭は消えたが＝

学長　実方正雄

緑の校庭の山側にそって並んでいた学生図書閲覧室、書庫および赤煉瓦の商品館が、緑丘から静かに姿を消していったのは昭和四十一年の夏であった。そして、新講義棟および新図書館の基礎工事が直ちに始められ、翌四十二年の九月に二つの新らしい建物が完成した。講義棟は山肌にそって四階建。新図書館は、あの小樽港を一眺のもとに見おろす緑の前庭のどまん中、三階建の建築物。緑の前庭は、卒業生の皆さんには懐かしい場所であり、二本のポプラの老樹とともに、緑丘のシンボルともいうべきものであったので、新図書館の位置については、随分と議論があった。しかし、教育研究室や講義棟との利用関係から、どうしてもほかに適当の場所がなかったのである。

新図書館の外装は、一階が赤煉瓦で重厚な感じを出し、二階、三階は白のタイルで化粧張りをしており、研究、教育の中心的役割を担うにふさわしい偉容を整えている。総面積は、一、九四七ヘーベ。一階が書庫であって、四六九ヘーベの面積を持っているが、既に蔵書が満杯に近い。蔵書類は、和漢書が約八万一千冊、洋書が約四万八千冊、合計約十二万八千冊にのぼる。この中には、シエル文庫や手塚文庫などの貴重なフランス文献が含まれており、近くは、一万冊に及ぶ早川（巳代治）文庫の入庫も準備されている。

二階は、参考閲覧室を中心としたもので、学生は校庭から階段で直接この二階へ昇るようになっており、講義棟からは渡り廊下で往復できるように考案されている。参考閲覧室というのは、学生諸君が、書庫にある書物を借用カードで借用閲覧する場所で、この借用台と一階の書庫その間には、図書運搬用エレクトリック・コンベアー装備がなされており、事務合理化の一翼を担っている。二階には、このほか、館長室、事務室、雑誌室その他の設備が配置されており、図書館の中枢部をなしているといってよい。とくに、雑誌室は、かなり充実したもので、現在購入しているもの、外国雑誌二八三種、内国雑誌一四六種を数える。

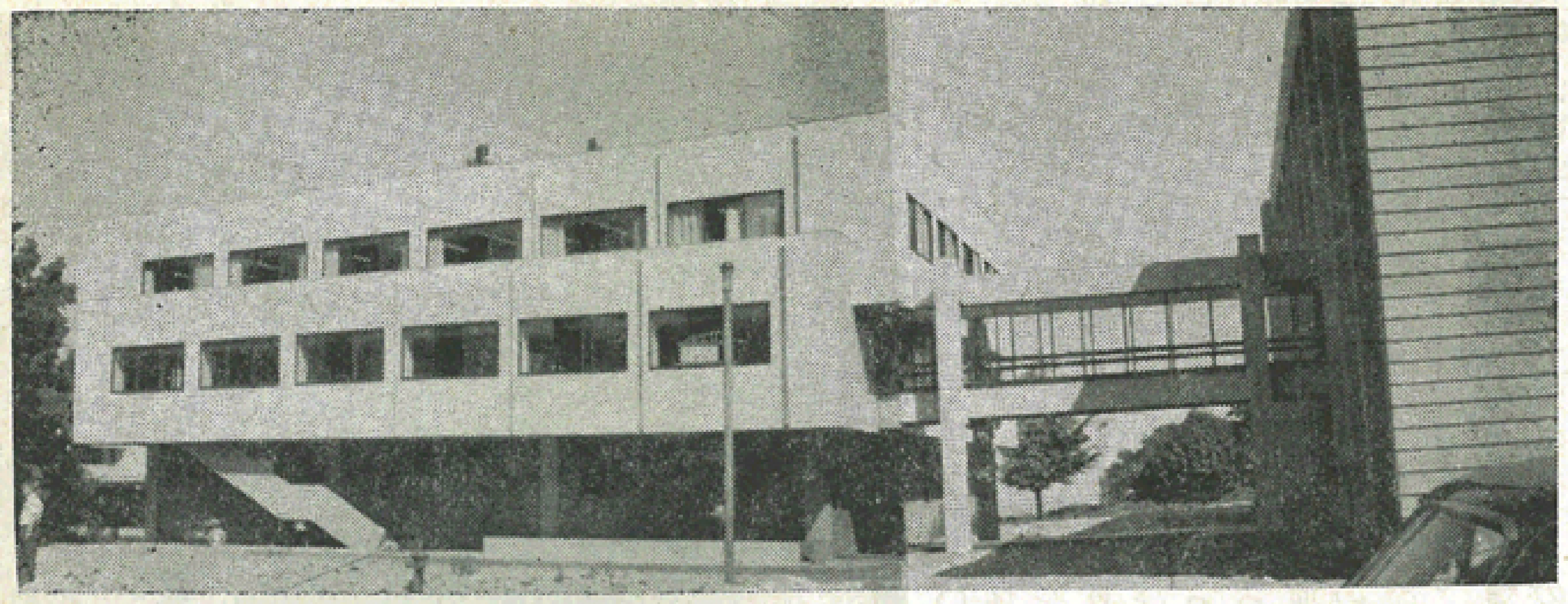
なお、学生諸君の憩いの場所として、ロビー（ホール）と屋上庭園とが置かれていることも、注目すべき施設である。庭園には美しい花が植えられ、ここからの眺望はまことに絶景というのほかなく、小樽の街や港を見おろし、晴れた日には、石狩湾の紺碧を隔てて、対岸の山々がはっきり見取れるほどである。

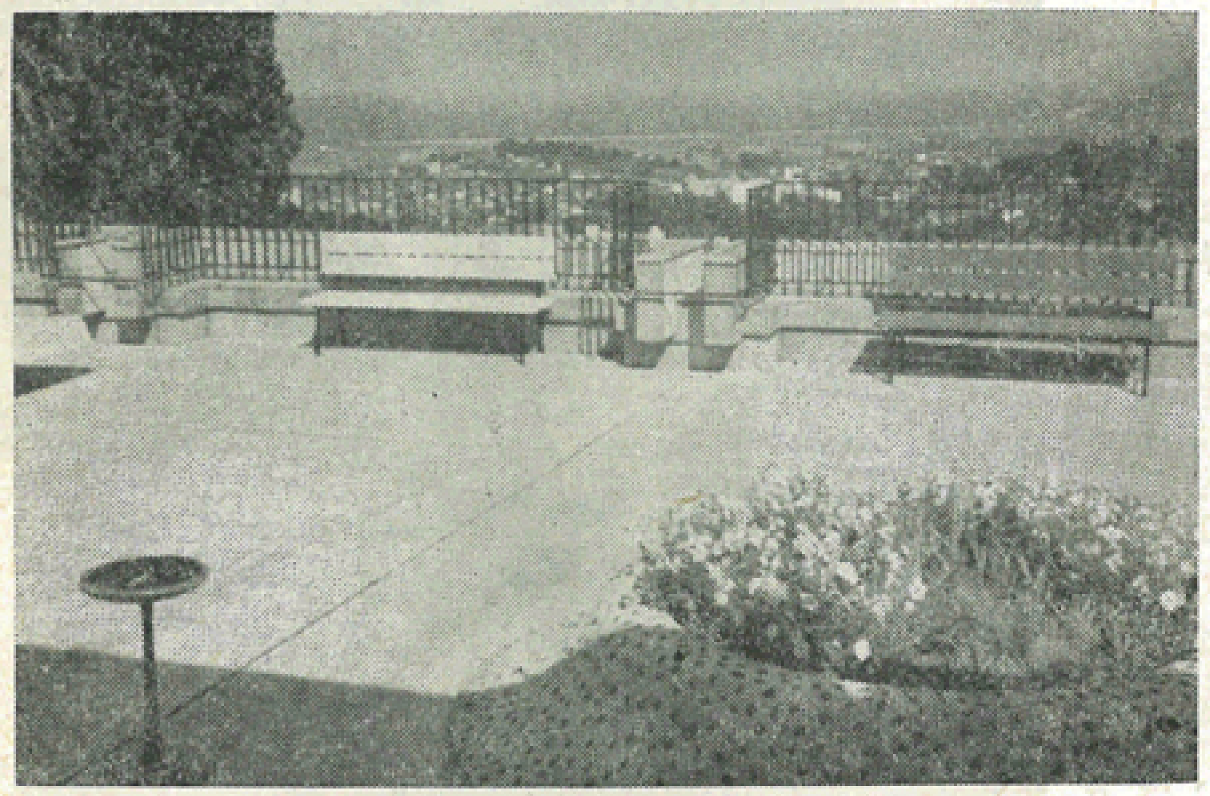
三階は開架式閲覧室で、その面積四七六ヘーベ。学生の自由閲覧のために開放されている書物は一万冊を超えている。この閲覧室には、七十余のキャレル（独立した個人用読書机）が配置せられており、学生諸君は、借用書なしに自由に書架から書物を持出し、自分の研究に専念することのできる仕組で、利用価値は非常に高く、満席の日が多いようである。大学がよくなるためには、教授陣容の充実とともに、学生諸君の学問的水準が高くならなければならない。そういう意味からいえば、美しい緑の前庭は消えたけれども、大学将来の展望からみれば、充分に償いのある変貌である、と考えるのほか

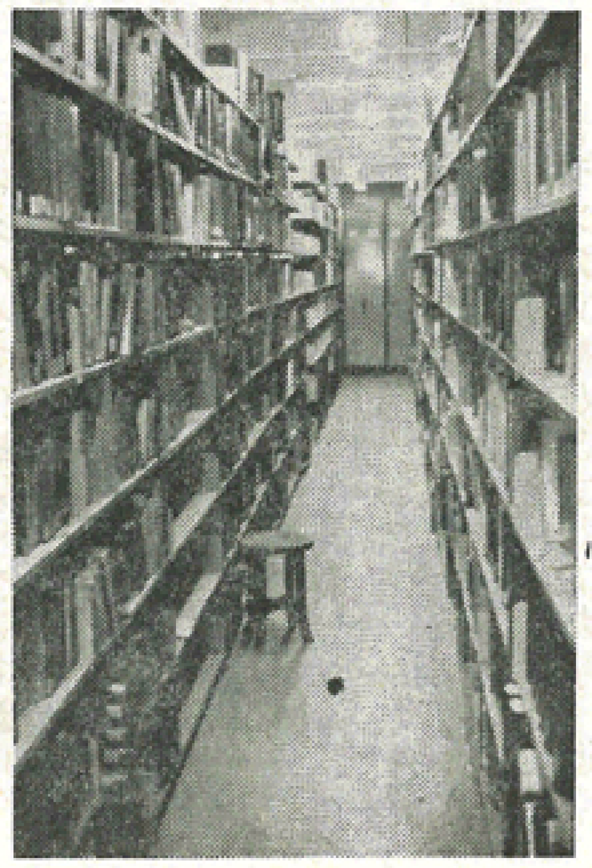
トーモクの段ボール
東洋木材企業
取締役社長　手取貞夫
東京本社　東京都千代田区丸の内二の十八（内外ビル五階）　電話（212）6811
工場　手稲工場・網島紙器工場・大阪紙器工場・小牧紙器工場・新潟紙器工場・山形紙器工場
営業所　小樽・釧路・函館・仙台・静岡

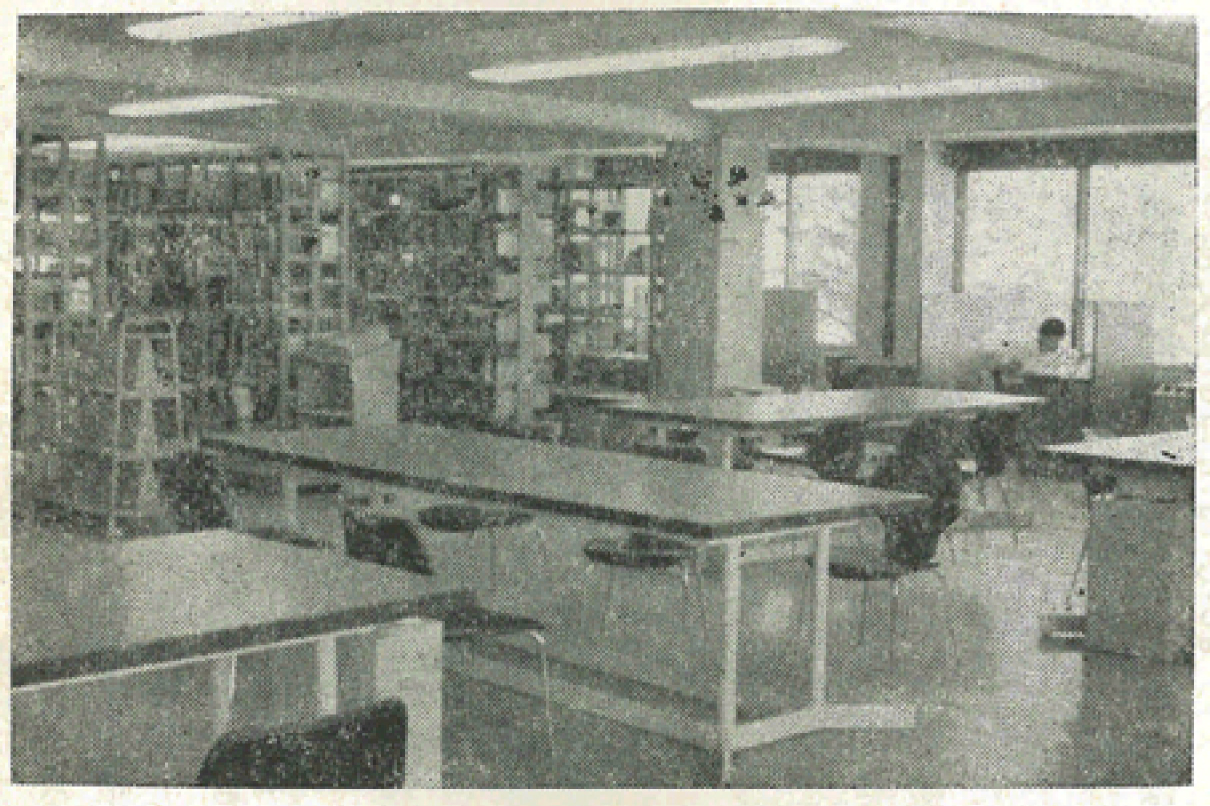
はあるまい。

この図書館で働いている職員の数は十一名に過ぎない。学問研究の中枢機関として、充分にその機能を発揮するためには、必ずしも満足なものではない。しかし、大学全体の職員配置のバランス上、全くやむをえない状態なので、図書館長が、事務の機械化・合理化によって、職員数の不足を補い、図書館としての機能を充分に果すよう努力しているのが現状である。









写真説明

（上）新図書館へは講義棟（右）から渡り廊下で往復できる
校庭からも直接左の階段から二階に入る

（中右）一階書庫

（中左）屋上庭園には花が植えられ小樽港の眺めもよい

（下）開架式閲覧室

耐火煉瓦・不定型耐火物・クレー（製紙用）

各種工業窯炉の設計施工

OYT　大阪窯業耐火煉瓦株式會社

専務取締役　松　村　義　公（大正15年）

本　社　大阪市北区梅ケ枝町164（宇治電ビル）　電話（364）3524㈹
東京支社　東京都千代田区大手町2の8（日本ビル）　電話（270）8961㈹
九州出張所　北九州市八幡区山王町1丁目　電話八幡（67）3070
工　場　岡山県　日生工場・三石工場・吉永工場・岡山クレー工場

楽我記

女性二題

菅野祐治（大一二）

(一) 好いお嫁さんとは

「春草学入門」と題する面白い書物を古本屋で見つけた。女性のあそこの毛の生えようで性格や一生の運勢を占うと云うのである。どうせ粋人の随筆とたかをくって居た処仲々どうして真面目な研究である。

要は性力の相等しい配偶者を迎えよと云うにある。琴瑟相和すと云う事は両者の性力のバランスがとれて居る処に始めてもたらされると云うのである。他の先輩からも教えられた事であるが、其の所説を一層科学的に実証的に裏付けたものである。

私が緑丘を出てK商業校に奉職した時Aさんという同僚が居た。生徒にも好かれ、良い人だったが奥さんが病身で殆ど年中床に就いて居られた。何時も私に云われた。「結婚する時は器量なんて云ったら絶対いかん。金槌で叩いても死なないような丈夫な人を貰え」と。一生病妻で苦労したAさんとしては無理もない忠言だったが、然し無闇に丈夫なのでも困る。こちらが蒸発して仕舞う。現に此の書は無類の精力の為に十一人からの男を蒸発させて仕舞った偉大なる女性の事を語って居る。要は自分の性力を虚心に謙虚に反省し、自分と同等又は多少以下と思われる女性と結ばれる事が一番肝心である。

凡そ我々が世に処して一番肝心な事は後顧の憂が無いと云う事である。夫婦間にいざこざがないと云う事、家庭円満と云う事である。これを招来する唯一の方法は夫婦間の性力のバランスがとれて居ると云う事である。

以上の事をこれから結婚する後進諸君に申上げると共に、既に結婚して居る諸兄に申上げる。若し奥さんの性力が自分程でないと知ったら、須らく大人の寛容さもて、奥さんに過度の重労働を強要しない事である。為には少々の道楽も止むを得ない。反面奥さんの馬力が自分に較べ比較にならぬ位すばらしいと見出したら、深く品行を慎み、専ら家内サービスに専念する事である。どうせ其の様な奥さんは君以上のやり手だろうから、其のヴァイタリティをうまく君の事業の方に活用する事である。家庭も事業もいや栄えに栄えん事間違いなしである。

(二) ヤングレディに囲まれて

今夏高岡からの帰途、愛知県の長男の許に立寄り大阪に向う途中の物語りである。長男が折角指定席券を買って呉れたので其の席に坐ろうとすると「あのクッションの向きを変えても好いでしょうか」と若い女性の声、私は昔からのフェミニスト、何の異存があろうぞ。云われる侭窓ぎわの指定席に坐ると、何と私を取まくように若い三人の女性、話の様子では明治村を訪ねての帰りらしい。明治村となると我々明治人は堪らない。其のパンフレットを見せて貰ったのがきっかけとなって話し始めた。

三人共京都生れのいとはん、今春京都の短大を出、お盆の休みを利用して明治村を訪ねたらしい。私は金沢に二十五年先生として住み、金沢人と云って好いのだが、近頃京都が余りにも俗化して仕舞ったので、それにあきたらない外人は金沢を訪ねる人が多くなったと話した。見知らぬ旅の人からくさされると流石にレヂスタンスを感ずるらしい。口々に京都の弁護を始める。然も博多弁とは違ってやわらかい京都弁で、其の内私は私達の同窓会は来年京都で開かれる予定である事、そして私は京都は昔中学生の頃修学旅行で一寸のぞいた丈、然も私が実は京都礼讃者である事が分ると俄然話に熱を帯びて来た、然も三人共短大出の謂わばインテリ娘だから話が分る。各自の主観を交えて京都の長短を論ず。

期せずして私の為に京都鑑賞入門講座が開かれた形、そして語り手は何れも情純な、若鮎を思わせるような土着の娘さん達、夢のような幸福感にひたる内瞬く間に京都駅に着いて仕舞った。「すると結局 Seeing is believing と云う態ですな」と私が云うと、我が意を得たりと許り三人共にっこり「そうです。来年は是非来てお呉れやす」と云いおき、手を振って見送って呉れた。このようなすばらしい、綺麗な三人の京都娘にとりまかれ、やさしい京都弁で愛する古都の話を聴く、又とない幸運に恵まれたのもやはり日頃心掛けの好い者は違うものだとその晩豊中（大阪府）の娘夫婦に語り聞かせた事だった。

楽我記

積水化学工業㈱
チ　ッ　ソ　㈱
旭化成工業㈱
特約代理店　プラスチックの綜合商社

田中弥商事株式会社

取締役社長　田　中　弥　三　郎（大12）

（本　社）大阪市東区北浜2丁目74番地　TEL(202)6556㈹～9
（東京出張所）東京都千代田区神田淡路町2丁目19番地　TEL(251)2271・5259
（九州出張所）福岡市奈良屋町2番19号　TEL(25)3391・6022

遠くなった『戦さの始め』

—舞台消失物語—

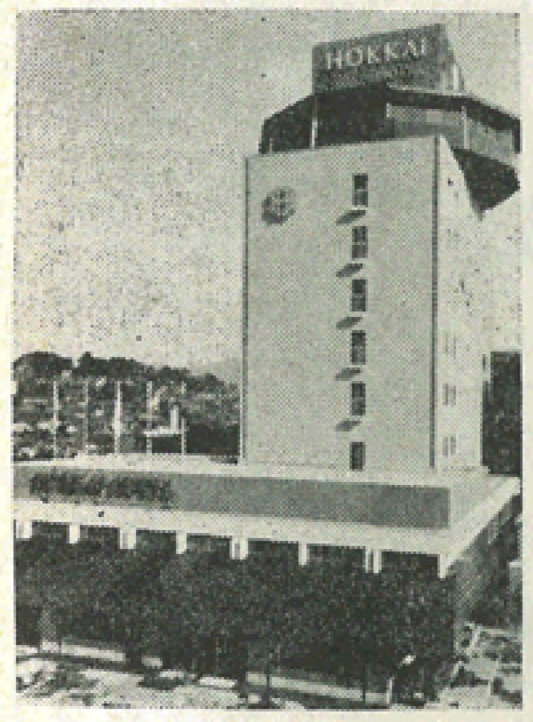
寺尾八郎（昭九）

入学後はじめての夏休を十分堪能して九月十日に寮へ戻って来たら前期末の試験に備えての猛勉が幕を切って落され珍らしく静かな夜が幾晩も続いた。その内の一夜突如しじまを破って「日支開戦、試験延期」とデモるわめきと足拍子が廊下に起った。かねて険悪な日中間の雲行きが満州事変へと暴風雨化したのである。

その後の経過は歴史の示す通りであるが、それ以来事変のぼっ発した昭和六年の西暦が一九三一年なので「戦さの始め」ともじられ、一九三五年、一九三六年が「戦さ頃」と取り沙汰された。この二、三年明治は遠くなりにけりと言い古るされて来たが「いくさの始め」すなわち昭和六年も結構現在から遠去かったとの感慨にこの七月打たれた。

昔の北海ホテル

それは蔵書家である大先輩の越崎さんに古書を漁ってわが家の歴史の一端を調べて頂こうと小樽へ行き中央通りを駅から港に向って下がり、どこかでバスに乗ろうと北海ホテルまで来た所、立看板に支配人謹白が載って居る。ホテルが空き家になって静まりかえって居るので何事ならんと読むと閉館挨拶ではないか。私はしばしただずんでとりこわし寸前の建物をしげしげと見上げた。



現在の北海ホテル

以下は私のタイム・トンネルである。そもそも私とホテルのなれそめは外語部の新入生歓迎会であった。外語部の小樽高商に入ったのだとの気負いは私を早速このパーティに出席させた。きら星のように居並ぶ外人講師をまのあたりに見たり、三年生の歓ゲイの辞と大久保君かの答辞が流ちような英語で話されるのを聞いてようし自分もやるぞと気負い立った。教授陣の中に故郷の室蘭での高商音楽部の地方公演に際し指揮を取られた外人の顔を見い出し、かたわらの出席者にその名をたずねたらデーゲンさんであった。やがてうたげが進むとメモが回って来た。喫煙はせめてデザートコースにするとして今は差し控えてはとの内容である。喫煙学生の煙草が一つ消え、二つ消えついにはすっかりなくなった。大谷教授の時を得た洋食作法の御忠告であった。帰りは外語熱に取りつかれ近江さん、長谷川さんと英語でばかり話して日本語を使わなかったような気がする。

対寮試合に優勝して祝勝会が催されたのも北海ホテルにおいてであった。優勝盃にビールがなみなみと注がれ回し飲みが終ると手拍子揃えて合唱が始まった。その内に足のふみならしの景品までついた。すると、あわてふためいて床が落ちるからそれだけはやめて下さいと制止して歩いた。

レコード合戦華かなりし頃の事とて毎月のように新譜試聴会が北海ホテルを会場に湯上商会によって開かれた。広い階上ホールに二十人足らずの小人数が流行りの豪華な電蓄に耳を澄まし卓上にはコーヒとケーキが供せられる始末なので試聴室で聞くのに較べるとその雰囲気の良いこと雲泥の差であった。

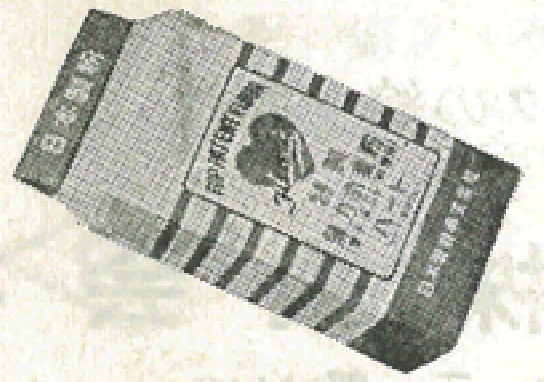
私は土川さんに連れて行って頂いたが土川さんの耳は確かで寮には良いレコードが続々とたまって行き、土川さんの選んだ新譜の内の「スペインの姫君」は今でも私の気に入りである。札幌に未だグランドホテルのない時分に小樽は既に北海ホテルを持ち、パーティにレコードコンサートに活用されて居たのである。

さてバス停はいずこならんと支配人の「つつしんでまおす」を読み終って歩を進めるとホテル付設のバーも尾羽打ち枯らしてひっそりと解体を待って居る。お前も消えるのかと暗然とすると共に目で建物をなでさすった。

親のすねかじりの分際でかかる高級バーへ出入りするはずはない。三菱銀行へ近江さんが本行での入社後の修行を経えて小樽支店へ転動して来てから御馳走になったのがきっかけである。

私たちが高商時代を繰り展げた舞台はそうたんとはない。北海ホテルがいつ建てられたか知る由もないが舞台の一つである北海ホテルが姿を消すとは「戦さの始め」も遠くなりつるかなである。旧館は決して仏様ではないのだが冥福を祈って先を急いだ。越崎さんの会社を訪問して帰る時舞台再訪の積もりで南樽から㊉への通りへ歩いて行ったら「モロッコ」「巴里の屋根の下」を見た。松竹座は既になく跡地だけが空しく残って居た。

ルナールの「にんじん」を取り寄せてもらった左文字を過ぎ、角に越路のあったおこばち川はすでにコンクリで蓋をされ全幅が道になって居た。足下のおこばち川を一寸さかのぼって右折すると電気館通りの一街区手前である。この街区の右手に北海ホテルの新館が十一日から開館する運びになって居た。昭九会の三十五年祝賀パーティは是非ここで開いて建物はことなれ北海ホテルと旧交を温めたいものである。



東京都渋谷区千駄ケ谷5丁目27番5号
日本製粉株式会社
副社長　伴　素彦
みんな健康粉食で……
小麦粉なら
ハート印（ビタミン入）

シゴキと忍耐

＝知らされた高校生の一断面＝

蟇目英三（昭一一）

甲子園の全国高校野球大会が終ったと思うと間もなく、来年度の全国選抜野球大会の予選が始まった。もう三年生が加わらず、二年と一年で各チームが構成されている。秋晴れの日曜日、先輩の本間広松氏（神戸支部幹事長—昭八）から電話があり〃お前ひまか？グランドへ行くのだが十一時半までに来い。車が待っているから……そして景色のよい所だから絵を描く準備もしてなあ〃との事であった。私にはひまなどある訳はない。

今日の予定は幾百枚も貯っている緑丘関係の写真とフイルムを整理する日であった。彼から電話の来た時はすでに部屋中写真を拡げて作業を開始していた。編集屋というものは何時も必要な時に必要な写真（又はフイルム）を抜き出せる整理が重要な仕事であって、また一番手のつけにくい仕事でもある。

何ケ月かに纒めて整理するのであるが今日がその日、そして一時間や二時間では完了するものでなく二、三日はこれに消費するのが普通である。一日アルバム三冊。フイルムはアルバムカバーにタイトルを入れて五冊位が軽ろうじての作業量である。折角のご好意にこの貴重な一日を棒に振って飛び出す決心をした。

本間邸に着くと彼は待っていたと許りに、自動車の置場へと急いだ。

営　業　科　目

日立商品	日立汎用機	日立冷凍機	電気工事
業務用電気品	各種搬送機械	パッケージ型空調機	各種工事設計施工
ホイスト	ホイストクレーン	各種冷凍機	高圧受配電設備
モートルブロック	各種ポンプ	各種暖房機	低圧配電設備
変圧器	送排風機	除温機ショーケース	冷暖房設備
熔接機	電機圧縮機	冷機応用品一般	電気配電相談
電動工具			
各種電動機			

日本電氣機器株式會社
取締役社長　天野雅司（大正15年）
本　社　大阪市北区曽根崎新地2の50　TEL (361) 8871〜9
神戸出張所　神戸市兵庫区西上橋通り1の1　TEL (56) 5306

楽我記

すでにそこには運転手がエンジンをかけて待機中であり、その人が市神港高校の野球部の副部長であり、私が本間氏の先輩であると紹介された。変な紹介ではあるが先輩の心の中には何か仕掛けがあるであらうとそのまま車の人となった。

神戸市内を通り抜け山中を約四、五十分走った。そのうちに神戸電鉄と平行に走る道に差しかかり右折左折の末目的のグラウンドに着いた。このグラウンドは約七千坪あるといい、この土地購入には本間氏が同校P・T・A会長時代に安く入手したものらしい。この敷地には二、三十人は宿泊出来る一寸したホテルという真新らしい合宿所も建っているし、すでにグラウドは高いフェンスを廻し甲子園球場よりも遙かに大きいものであった。

九月とはいえ月のはじめはやはり暑かった。もう高校選手は集ってキャッチボールを開始していた。K大学の元選手という監督が入場。間もなく全員に集合がかかった。全員急いでグラウンドの片隅に集った。監督は高校生よりむしろ小さい位のガッチリした小太りの青年であった。集った選手は不動の姿勢で円陣を作り、誰れか一人が監督に指名されて一歩前進した。西から吹く風に乗って低い落ちついた罵声が時々聞えて来る。それは訓示らしかった。こんこんと訓していた。二〇分を経過したがこの訓示は何時はてるともなく続いた。何を監督は叱っているのだらう。

時折り荒々しい罵声が飛び、いまにも一人の選手をなぐり飛ばすのかと思われた。自分がかって軍隊時代に見た説教以上のものを感じたが、さすが現代のシゴキは手を出さなかった。三〇分はとうに過ぎている。選手はカンカン照りの中で一人も不動の姿勢をくずさず立ち放しであり、これらの選手のこのような訓示に耐えられるのは野球練習中の苦しみ以上だらうと推察したが、監督もまた立派なものである。本間氏の解説で判ったのであるがそれはあの選手のユニフォームの洗濯がなっていない事と脱いだユニフォームの整頓の悪い事を約四〇分に渡って説教しているのだとのことであった。そのジリジリと迫っていく訓示には両者の辛抱強さに唯感心した。

解散すると再び走って配置につきバッテングや守備の練習が開始された。一方ではピチングの練習も開始された。グラウンドを往復する選手は本間PTA役員の前を通過する時、必らず停止して帽子をとり一礼してまた走って行く。それが一人ではない。みなこのように礼儀の正しい若人であるのを見た。バッテングや守備の悪さに対する叱り方はすぐにでもこの練習をやめて退場せよ、野球選手を今から止めろというきびしいものであった。プロ野球の練習を見たことはないが、今でも運動の選手というものはこんなにきびしく鍛えられるものであらうか。しかもこの学校の女生徒が全校の六〇％だと聞いてさらに驚いた。

全国の代表者に交じって甲子園で戦った選手だけあって誠に秩序正しいものであり、キビキビした練習を見せて貰ってP・T・A会長とともに夕暮れの神戸に戻ったのであった。その時の自動車の中の話にあの調子では選抜予戦で落ちるのでないかなあという。素人目には相当よい線に入るのでないかと思ったのに準決勝までもおほつかないのでないかという批判にはただおそれいった次第である。貴重な一日は別な意味で自分が訓練された一日であった。

日本最初の食品コンビナート　昭和産業

船橋工場

事業部門　製粉・油脂・ぶどう糖・食品・飼料・倉庫

昭和産業株式会社

取締役社長　松本浩三

本　社　東京都千代田区内神田2丁目2番1号
支店出張所　大阪・名古屋・札幌・仙台・神戸
広島・福岡・横浜・鹿児島・高松
工　場　鶴見・神戸・船橋・上尾・水戸・太田

去年の今日

馬場清義
（緑丘会福岡支部長）

われ等の恩師マッキンノン老先生夫妻とリンコナー夫人の九州案内役を承って、福岡から車を駆って別府埠頭にお迎えして互に懐しの対面をしたのは、ちょうど昨年九月二十四日—今日の夕方であった。

早いもので満一年の月日が流れた。ご承知の如くマ先生は緑丘会の日本招待公式日程五十日の「ランダム・ハーベスト」を最高のムード裡に過ごされ、更に心ゆくまで日本の秋色を観賞されて尽きせぬ思いを残して故郷バークレーに帰られたのは十一月の中旬だったと記憶している。

昨年の十二月上旬の日付で先生からのねんごろな礼状が着いた。エヤーメールであった。

私はそれを懐しく幾度も読みかえした。また日本文にして社の朝礼時に社員達にも披露したことであった。マ先生一流の名文で、その書き出しには…ここ加州では今が年中で一番雨量の多い時で、庭の木々の間にはピオニー（芍薬）が用心ぶかく堅い蕾をもたげている……と身辺の景を叙し、最後に教え子達から受けた「山よりも高く、海よりも深き真情は終生忘れることではない」と結び、日本に対する綿々たる恋慕の情を綴られたものであった。

私は、かのジャガタラ文をみるような余韻を禁じ得なかった。

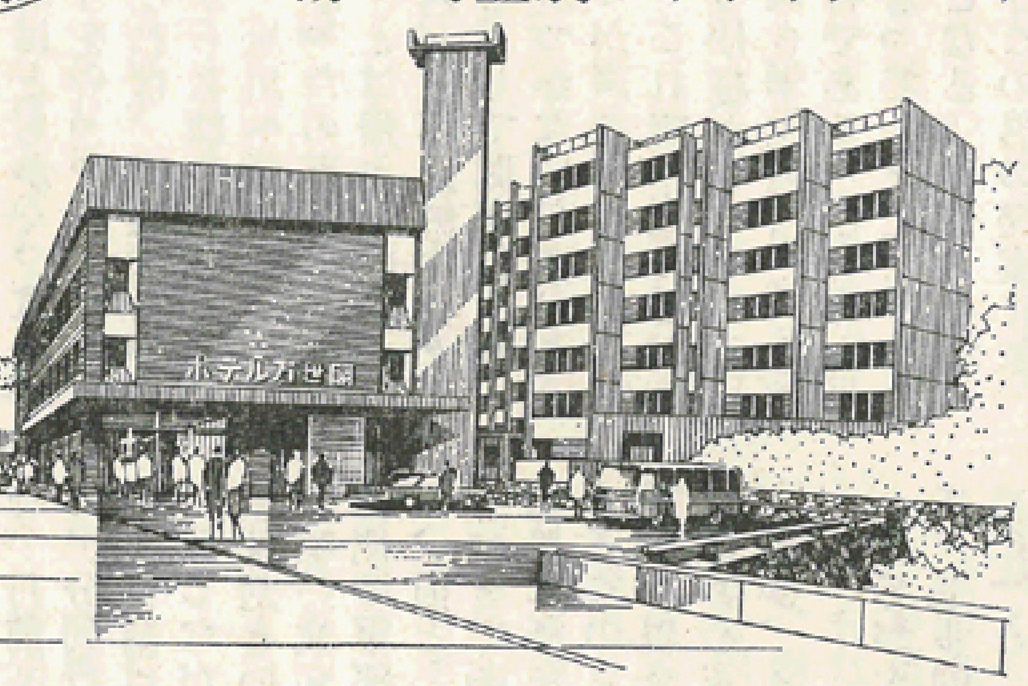
私は「ライオンズクラブ」の福岡中央クラブの一員だが、私共の機関誌「ザ・ライオン・イン・ジャパニーズ」の六八年二月号に「マ先生をお迎えして」という拙文を寄稿したのであったが、この一文がはからずも同誌の六七—六八年度のBEST ESSY（優秀随筆）に入り同誌9月号に発表され、立派な賞品さえ頂戴し望外の驚きでもあった。まったくもって予期せぬハプニングだったからである。

蓋し吾々緑丘会員の恩師に対する真情の発露、小さな善意がライオニズムの綱領と一致共感による入選であったであろうことに思を致すとき私は、改めて故苦米地英俊先生並にその遺志を継承して、あの企画を立派に果された実行委員各位、また、全緑丘会員に今も感謝の念でいっぱいである。

〈昭和四三年九月二十四日誌す〉

登別万世閣　新装オープン

湯の町登別にデラックスホテルが誕生しました。



洞爺万世閣のチェーンホテルが登別温泉に新しく仲間入りします。本館鉄筋4階新館鉄筋7階建。お部屋から望む庭園と渓谷のただずまいは静かな温泉郷の風情があふれることでしょう。

★ギリシャ風大浴場

古代ギリシャ風壁画を使って豪華な古代文化の雰囲気を味わえます

★純和風のサービス

お食事はすべてお部屋へお届けし、家庭的なサービスでおくつろぎいただきます
お料理は万世閣自慢のひとつ、季節の味、郷土の味をぜひどうぞ

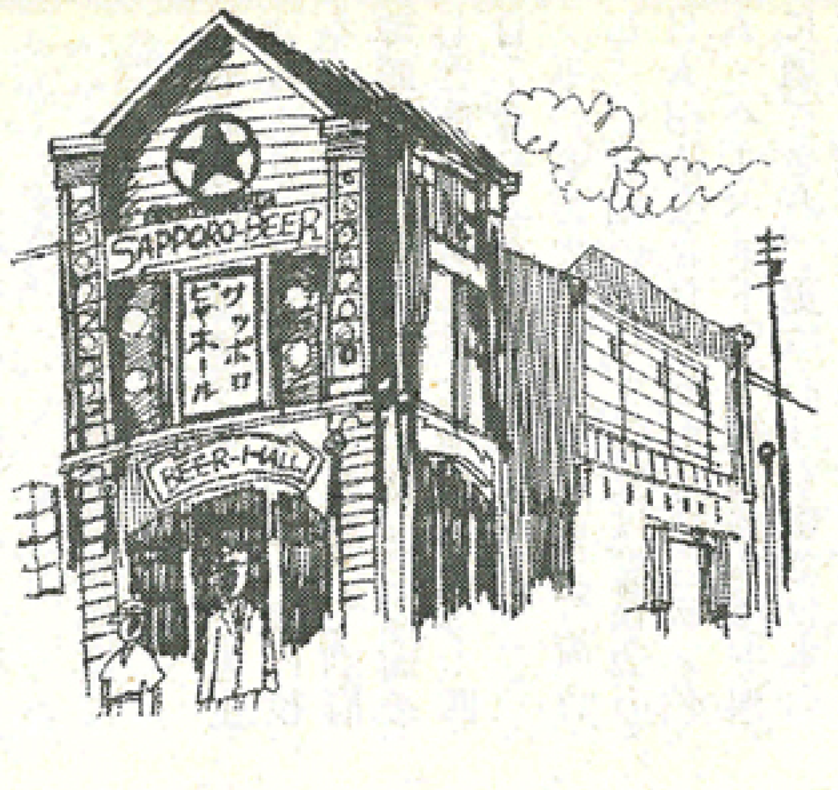
●施設
《新館》鉄筋7階建
《本館》鉄筋4階建
平面建坪　920m²
総建坪　4,810m²
客　室　70室（和室68　洋室2）
宴会場　大小3室
収容人員　200名
浴　室　大浴場1（ギリシヤ風呂）
婦人浴場1　家族風呂8
その他　売店（土産品など）
喫茶、ダンスホール

登別　ホテル（政府登録予定）万世閣
電話　登別（01438）4－2266

●チェーンホテル洞爺湖万世閣・洞爺湖第一ホテル●札幌案内所(25)8570　TLEX 932～379

小樽夜景　一九二六年—七年（前承）

那珂　捷（昭　二）



二回目の前文

さて、この第一回が前号に掲載さたところが、同窓の知友から、急霰の如き喝采がくるかと思ったら、飛んでもない、轟然たる非難と指弾が殺到した。

その総てが、まことに、ごもっともなのである。

高邁なりし小樽の学究時代に、そもそも、（夜景）とは何事であるか。俺達は文字通り日夜蛍雪の三年を送ったからこそ、今日あるのだが、お前は、夜中のみ這い回って、いったい昼間はどうしていたのか。学校は昼間だった筈で、我々の夜間は、寮、下宿、図書館等に於て、蛍の光窓の雪明りで、深奥無限なる経済学説を、寝もやらず勉強していたのに。斯様な記事は『緑丘』と、我々の品格を落とすことになるぞと、いうのである。

判りました。みんな、私が悪いのです。すみません。すみません。

×　×　×

えっと、どこまでだったたか。そう、軍事教練の将校を排斥するくだりだった。あのあと、数年も経っていた時ならば、このような大それたことをやる奴等は、総て特高、憲兵隊によって、即座に逮捕され、百叩きの刑となった筈であるが、何しろその折の時点では、在学中に出身地で徴兵検査を受けるのだが、その時は、万一にも採用されては大変、大体十日ぐらい前から毎日生醤油を一合づつ呑み＝これで躰がやせ細る＝連夜深酒を無理にも呑んで、半ば徹夜を重ねる、その上句に検査当日は蹌踉として検査場へ出向く。すると検査官は、『ウン、まあ安心しなさい。君は丙種だよ』といって、ペタリと幸運の印を捺してくれたものだ。万才である。これで一年志願（といっても今の人々には判らぬだらうが）の必要もない。何とも芽出度いということになった時代だ。

それなのに、何でその頃、現役将校を軍事教練に派遣したものだったかねえ。

その本当のわけはともかく、軍教反対という大騒ぎをやっていても、警察も出てこなければ、憲兵隊もやってこない。だから教練をサボッては、『〇〇少佐、旭川へ帰れ』と怒鳴っていればよかったのだが、この少佐は、そう安々とは帰ってゆかない。第一、御本人が、不逞鮮人云々といったのが、どうして問題にされるのかが、理解がつかないので、これでは如何に我々が声をからしてもダメなのである。これでは果てしがつかん、さてどう仕様かとなった時に、一人の智恵深き学生が出てきた。＝それが筆者である、といいたい処だが、そう言ってしまえば、この文章が、ダメとなる。いや、拙者ではありませぬ＝この男の発案に依って、次のような宣言文が発表された。

『わが敬愛するN老教授は、たまたま先般の関東大震災に在京し、教授のトレードマークであるところの泥鰌ひげの故を以って、不逞〇人なりと見誤られ、すんでの事に遭難するところであった。これを以って見ても、当時の流言、不逞〇人来襲云々とは、世紀の大間違いであった。震災の余燼未だ全く消えたとは断じ得ぬ今日、朝〇人を対手にこれを殺傷すべしという想定は何事であるか。

我等も朝〇人も、コレ皆、畏れ多くも一天万乗の大君の赤子であるぞよ、然るに……云々』

この一発で、万事は決着した。目標の教官少佐殿は姿を消し、毒にも薬にもならぬようなのが、替って着任した。吾等は、おとなしく村田銃を再び担いで、本館前庭の芝生の上を、丹前を着流して、高下駄をはいて、分列行進に専念しはじめたのだから世話はない。

然しながら、吾が赤色旗組が、軍教反対というテーマに、大元帥陛下を唄い文句に担ぎ出して、その大元帥側の軍部を逼塞せしめたというのは、何としても、奇妙キテレツというべきであって、奇策着想の妙は、此処に極まったといって良いだらう。このようなやりかたに類する妙策が、現今のヘルメット角材、学園封鎖さわぎの中に、応用の手はないものか、イヤコレハ、余談デアル。

『吾等が大君の同胞、朝鮮人のために。進歩的なる吾等同志の勝利のために』と、一杯七銭の生ビールを止めどもなくあおって、愉快々々となっていた所が、公園通り中央の『高橋ビヤホール』である。

元は白かったらうが、これがネズミ色に変っている四壁に、床はセメント荒だたきで、テーブルと椅子は、鉄造り、その脚はすべて、セメント床に塗りこめてあって、決して人力では動かぬ。これは主なる顧客の高商学生が、常に狼藉を働くので何としても壊れぬように仕掛けてある。如何にも殺風景な内部なのであった。どう好意的に観ても、何やら病院の屍体仮置場を思はせたが、屍体置場ではない証拠に、壁面に一枚、極彩色の石版刷りのポスターあ

り、耳かくし洋髪に結った女優風の若い女が、当時としては手一杯の肌も露わに、流し目でニコッと笑っていた。サッポロビールとある。＝現同社大重役石田君、このPRに、ナンボか払ってはくれまいか＝イヤ、コレハ冗談。乳色ガラスの電灯蓋は、ふちが牡丹色で、これがたった一つ中央にぶら下がっていたな。

この広々とした屍体置場に、給仕女は二人、一人は、顔色悪くむくみ気味の大女で、これの仇名が、ジャイアントという。命名の高商生語学力察すべし。も一人の方は、当時はパーマという文化語法未だなし、棒のようなコテバサミを焼いて、髪の毛を縮じらす。美容院など、まだ日本には無い時代で、髪結い床屋でやるか、自分で鏡台の前で縮じらす。さながら雀の巣の如く、チリチリと饅が立ち昇ったようになっているがこれが高尚とされていた。両頬へは頬紅を塗りすぎ、眉毛は、活動写真の『外国物』のヒロインを真似て、人類骨格の原則を無視した全く違う方向と位置に黒々とマユズミを描いた。この二人が、止めどもなくビールを運んでくるのだから赤色革命尖鋭分子連も、ものの一円（約十五杯）も痛飲すると、支離滅裂となり、やがて『高く樹てえ、赤旗を。卑怯者、去らば去れ』と高唱し、小樽警察本署の前に差し掛るのである。

『オイコラッ、かかる夜更けに放歌高吟とは何たることかチョットコイ』

『何をッ、ポリ奴が』

途端に検束された。

『ポリとは何だ』

『ポリスというのは、英語で巡査警官のことだ、英語を使って何が悪いか』

逮捕の主因は、高く樹て、赤旗をではなく、ポリめであった。

『ポリスはまあよろしい。然し『め』とは何か。我等警察官は、畏れ多くも天皇陛下の警官であるぞよ。然るに『め』とは許せん。豚箱にぶちこんでやる』という次第で、五燭の電球薄暗い豚箱に入れられた。

天皇の御名を使って、現役皇軍教官を追放したのが、忽ち同じ御名に依って縛られたのも、因果応報、天罰の見本であった。

片隅から、むっくりと起き上ったのは、これが妙見川のヒゲの俥屋。

『何だ何だ、高商のゴミ共が、此処へ来るとは、こりゃ見直したなあ、何をやった』『イヤナニ、一寸巡査を張り倒したんでネ』

『なかなかやるぢやないか、上出来だ、まあゆっくりして行けよ』

と、此処でヒゲの俥屋と肝胆相照らすことになった。彼は、紅灯街へ往来する姐さんがたを乗せるのが専門なので、芸者衆の公私万端に通じ、どれが、どうすれば、どうなるとか、どれには、あんまり手を出すなとか、この方面の優れた顧問として親身なパイロットとなる。

後に、公園グランドに於ける対北大野球戦がコジレて、その夜双方の応援団が、花園町踏切りで乱闘とならんとした時、此処は俺に委せろと割って入って、路上に大の字となり流血の惨事に到らさず収めたのが、このヒゲの俥屋である。

さて、話を戻して、公園街かいわいの夜色に戻るべきか、いや、もはや町の中から離れて、歩を波止場の方へ向けるべきだらう。

ひび割れのある壁の倉庫が立ち並ぶ、堺町から西の方へ。寝静まった町並み、北海道へ移り住んだ関西商家が、忘れ難き思いで、故郷のそれとその侭に造った、問屋の店舗、入口が格子作りで、奥に細く延びるのだが、それらの軒先きも闇に沈んで、向うから影を長く曳いた長身の男。数少ない街灯の逆光線である。

『ヘイ、ハブ　ア　チエスター？』（莨あるか）が縁となって、これが帰船の便に遅れた英国船籍、デボンシヤ号の無線技師、沖の本船に帰るにも、サンパンは寝てしまって何とも方法がない。今迄なにをしていたのか。聞かなくとも判るだらう、方々ほつき歩いたが対手にしてくれなかった。（それはそうだらう、女が毛唐を有難がるのは戦後のこと）それは可哀そうに。俺の下宿へ来るか、一と晩泊めてやらう。

浅燈影淡くなった高橋ビヤホールの閉店間際を、無理に頼んで、数杯のおかわりを割勘でやって、その裏手の吾が宿で寝かした。白面のヨークシヤー出身の青年技師であった。

翌朝、寝呆け眼で波止場へ出てみれば、堂々たるブルウファンネルの巨船の蔭に、錆止めの赤い光明丹の塗りかたも出鱈目な、今にも沈みそうなのが、こいつの本船であった。ともかく俺の部屋まで来てくれとてサンパンに相乗り、狭ま苦しい無電室に入る。彼のベッドに横になると、宿酔でついウツラウツラ。

『おや、動いているようだな』『出帆した』『そりゃ弱ったな、何処まで行くのか』『ハコダテ』

それならば、国内の航行だ、まてよ、今更泣き叫んで、帰せ帰せは見つともない。小樽の街と丘を眺めながら、赤錆びのデボンシヤ号は赤岩の岬を回る。

メスルームで、塩からいシチューを喰はされているうちに、次の日の夕方、函館に入港した。小樽同様に背後に山丘あり、灯火チカチカ、港とは平地では風情なく、海の旅人には山の迫る港こそ、何やらの懐ろに抱かれる思いを与へるものか。税関無罪放免、また小樽へ汽車で戻った

×　×　×

どうにも筆力不足で、折角の掲題、小樽夜景とはこりゃ一休なんだ、自分の莫迦な生活の思出に止ったではないか。その通りでした。すみません。でも、一番初めにお断りした通り、これは非具象派の絵です。タテも、ヨコも、上も下もないのです。

税金百話（四）

北條恒一
（昭一五　税政評論家）

とられないための"税法"

近頃、私は税法とはなんであろうかという想念につきまとわれている。この想念は、学生時代に「生きる」ということはなんであろうか、「生存」ということと、「生活」とはどのような距離があるのであろうかと悩み、デパートの食堂などで、よそのひとが食事をしている姿をみて、人間はなんと淋しいものじゃないか、食べなければ生きてゆけないなんて……と、浮世ばなれした時代が、ふたたびよみがえったようにしつっこくつきまとうのである。

法律にきめられたところに従って、国民は納税の義務があるその法律が各種の税法である。国家が国の財政需要を充たすために、国民から租税を徴収しなければならない。そのための法律だとすれば、国家が税金を「とるための法律」である。日本での租税制度の歴史的な発展過程を考えてみると、まさに「とるため」のものにちがいない。江戸幕府時代には、生かさぬよう殺さぬように税金をとるのが、政治の妙諦とされていた。みち足りた豊かな生活をさせると、幕府をたおすことだとか時の治政者にとって甚だおもしろくない思想が充満してくるからそのような思索もできないほど忙しく働かせてやれ、しかし、死んでしまったのでは税金のとりようもないから、殺さない程度にしぼりあげようというのである。日本の租税制度をめぐって、税金をとる側の政府も、とられる側の国民もいまだにこういう考えがついてまわっているため、税法は「とるため」にあるのだという観念からぬけきっていない。

しかし、そうでない考え方もあるのじゃないか。国民の側からすると或る程度までしかとられないようにするために、税法があるのじゃないかという考えが、私の頭をうろちょろしだしたのである。国家の権力は大きい、その大きな権力によって国民からどのような方法にせよ法律をきめさえすれば、税金をとることができたのであるが国会で新しい税法や、税法の改正を国民の前にさらけ出し、さまざまな議論を繰り返えすことによって、この程度までしかとってはいけないのだという規範を作ったのだと考えれば、或る程度までしか「とられないためにできた法律」だという考え方もまちがいではあるまい。こんな想念がつきまとっている或る日、それは昨年のことであったが、私は当時の国税庁長官の泉さんと会ったのである、

泉長官と或る問題について、長官室で二人きりで話し合っていたとき、私は「とられないため」の税法という考え方が、近頃、頭から離れないのだということを話したところ、たしかにそういう考え方も成り立つのだ昔の欧州の歴史をふりかえってみると、王侯をはじめ治政者が自分達の贅沢のために、人民からどんな収奪をしたか、しぼれるだけしぼったものだった、そのために革命がいくつかおこっている、そして人民が自らの手で或る程度しか「とられないため」の法律をつくっている。だから私の考え方も成り立つのだという説明だった。私は欧州の革命にまでは考えが及ばなかったが、まちがいでないという確信を深めたのである。

ワンちゃん、ご苦労である

「不労所得」という言葉があるが、労せずしてなにがしかの価値あるものを取得することである。所得税をかけられる所得である。事業所得、不動産所得、農業所得、給与所得、譲渡所得などとはカテゴリーがちがう。

私は大好きで子供のときから犬を飼うことになにものにもかえられない喜びを感じていた。一昨年二月に純粋の柴犬を死なせてしまった。たまたま私は東南アジア数カ国へ出張して、二月の下旬に帰国したところどうも「太郎」に元気がない。夜は家の中であっちにごろり、こっちでごろり、寝るときは私のふとんの側でぬくぬく眠り、私が寝坊すると顔をなめて起す始末であったが、なんとなく大儀そうにしている、獣医にみてもらったが胃が悪いとのことで、二三日すれば治るだろうとたかをくくっていたところ、月末のある朝、誰も知らぬ間に死んでいた。

北海道の親戚でグランド・チャンピオンをとったマルチーズという可愛い室内犬を飼っている。その犬の仔が十月頃生まれる予定だから、それをわけてもらおうということになっていた。五万円で買った犬だというのである。一回交尾してもらうのに数万円かかるのである。五万円で買ったのは確かであるから、売主は仔犬一匹について、大体五万円の収入があったわけである。この収入は一体なんであろうか。人間である飼育者自身がおなかを痛めて生んだわけじゃない。自分は労せずして、愛犬が生んでくれたのを金と引換えによそにやったのである。「労した」のはお犬様である。母親である犬は仔犬をとられるときは、さめざめと泣いて吠え、人間は大変な悲哀を味わして、働かずして対価を得たということになる。この収入はなんであろうか。所得税法上何所得になるのであろうか。業にならねば問題にならないところに問題がありそうである。

また、牝犬を牡犬のところへ連れてゆく、そして交尾してもらってお金を払う。人間の世間では考えられない話である。——どなたですか、俺も始めようかなんて言っているのは——これだって飼主である人間は「労して」いるわけじゃない。牡犬の飼主は、あああこれでまた×万円もうかったとホクホクしながら二匹の奮闘ぶりをみているであろうし、牝犬の飼主は、これでうまく五匹も生まれりゃ、交尾料の×万円なんてやすいものだと、ほくそ笑んでいるであろう。馬鹿——これは失礼——なのは犬である、うまうまと搾取の材料にされているわけだ。「ボクにもリベートよこせワンワン」なんてやるわけにもゆかない。こういう収入も一体全体なんていう所得にしたらよいのやら。

政治家に対する政治献金というのも、うやむやのうちにわけがわからなくなってしまうものだが、それ以前の問題である。だけど政治献金よりは、たおやかでユーモアがあるじゃないか。税金もここまでは追いかけない方がよい。ワンワン。

英語の穴

白井孝一（大一四）

一寸した発音のまづさ、違いで飛んでもないことになる。

札幌国道の快適なドライヴでうっかりすると見落すかも知れないが、途中にドライヴインの積りかトラベラー・ハウスというのがある。とこ ろがべがブとなっている。だれも注意する者もないいつまでもそのままとなっている。

Traveller House
〃
Troubler

これでは長距離輸送の運ちゃんが喧嘩する筈。

次は苫さんが英国留学から帰られた折り聞いた話。トイレに入ったら誰がいたづらしたのかiを消してinを加えたしやれ。

Toilet（to let in）

もう一つ。筆者が一年間進駐軍のブックキーパーを手伝っていた際、キャプテンが盛んにカミソリ剃刀という。何のことやらさっぱり解らないでいたら女の子から教えられた。何のことはない兵站部のこと。

Commissary（kɔ́misari）

米人は母音のオをアと発音するくせがある。

穴原稿募集

四〇〇字原稿用紙一枚以内でお願いします（成る可く十六行位）毎月二〇日締切

総合病院
日本生命済生会付属
日生病院
大阪市西区立売堀南通4—11
TEL大阪（06）532—1561（代）

万国博を成功
EXPO'70
させよう

戦塵録（十一）

＝苫米地英俊日記＝

（小樽高商三代校長）

八月十三日

ソ満国境、北鮮は長日月に亘り防衛を固め、精強を配して居た所、部隊の大部分が南方や沖縄に移動その又大部分が消耗されたとはいへ、国境がこんなに容易に突破されようとは思わなかった。ハイラルがすでに包囲され敵は北満中央突破の歩を進めている。これは本土決戦ではないかも知れぬが樺太では敵が既に上陸して来ている。不仕末腑甲斐なさ、それで国民に許り気合を掛けて何とする。

「石炭阪神輸送に非常措置」なる記事、九州炭すら本州に入らぬ有様、道炭も無論行かない。戦力増強、本土決戦万全、信じられぬ事。

外蒙も対日宣戦（八月十日）

「悲惨戦後欧州の国民生活」読んで見て想像して来た事に比し、寧ろよい位、我が国が敗けたとなったらこんな事では決して済まない。

今日も冷気身に迫る。飢餓が迫り来る足音がきこえる。

今日も亦冬や来るとおもほゆれ
足音高く飢餓迫り来る

七時のニュースで新型爆弾が原子爆弾であることを表明、五〇〇米の高度で炸裂、被害範囲八キロとの事。

関東地域へ艦上機八〇〇、朝五時半―一七時半に亘る。九州へは戦爆三一〇。

此の状態では戒厳令が施かれ軍政施行のため内閣交迭もあらう。明日か明後日か。何れにしても近いこと。

八月十四日

何となく世間の空気がおかしい。落着きがないのだ。それは中央の態度に割り切れぬものがあるからだ。国民を暗中模索、総てを内攻せしめて居るから必然的にそうなるのだ。

或る者は且に平和を口にしている。或者は不相変必勝を唱へている。自分は今は意見を述べない。問うものが有れば「街の姿を見よ、それが日本の姿であり、勝敗はその中に見出せる」と問答を終結に導いた。

最後の五分間に我が戦局のあるを知らず、本土決戦を今も夢見ている。なさけなくなる。

七時のニュース、遂に入らず終り頃に「次の放送は九時」とある。

演芸放送中止、これは「哀である」「国哀」何が起ったのか知ら。九時のニュース復々容易に入らず、終頃「明日正午重大発表があります。昼間送電しない所も送電します。国民一人残らず聞いて下さい」と繰返し〳〵いう。

「無条件降伏」そんな事であらう。否そうではあるまい。ポツダム宣言には「戦争責任者の処罰」の一項がある。これは受諾出来まい。最高責任者は上御一人である。下村情報局総裁談に「正しく国体を護持し、民族の名誉を保持せんとする最後の一線を守る」とある。皇室御安泰、これは可能であるかも知れない。が他の責任者処罰問題が起る。

上御一人は皇室さへ安泰なら臣下の処罰は致方ないとは仰せられまい。敵国にしてもドイツとの関係もあり、此の処罰問題は引くまい。

これが最大難関である。結局軍が押し通すか、池の方が勝つかの問題。阿南陸相は「神州護持の聖戦を戦ひ抜かん」という。総裁は別の最後の一線を持つらしい。内閣は一致して居らぬ。皇太子殿下の官制が急に定まったも何か縁故が有りそうだ。迷う判断に、自分も最後迄戦うものと一応考へておく。学徒と共に戦死の覚悟をきめているのだから。

八月十五日

朝五時、六時、七時、何れのニュースも入らず事頗る重大、東都の混乱思ふべし。新聞来らず、登校する。「陛下御自身の放送と七時二十一分に発表」と聞く。ああ来る可き所へ来たなと感じた。しかし教職員には「最後軍政下戦陣に立つ覚悟せよ」という。生徒は校庭、使用人は宿直室、教職員は校長室で詔書御朗読を拝す、流涕やまず。

茫然として一時半帰宅、新聞来る。詔書を掲載「他国の主権を排し領土を侵すが如きは固より朕が志にあらず」と仰せられている。誰がそれを疑う事が出来よう。それを此の過てる道にひき入れた臣下は果して誰であるか。その罪万死に値する。国民も上御一人と同じ心であったのである。五・一五、二・二六その池の暴挙により国を引ずって戦争に飛込んだのは誰だ。国民はそれすら明確に知り得ない。そんな政治が世界の何処にある。

「朕が陸海将兵の勇戦、朕が百僚有司の励精、朕が一億衆庶の奉公各々最善を尽せるに拘らず」と仰せられて居るが実際はどうだ、穴に入り度い気持がしないか。今も尚鉄面皮責任を他に帰して知らぬ顔か。腹立たしさ限りない。

「世界の大勢亦我に利あらず」と仰せられている。之もその通りだが米英の謀略によらずとも、同情が我が国に寄せられると考へ得る理由は乏しい。自分は或軍人に「ここは占領地ではないぞ、我々は被征服民ではないぞ、これでも皇国民の一人だ、今皇国の官吏として国家の機関として折衝して居るのだ、軍の威をかりて、傘にきるとは何事ぞ」とついこの頃も云うたことがある。

次に原子爆弾の惨害についての仰せがある。それは確かに人類史上大変革を来たす可き新発明だが、それがそれ程多量に出来て居るとは考えられない。それがなく共勝てぬ戦さ、その上ソ聯参戦では話にならぬ。これはよい潮時、無念ながらそう認めざるを得ない。「帝国臣民にして戦陣に死し、職域に殉じ、非命に斃れたる者及其の遺族に想を致せば五内為に裂く、且戦傷を負ひ、災禍を蒙り家孫を失ひたる者の厚生に至りては朕の深く祈念する処なり」と仰せられている。御仁慈深く感銘の至り、併し応召軍人、学徒、統制の犠牲者には一層同情される。職を軍に奉じ十分な御恩賞にあずかっている者と然らざる者との間に差が余りにも多い。教授などで高い地位にあるものが、よい年をして一兵卒。死んでも一兵卒だ。別世界とはいへ情けなくなる、その職域には尊い存在。こうした例は他にも多いことであろう。

「爾臣民の衷情も朕善く之を知る」と難有限り。

「国体を護持し得て忠良なる爾臣民の赤誠に信倚し常に爾臣民と共に在り」とこれも難有勿体なく拝せられた。が条約により言論、信教、思想の自由を規定せられた経済政策の今日の現状、国体に及ぼすことなきや、痛心ここにあり。

「若し夫れ情の激する所濫に事端を滋くし或は同胞排擠互に時局を乱り、為に大道を誤り、信義を世界に失ふが如きは朕最も之を戒む」と仰せられている。

稍々もすれば此の過失に陥りがち慎むべきである。最後に「総力を将来の建設に傾ける道義を篤くし志操を鞏くし誓て国体の精華を発揚し世界の進運に後れさらむことを期すへし」と御訓へになっている。

耐酸・耐蝕滲鉛加工・鉛工事一般
日本滲鉛工業株式会社
会長　大久保鹿弌（大正12年卒）
大阪市東淀川区木川西ノ町六丁目五
電話　大阪（392）1151（代表）

Mitsui O.S.K. Lines
大阪商船三井船舶株式会社
取締役会長　進藤孝二
東京都港区赤坂5丁目3番3号
電話東京（584）5111番（大代表）

税金を軽くする事典（改訂版）

北條恒一著

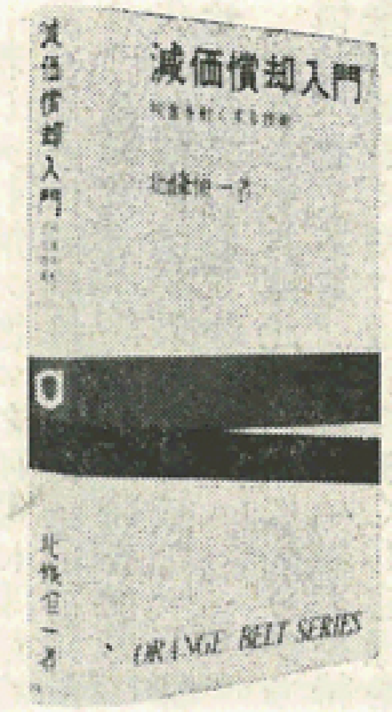
今年二月に初版を出した『税金を軽くする事典』は朝日新聞の「天声人語」（六月九日）にもとりあげられたことは緑丘六二号に転載のとおりであり、事典としての使命を果しつついろいろ話題をよんでいます。八月二十六日に全国一せいに発売されたこの書は、昭和四十三年度の所得税の計算方法に改訂し、それに若干原稿を加えた改訂新版であります。

我々の身辺に起こる日常の税金問題を解明する書として、そして合法的節税対策をたてておくためにも緑丘人におすすめする次第です。

定価　三五〇円
ダイヤモンド社

減価償却入門

北条恒一著

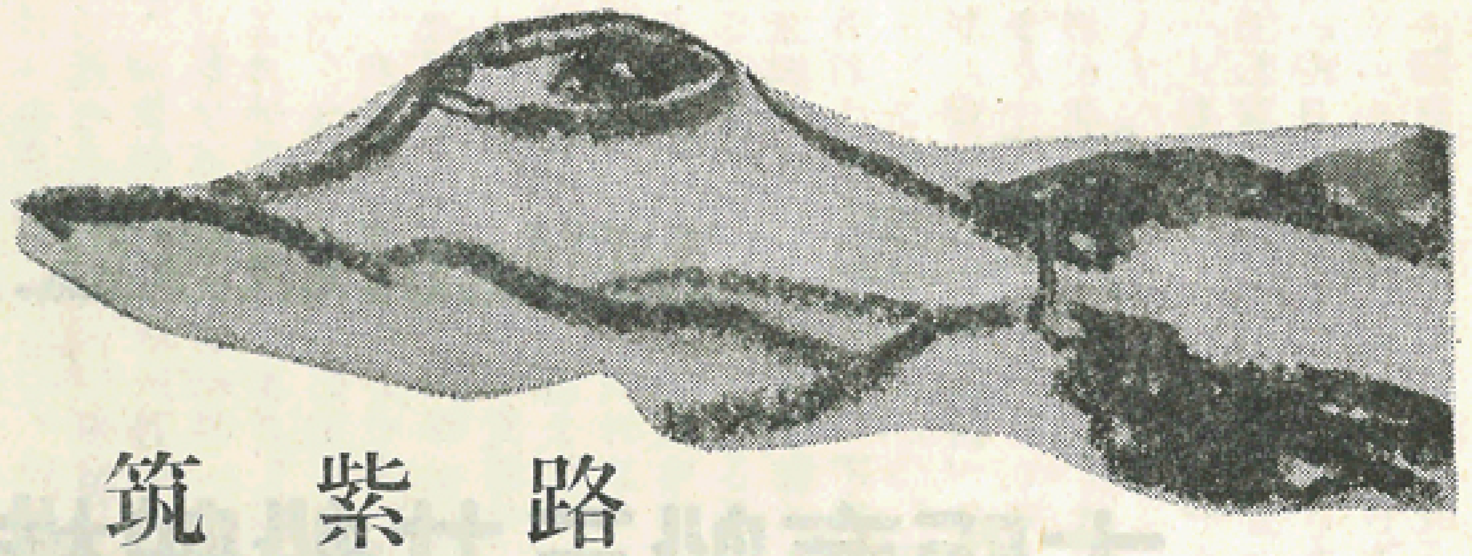


この書は経営実務叢書（オレンジベルト・シリーズ）の一巻として発刊された税政実務について専門的知識と貴重な実務経験をフルに駆使して書かれた〃生きた実践指針書〃であると巻末に西野嘉一郎氏（大一五）も書かれているが、減価償却に関する入門書であることは表頭の示すとおりである。

この書のはしがきにも著者が書いているが、税金の負担を重くするか軽くするかは減価償却をうまく計上するかしないかによって大きく影響することは論ずるまでもないが、この書は減価償却のことを詳しく知って戴くための入口を網羅的に整理し、これらの基礎的なことを充分身につけて専門的な分野に進んでいただきたいといっている。

本の構成としては問題を提起して読者に疑問を起させ、それに対し詳しく解答を与える手法を使っている。そして耐用年数表も付してその使い方を示すなど親切な実務書であり、中小企業、個人営業の方々も座右に一冊を用意されん事をおすすめする。

定価　五〇〇円
㈱実業之日本社



筑紫路

おのでらたすく（昭11）

鳴呼そはうぶすなのふるさと
遠い遠い四道の祖先(さき)より
ここに拓きし文化の都
華咲きし学問の泉
求むすべ何は何処ぞ
時廻り戊辰将百年
祖霊草叢に埋れ眠り安からず
人心荒廃とどまらざるを憂え
白虎の魂にわれ後れじと
かのオルレアンの乙女にも似て
一家眷門を捨て蹶起せし
雄々し君はも
振え立たなんふるさとのともがら
戊辰の傷恨未だ胸痛く
祖先の血潮未だ冷えざるを
戦はんかな友よ世紀の戦
高瀬を捨てじ高瀬に続かん
古き日は袂るべし新しき日は迎ふべし
巨き陽は昇るなり
新しき陽は廻るなり
古き世は去るなり
新しき世は来たるなり

胎動く会津

ひんがしの北国のやまざと
朝な夕な仰ぎつつ見る
赫き山
紺き湖
白き山脈

〃商学討究〃

久木久一名誉教授記念号

〃商業討究というものが今でもあるのか〃と聞かれる。

ここに紹介する商学討究は旧聞に属するので申訳けない次第です。一九六八年三月、久木久一教授が退官するに当って第一八巻第三号は同教授の記念号を発行した。

久木久一教授の退職を惜しむ
巻頭を飾って　実方正雄学長

久木久一名誉教授のこと
岡木理一教授

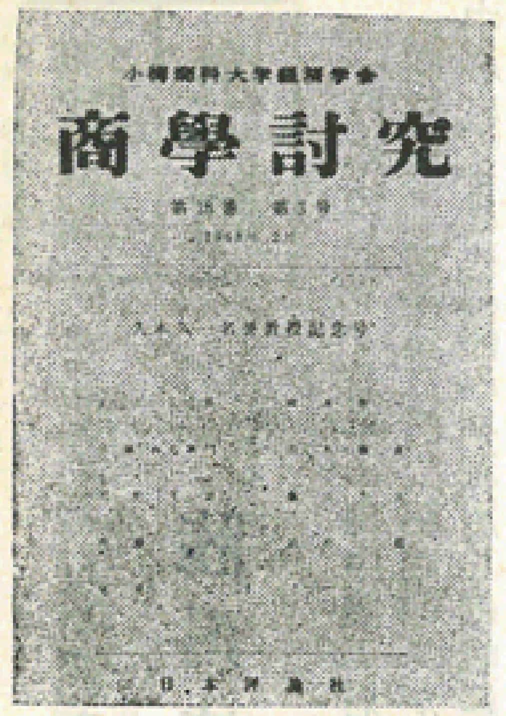
そして同教授の略歴と著作目録を付している。

尚この号には伊藤教授、鈴木、久野、早見三助教授、斎藤講師や、藤田、別府短大の教官が夫々次の題目で執筆されている。

「管理原則論」批判への批判　伊藤森右衛門
金融理論における株式の位置づけについて　鈴木満直
国際会計論序説　久野光朗
電子計算機による販売管理会計　藤田芳夫
利得償還請求権の消滅時効期間　斎藤　武
取消しうべき株主総会決議の追認に関する若干の考察　別府三郎
給与所得税の累進度（その二）　早見　弘

（発行所）小樽商科大学経済学会
（価格）一五〇円（送料五〇円）

尚昭和四十年十二月、第十六巻第二号は室谷賢治郎名誉教授記念号であり、「人文研究」一九六七年十二月第三五輯は木曽栄作名誉教授記念号である事を附記する。



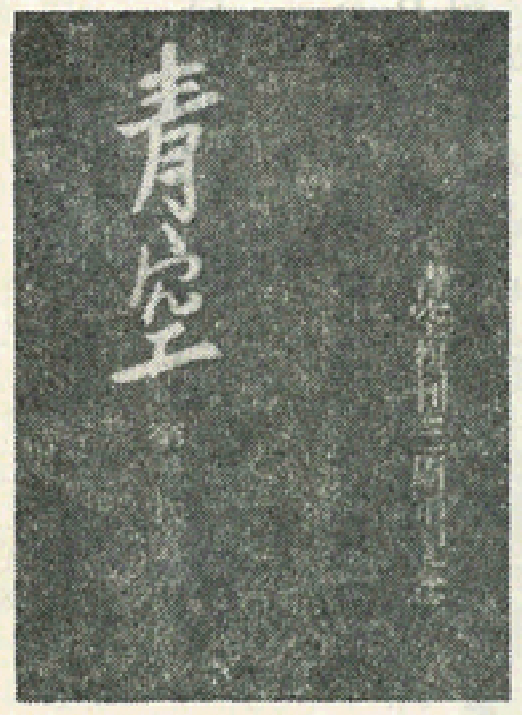
青空　第一歌集

―青空復刊三周年記念―

編集者は小田島思遠氏（昭一一）

〃青空〃は口語歌誌として北海道という地域的偏りを克服して順調に延びて来ている「歌歴三〇年以上の人から、作歌をはじて数ケ月の人の作品まで広く包含されているが〃青空〃の一つの誇りはこれ等の新旧の人が（並木）凡平を知っている人も知らない人も渾然一体となって〃青空誌〃を中心に歌作していることだ」という。四十一年九月復刊第一号を出した〃青空〃の発展を心から望む。

定価三五〇円・青空詩社



雲仙島原にて

旅なれば一夜は夢の島の宿
　明日は何処の星眺むらん
西海のあれは雲か天草か
　雲仙岳は雨雲の中
黄昏は人の住む島住まぬ島
　なべてがかなし夕海に浮き
不知火の紺き島々白き雲
　紫に昏る此の夕明かり

草千里高原にて

草千里山脈万里たそがれて
　阿蘇の山脈秋風ぞ吹く
秋に入る阿蘇の山脈草千里
　すすきの中に馬と牛寝る

大阿蘇

天つ影かぎろひ昏く風寒し
　大阿蘇山の火口に立てば
天つ日もさへぎり暗く煙噴き
　阿蘇の火の山響きやまず
バスに揺られかなしき歌はきく
　ものか　島原の山々紫にして

桜島にて

城山に夕風吹けばさいはての
　桜火の山色変へんとす
いくそたび色は変えつつみんなみの
　桜島山火の吹きやまず
島に生れ一世を旅の物語り
　短かく悲しき女のこの歌碑
　（林芙美子文学碑前にて）

緑丘余話

〝硬式庭球部OB〟大同団結なる!!
陸田清氏（昭二）の尽力で

一昨年の初夏、若手の田中隆二君（昭三九）斎藤慎二君（昭四〇）が中心になり、夏休みを利用し内地に遠征して来る小樽の庭球部員を何とか温かく迎え激励してやりたいとの事で色々と骨を折ったのがきっかけとなり、昨年六月連絡のとれる丈の庭球部出身者を集めてサッポロビールで集会を持ったが、その時、この会を「小樽商科大学庭球部東京O・B会」と名付け、会長に陸田清氏（昭二）を戴き爾後小樽商大庭球部の支援と会員相互の親睦と協力を目的として随時会合を持つ事とし、同時に全国のO・B諸士にも呼びかけて全国的な結び付き迄拡げる事を打合せた。

陸田氏は現在日本庭球協会常務理事、関東庭球協会理事長、そして更に田園テニスクラブ理事長と我国テニス界の重鎮であり、先日も今後の日本庭球界の発展に資する為、ウィンブルドンを視察して来られた。幹事は第一銀行本店の中堅前田啓次君（昭三一）でよく会長を補佐し同時に前記田中君、斎藤君とよく連絡を取り会の運営の完璧を期して居る。

去る七月二十日上京中の小樽商大庭球部員の歓迎会を兼ねて、新宿東陽会館に於て、O・B十数名が集り学生諸君の労をねぎらうと同時に数々の話頭が出て和気靄々の会合であった。この席には会長陸田氏は山中湖畔のテニス会の為、出席されなかったが関西より湊静男氏（昭三）更に東京O・Bの結成にも参画し現在は大阪在住の小池輝男氏（昭一一）の両氏の参加があり、その場で「小樽商科大学庭球部関西O・B会」の結成が宣言され、会長湊氏、幹事小池氏として、関西各地に在住のO・Bを結集する事が発表されここに小樽商大庭球部O・B会の全国的大同団結が為される事となった。

湊氏は現在神鋼電機株式会社会長であり、在学中並びに卒業後の在樽中、小樽の湊三兄弟の長兄として広くその名をうたわれたテニスの名手であり、当日のお話の中でも学生へのアドヴァイスが出た程、小池氏は昨年迄浦和に在住、過去四ケ年間埼玉大学のテニスコーチとしてこの大学のテニス技術の向上に努めておられた人、両氏のご尽力に加ふるに神戸在住の本間広松氏（昭九）等のご協力で関西O・B会が活躍を始めるのも遠い日でない事が確信される。

翌二十一日には前記陸田氏のご尽力により、田園クラブでコート二面を借り切りO・B十七名、学生二十余名が共にプレイを楽しみ、終っては陸田会長のご招待により近くの松頼荘で暮れ行く相模ケ原をはるかに見渡し乍ら思ひ切りビールを飲ませて頂く等、会長に種々ご厄介をおかけしたが全員が和気靄々学生に技術をアドヴァイスする者、学生時代の思ひ出話に花を咲かせる者、先輩になっての意義深い会合は何時迄も続き、たまりかねた幹事の発言により漸く小樽商科大学の今後の発展を祈り、尽きぬ感激の会合を終った次第である。

庭球部OBの皆様へ

此度本誌上をお借りして広く、先輩諸兄に御紹介したい人がおられます。今日の我等の庭球部の発展を誰よりも願い、半生をそれ一筋に尽してこられ、現在母校庭球部監督の斎藤進先輩です。実は学生上京の際招待し、永年の御苦労に御礼を申したかったのですが、家族の御事情と体調が思わしくなく実現できず残念でしたが次の機会に是非上京される事を全OB首を長くして待っております。斎藤先輩は大阪天王寺中学よりはるばる小樽高商に入学、既に「左の斎藤」とその名も響き、新入生でレギュラーであった。

当時小池氏（前出）がキャプテンであり、高専大会で負けた時はくやしくて路上ですわり込んで男泣きに泣いたといいます。当時の仲間としては現在三共にお勤めの箕輪先輩など在京の方もたくさん居られます。私の知る監督のテニスは正確無比、最後の最後迄勝利を信じ猛烈なファイトを燃やし、真摯な練習態度、日頃の規律ある生活はテニスプレーヤーの鏡であると思います。昭和十年より卒業の昭和十五年迄の六年間は黄金時代を築き、北大予科のみならず本科も問題ではないという勢いで、今年も斎藤は卒業しなかったと聞き長嘆息したという話です。反面マンドリンを奏し、今でも作曲した北斗寮歌が残っております。戦後復員してきて昭和二十四年より監督として二十年の長きにわたり学生を指導し、その教えを受けた者も百名を越し、その間北海道選手権にて優勝を数度、国体連続出場十五回で表彰、全日本壮年のランキングプレーヤーでもあります。北海道の斎藤として全国的に名も知られております。近年はやはり往年の力も失ってきているとの事ですが近年迄学生は本番で勝つ事が出来なかったのは技と節制のたゆまぬ賜物とも思われます。

現在の勤め先の小樽市役所を退ぞかれる日も一〜三年中とかまた、小樽を離れられるかもしれないとか伺い、淋しさと共に更らためて偉大なプレーヤーとして、庭球部の恩人として、さらに一筋に純粋にテニスに生きた一人の人としてその人を深く思い、味わずにはいられません。

OB諸兄に代って若輩の私が稚ない文を書きましたが斎藤先輩に対する感謝の気持の一端でもあらわすことができたらと思います。

尚、斎藤進氏のエピソードが御座居ましたらテニス関係以外の方でもお送り下されば近い機会に何かまとめたものを作りたいと思いますのでお送り下さい。硬式庭球部OBの連絡もれの方も是非御一報下さい。

昭和三十九年卒　田中隆二

≪庭球部OB会連絡係≫

（送り先）
東京都足立区日の出町27の1の402　田中隆二
勤務先　楢崎産業施設課　(572) 五七六二
又は　サッポロビール東支経理課　斎藤慎二　(572) 〇二一一

緑丘通信

☆一寮（北斗寮）跡記念碑建設の世話人会が九月十三日（金）東京で開かれました。

一、ところ　千代田火災海上

一、出席者
間室守親（T8）赤津俊樹（S9）
古関周三（T13）中川静昭（S32）
笠原章雄（T5）鈴木三七（S8）

年内に名簿を整備し各人に趣意書を送り、巾広く呼びかけを行う事となった。

尚、一口一、〇〇〇円以上とし、各年次毎に幹事を選び協賛の働きかけを行うことに申合わせた、建設は明四十四年になる見込み。建設については大学側実方学長の一応承認を得ている。

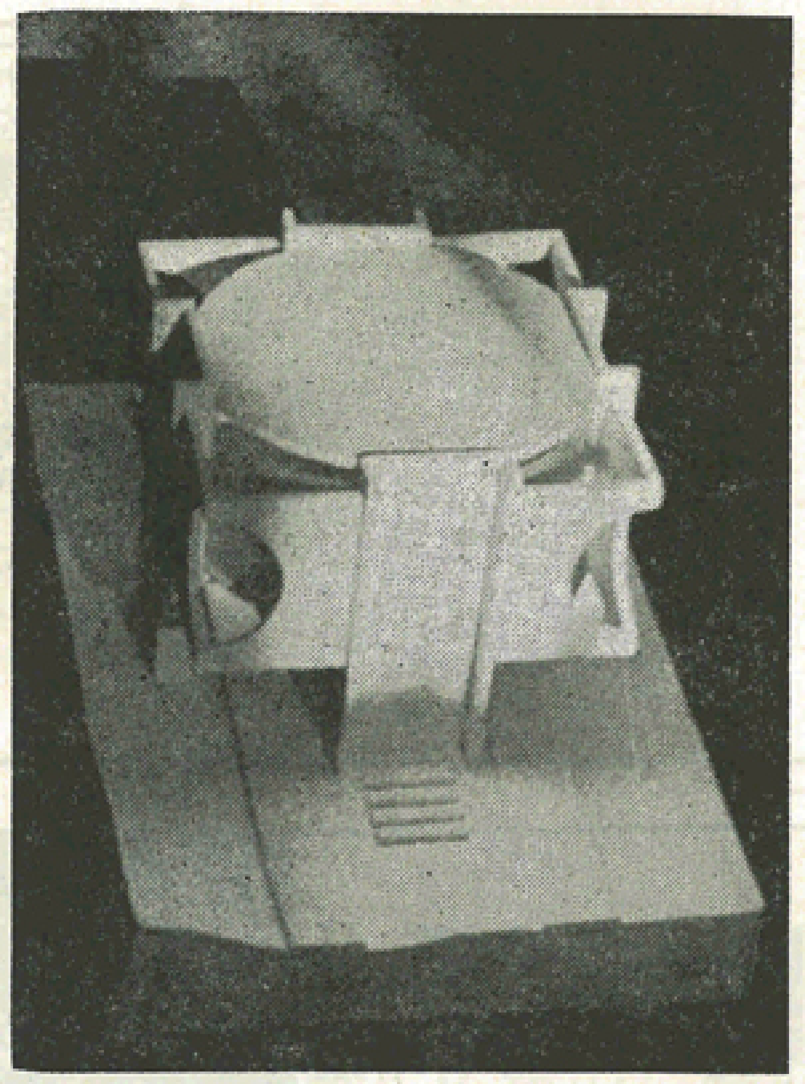
素晴らしい緑丘戦歿者慰霊碑モデリング
≪第一案は流れて三角型の塔に≫

緑丘戦歿者慰霊碑の募金目標も最初計画した予定にあと一息のところであるらしい。

一方建築デザイナーとして度々この緑丘を通じて紹介された竹山実氏は現地の冬と春をつぶさに視察して帰られたが八月にはもう模型が出来上り、母校学長室の一隅に飾られていた。

この慰霊堂に朝日、夕日が照りはえた場合を想定して編集子は学長室で光線を加減して方々の角度から撮影して見た。これを見た私はマチスのヴァンスの礼拝堂を想像しステンドグラスを通じて礼拝堂の中にさし込む情景を頭の中に浮べていた。

小樽港をながめられるシャンツェの横斜面に真白く姿を現わした場合も想像できた。



中心の円形の内側には戦歿者名がズラリ書きならべられ、その中へ唯一人階段をコトンコトンと登り、中に立って、あの戦の日に去って逝った戦友をしのぶには誠にふさわしい慰霊堂ではないか。

素晴らしいデザインである。校庭にこれらの碑を立てる事は色々な問題を含んでいるようである。それならば寧ろ学校敷地（文部管轄地）外に而も校庭を通ってすぐ隣接地に坪三千円位で三〇坪程購入すれば全ての難問は解決するのである。

然しながら設計費見積りの結果は応募金に近いもので、結局この案は見送りとなった。

新案はスケールも小型になりほぼ三角型の塔に代った。従って敷地問題もどうやら新らしく購入の必要がなくなり、予算内に納まるとの事である。

☆『新北海道史』編集機関誌に『新しい道史』がある。≪非売品・北海道史編集所発行≫北海道に関係のある珍らしい資料が盛られている小冊子であるが、非売品であるため余り一般には知られていない。もう通巻二十八号（第六巻第三号で）になっている。このような道史に関心をもつ人のために目次を紹介したい。

一、シェスタノフ地図の千島・日本の部分について
二、北海道キリスト教史の問題
三、開拓使版英和対訳辞書について
四、新発見の二体の円空仏について

≪史料紹介≫
蝦夷地御用内密留　抄

などである。

〝開拓使版英和対訳辞書について〟は緑丘人大一一越崎宗一氏の執筆になるものである。

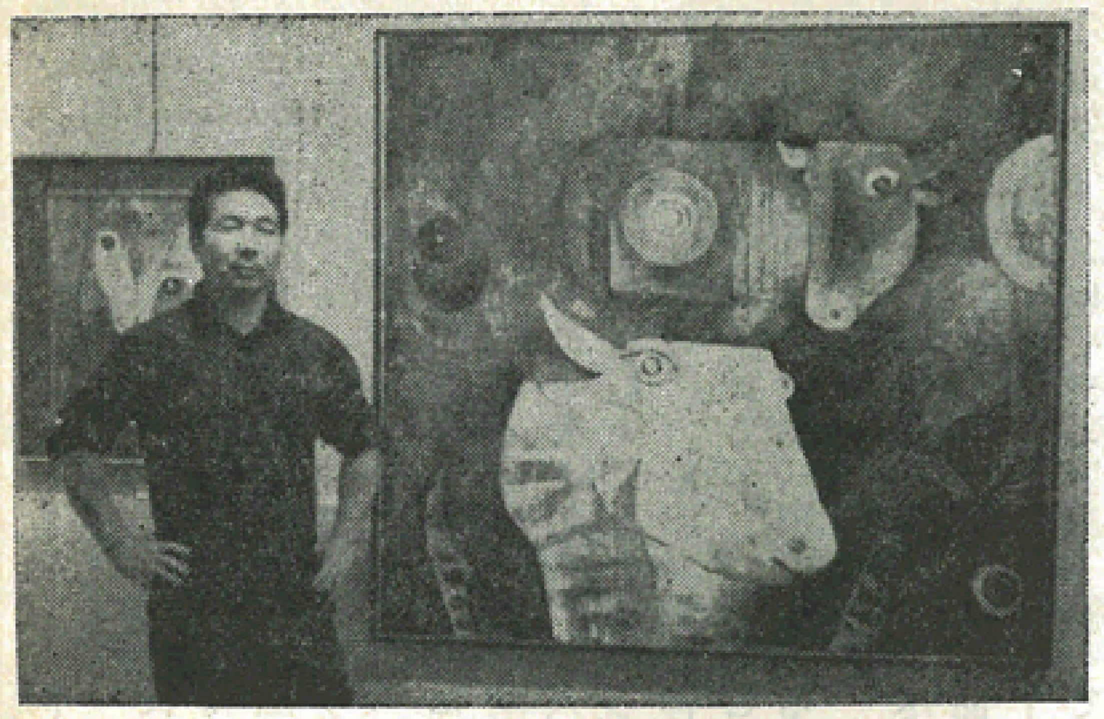
☆昭和四十二年八月以降近代文学館（館長伊藤整氏）寄贈あったものの中、緑丘人関係資料は左の二点が挙げられている。

平林浩介氏から小林多喜二の『蟹工船』の原稿。

蒔田栄一氏から小林多喜二の絵。

尾形圭介個展

大阪戎橋画廊で



去る九月二十三日から二十九日まで大阪市南区戎橋ナルミヤ二階戎橋画廊で個展を開いた。

作品は動物祭／夜間競馬／サーカスの馬／まつりの牛／森・まつり／海・まつり／深海魚族／海・会話／森・夜想／森の酒房／草原／牛たち・夜など二十八点の展示であった。

何れも明るい作品ばかりで早くも初日には二点の赤札がつき幸先きのよい展覧会であった。

彼は渡欧を来年に予定しており、このあと札幌で三月にパークホテルの展覧会を予定している。尾形君はこれを機会に画集を発刊した。

その扉に二紀会委員宮本三郎画伯は次の様に推薦文を書いている。

『尾形君は二紀会に一〇年来の出品者であるが、私は、君の絵に注目したのは数年前二紀展に出品した二〇〇号大の〝牛〟を描いた大作からである。しかし最近は、その一作一作を、注意してみてきている。君の絵は、幻想的というか、童話的というか……。〝牛〟を中心に動物を主題しながら発展してきているが、色彩も美しいし、形の感覚にも優れたものがある』

大平善梧（大一五）

〈チェッコ事件に寄す〉

プラハにて求めし五色のガラス
魚今朝は窓辺に怪しく光る
カレル大学軍靴に踏みにじられ
しとふブルトバ河は逆激ちしか
真実を守れ真実は逐に勝つと叫
びきヤン・フス乞克の父は
ヤン・フスが改革の声あげし国
の自由の灯消すものは誰ぞ
台風は近づきしらし傾けるカン
ナの蔭か秋の虫鳴く

洋酒の中の個性派

〈城〉生まれの高級ブランデーがたっぷり。スッキリした飲みくち。飲みあきしない洋酒の個性派。あなたの洋酒棚に欠かせないユニークなお酒です。冷たくして、爽快に、愉快に、おたのしみください。

ブランテータッチの酒

ブランドール

合同酒精

720ml……500円

「緑丘」へ御投稿を（穴・読者の声）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16

大西猪之介教授特集号に広告のご協力をお願いします

1頁	1回	12,000円
2分の1頁	1回	6,000円
4分の1頁	1回	3,000円

11月中に原稿を編集部までお届け下さいますように

尾形圭介画集

原色版10葉

著名入300部限定版

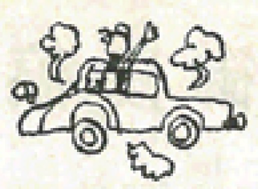
1,500円（送料105円）

申込は 緑丘編集部へ

まんぴつ五人集

渡辺校長の墓

椎名 幾三郎（大阪支部）



今から十数年前、名古屋で私は名古屋高商の卒業生諸君に会ったことがある。それらの諸君から渡辺校長のお墓が同市八事の興正寺という寺にあることを聞いたので、早速お墓詣りに行った。お寺は真言宗の別格本山であり、広大な浄域に、堂塔伽藍が立ち並び、特に立派な五重の塔が聳え立っていた。お寺の坊さんに案内を頼んで、その寺域内の墓地へ行った。この墓地は樹木が多く、広大な地域に立派なお墓が立ち並んでいる。さすがに尾張徳川家の祈願所だっただけの立派さである。

数多くの墓の間を屈曲した道を辿って、渡辺先生のお墓の前に立つことが出来た。私はかねて持参した香華を手向けてご冥福を祈ったり、お詫びもしたり、感謝もしたり、また最高の敬意を表した。

ところで、渡辺校長の墓には石碑がなく、ただ一本の白木の墓標しかないではないか。かの抜群偉大な校長にとって、まことにふさわしからざる状態である。先生の死の直後ならば兎に角、すでに数年を経過しているのであるので、私はこれが残念でならなかった。

そこで、其の後、名古屋高商の卒業生諸君に会ったとき、私は同校の同窓会が渡辺先生のために立派な石碑を建立すべきであることを主張し、もし、それが出来ないというならば、私は小樽高商の同窓会に呼びかけてそれを実現するつもりである旨をつけ加えたのだった。然るに、彼等の答は、お墓というものは、その子孫が建てるべきで、他人が建てるべきものではないというのである。子孫が繁栄して墓を建てて上げてこそ、仏も喜んでくれるものだというのである。この返事には私はすっかり参ってしまって、ただ沈黙する外はなかったのである。

それから数年後、名古屋高商の卒業生の一人から渡辺校長の墓碑が立派に出来上ったことを知らされた。私は早速、そのお墓へお参りした。其所に私は極上の御影石で作られた姿も珍しく優雅高尚な石碑を発見し、ほんとうに嬉しかった。香華を捧げてから墓石の裏側をのぞいた。渡辺校長令夫人の名が刻まれている。これが建立者としてあるのである。思うに、名古屋高商の同窓会が資金を集めて校長夫人に贈呈し、それによって、先生のお墓が完成したのではあるまいか。これは私の単なる推測であって、誰にも確かめたものではない。もし、この推測が間違っているとするならば、私は自分の不明を詫びお許しを乞うにやぶさかではない。

私は一昨年も亦渡辺校長のお墓に参拝した。その時には日本酒一升ビンとサントリーの角ビン一本が墓前に供えられていた。昨年の秋に参拝したときは、菊の花束が飾られていた。私はそれらを眺めて、会心の微笑を禁じ得なかった。

小樽商大が今日の隆昌を来たしのは、この偉大なる人物を初代の校長として迎え得たからだと思う。そして、今は母校出身の学長を擁して益々発展するものと信じ、欣喜雀躍せざるを得ない。お許し下さるなら、昭和八年卒の遠藤周寿君にお渡ししたい。

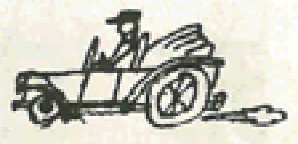
（元小樽高商教授）

次回

遠藤 周寿（昭八）
四谷 宗義（大一一）
大津 博士（昭一八）
藤井 幸男（昭一九）
近藤 己芳（昭二）

小樽の思い出あれこれ

井上 巌（神戸支部）



自分は大正十一年の卒業だ。随分古い話で、もう半世紀も前になる。当時幾多の希望をいだいて、胸をふくらませて、学窓を巣立った。同窓の誰彼、今日まで五十年の間に、いろいろの人生行路を辿ったことだろう。順調な出世コースを進んで、社会的な名声を馳せ、母校のために気をはいている者もあるが、そうでない人もまたある。

何よりも悲しいことは、雄図空しく戦争や、病魔に倒れて、夭折した人々だ。一五〇名の同期生の内六五名も既に故人となっておる。まことに痛ましい限りだ。自分も人並に、功名を夢みて、社会に出たが、こと志と違い、五十年後の今日、名もない、平凡な、サラリーマンに甘んじている。不甲斐なくも思うが、幸に健康にも恵まれ、七十才の今日まで元気に、これでも社会のために働いていることに誇りを感じ、張切った

毎日を過している。悔もなければ、淋しくもない。それにしても、小樽の思い出はことごとくなつかしい。

多感な青春を、あの地で過した在学三年は短かかったが、一生を通じて大きな収穫をあの地で得た。後来自分の人間形成も、あの地でなされたことだろう。温暖な岡山で生れた自分には北海道の風物は、すべて驚異であった。雪さえ珍しい、暖国育ちの自分にとって、初めて迎える、北海道の冬は、内心、ビクビク案じていたが、寮も教室も、暖房設備が行届いて、室内生活は、内地よりはるかに快適だった。しかし、雪の日を除いたら、来る日も来る日も、晴れの日は少なく、ドンヨリ曇った、鉛色の空、陰ウツそのものの情景は、何としても暗く、冬の日は、いやな思い出だ。冬を通じて過したものでないと、北海道を語る資格はない。三月、春の訪れとともに、雪どけとなる、悪路が毎日つづく。が、日当りのよい場所から、半年振りに黒土が見える。その土の香が、ひじょうに恋しい。ホー歯の下駄で踏み歩いて喜んだものだ。（当時はゴム長はない）この地の陽春は、五月、梅、桜、桃など、百花が一時に咲きほこる。軽川の鈴蘭狩もこのときだ。防寒に心を奪われて、装などかまっていられなかった、乙女達も、初めて外套をぬいで、着飾って外出する、どの娘さんも一遍に美人となる。

春夏が短かく、九月初め夏休みを終えて帰校の連絡船には綿入れを着た北海道移住者が多数乗っていた。そして十月も終り頃にはもう初雪が降る。北海道の思い出は尽きない。

平凡な内地を避けて小樽に学校を選んだことは賢明であり、エキゾチックな北海道で過した三ケ年は幸せであった。母校訪問は年年想いながらも果し得なかった。北海道の旅を一昨年の夏、漸く、敢行した。一日を割いて、卒業後四十五年振りに、懐しい母校を訪問した。聞けば、近く本館校舎は取こわして、新らしく建直すらしいが、タイミングよく、昔のままの母校の雄姿に接せられ、涙を流す思いで全校をゆっくり眺めた。外観も変っていない。雨天体操場から階段を上って教室に出た。廊下を右に、化学実験室も合併教室も窓越に見た。その昔、自分もあの机の一つに坐ったのかと思うと懐しさがこみ上げて来る。

校長室や会計室もそのままだ、表玄関を校庭に出る。練瓦作りの書庫も図書館も変りはない。その昔、寝ころんで四ツ葉のクローバーをさがした校庭には、やはりクローバーが生えていた。ただ残念なことは、三ケ年住み馴れた文行寮が跡形もなくこれも立派な新寮に変っていたことだ。それでも、在学中に、寮生一同が数ケ月もの労力提供で地ならして、開設したテニスコートが同じ場所にコートとして使用されているのを見て、せめてもの慰めとなった。女子学生を交じえてテニスに興じていたが、昔の事情など知る由もあるまい。

あえぎあえぎ上った地獄坂の急坂もそのままだ。母校を巡る周囲の山の姿も変りない。かくて尽さない思いを残して母校を辞した。同行の妻にも全然判らない自分だけの感激だ。

最後に、戦後の学制改革で、中学校始め各大学が、変容して、はっきりした母校を失っているとき、吾、小樽商大のみは厳然として、昔のままに存続していることは、卒業生として、まことに有難く思っている。同窓の結束も強まり、母校愛を結実さす意味からも幸いであった。

次回は四谷宗義さんへお願いします

（大一一　有限会社村田・真珠株式会社常務取締役）

変り種の報告

今 栄蔵（鹿児島市）

野中雅夫から「まんぴつ」のバトンタッチをすると言って来た。野中とは高商入学のそもそもの初めに北斗寮で同室となった間柄だから、その誼みでかな？と、ちょっと思ってみた。それも勿論あるのだろう。しかしもうちょっと思ってみると、小生が一八期中の変り種だから一つ引張り出して書かせてやれ、というコンタンなきにしも非ずの気もする。

実際小生は、国文学というものでメシを食うようになったのだから変り種というほかあるまい。同期の佐

広告マッチと美術印刷・紙工品
是非一度皆様からの御用命を……特別奉仕
株式会社 三優社
京都市下京区寺町通松原下ル
TEL (361) 8171 (代表)
取締役社長 山村太兵衛 (昭12)

まんぴつ五人集

まんぴつ五人集

々木徹郎は東北大で社会学の、山下邦男は一ツ橋大で経済学の教官をしていると聞くし、緑丘出全体でいえば学問方面に進んだ人は必ずしも少なくないようだが、それらは（英文学などの場合でも）多かれ少なかれ高商と結びつく。それが国文学となれば話は全く別だ。開闢以来の変種というほかない。そこで率直に申せば高商とは縁が切れた恰好で暮して来たと言えなくもないのである。

ところが縁は不思議なものであった。小生はここ二十年近く、母校とは全く縁もゆかりもないはずのこの国文学を通じて、ひそやかにではあるが意外と固く母校との繋りを持ちつづけて来た。そんな変った角度から一言……。

いま中世国文学界で名も高い東京教育大教授文学博士峯村文人氏。この先生が丘の学校に着任されたのは確か十七年のことだったと思う。まもなく小生は先生のお宅を訪ねた記憶がある。勿論国文学なぞに関心があってのことではなく、何となく文学の先生と話してみたかったにすぎない。その時先生はみみずの這ったようなクシャクシャした字の古写本を読んでおられた。——そんな思い出もあるのだが、それから激動期の五、六年の時が流れる。卒業・学徒出陣・復員後の会社勤め、そこまでは小生も人並みのコースを歩いたが、勤めてみて実業に適性のないことを痛く感じた。そして（全く背水の陣だったが）北大に文学部が新設されたのを機に転換を計った。

ところでそれからまもなくのこと、国文学の教授の研究室で勉強していると峯村先生がひょっこり現われた。失礼な話だが先生のことはすっかり忘れていたので、あまり思いがけない所での偶然の再会に小生もびっくりしたが、先生の方では完全に目を疑ったらしい。どだいこんな所に高商出がいることがピンとこないわけだ。「どうしてここへ？」「はあ、ここの学生になりました」「ホー!!」。それからは同じ道の者として親しくしていただき、小生も再三母校に先生の研究室を訪れて話がはずんだ。北大卒後小生は関西に出、先生も二十九年に教育大に戻られたが、しかし話はまだつづく——。

峯村先生の後任に、先生の後輩の広田二郎氏が就かれた。氏はすでに新注国文双書『芭蕉連句集』を出して芭蕉学者として知られていた。峯村先生はこの広田氏に「商大にデシが一人出来たよ、それもあなたと同じく芭蕉を専攻している」というようなことを言われたらしい。広田氏は着任以来四十年に退官して東京に転動されるまで、『小樽商大人文研究』誌に殆んど毎号、そのユニークな芭蕉研究を発表されたが、峯村先生から話を聞いたせいであろう、まだ会ったことのない小生に『人文研究』の抜刷をすべて送ってくれた。そんなわけで小生はこの約十年間、『人文研究』を通じて、母校とは縁遠いはずの国文学をやりながらまさしくその国文学によって、母校と親しく繋がって来たことになる。ちなみに言えば、広田氏は右の諸論文を基礎にして最近大著『芭蕉の芸術』を出された。そして氏の希望で『週刊読書人』にその書評を小生が書いたが、これも母校によって結ばれた縁である。

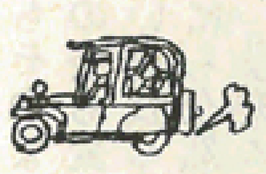
卒業後大学院を含めて二つの学校を遍歴したが、丘の学園生活ほど深く心に泌みる思い出はついぞ残っていない。若さと自由と知識欲と希望とにみちた学園の少年の日へのノスタルジァ。生涯のあの年令の時期以外では得られなかった特権。緑丘人を、そして緑丘会を固く母校に結びつけるものはこの臍の緒だったと、四十なかばのいま思うのである。まして多大の犠牲を払って本誌のような同窓誌に献身する方のあることを思えば、またしても北斗寮入寮式で寮監梶浦教授の口から初めて聞いた Gemeinschaft の語の新鮮な感覚が耳底に蘇ってくるのである。

次回は大陸科の快男児大津博士君に申し送る。

（昭一八　鹿児島大学助教授）

絆とは

小池輝男（大阪支部）



七月某日、何か帰り度くなり真直ぐ帰宅してブザーを鳴らすと息子が顔を出しました。「何んだお前か小樽はどうだ？」と靴も脱がず云う僕に「うん、僕小樽へ行ってほんとによか

まんぴつ五人集

ったと思ってるわよ」（女房の感化と、女三人の中の一人として育った彼はこの様な言い表わし方でこう答えました。）この晩は久方振りに息子の顔を見て嬉しい故か、女房が制限を解いたお陰で心よく酔いました。……（自宅にて）

「何を読んでるんですか一生懸命？あっこれは小池さんの学校の同窓会の本なんですね。へー随分偉い人が居るんですねー。」（この時すかさず俺だって偉いだろうが、と啖呵を切る次第です）（職場にて）

或る知り合いで日大卒当年三十二才の男の曰く「いいですね—小池さんの学校は、私達にはとてもこんな喜びは有りません」……私が彼とたまたま同席し乍ら傍目もふらず「緑丘」を読んで居る姿を見乍ら。

セールスマンの日報を見る。「○○会社訪問△△氏と面接の上当社製品の説明をし、或程度の関心あるものと思う」とある。「おい君、××君どの程度だ？。」「はー大分いい線迄行っています。」「そう、この会社の常務はね、僕と学校が同期の奴だからそこその線迄行ったら言っといで、おい頼むぞって俺が云ったら一発で決まるから。」……（職場にて）

「○○部長は居ますか？」「誰方様でしょう」「小池ですが」「何処の小池様でしょうか？」「ともかく僕が来たって云って下さい」「はい」（大分不服そう）…「どうぞエレベーターで五階迄お昇り下さい、降りて頂いた処に受付がございますのでそちらでどうぞ」……五階へ昇る。「はい、小池様でございますね、どうぞこちらへ」……（或る大会社にて）

「○○さんにお目に掛り度いんですが」（名刺を差出す）……「どんなご用件でしょうか？と云って居られるんですが。」「学校の後輩だと云って下さい。」……「お目に掛るそうです、どうぞこちらへ」……（或大組織の一面識もない大先輩を訪問した時）

×　×　×

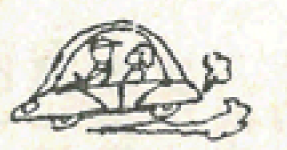
南教授は「運命の絆に結ばれた」と表現され、吾々仲間同志は「腐れ縁」と称するのですが、所謂吾々緑丘人はお互に兄弟の様なものなのではないかと考えます。殊に私が運動部に籍を置いて居た事が、今齢五十を越えても尚何時迄も青年の様な気分で同窓の諸士とお交際をさせて頂いて居ます。一部の方々にはご迷惑をおかけした事もあり、今なお悟りも開けず凡々と日を送って居るのですが、でも何時も「緑丘」を見て、先輩、同期、後輩、色々の同窓生の動静を見聞する毎に、若い血がたぎり「俺も小樽の出身だ」と云うプライド「俺も皆に負けん様に頑張らねば」と云うファイトが湧いて来ます。全く「緑丘」は私に取ってのエネルギー源の様なものです。皆様にしても何かそんな気のされる事が間々あるのではないでしょうか。今後共この緑丘が益々発展する様に皆様のご協力をお願いします。

次は藤井幸男さんに。

（昭一一　㈱浅沼商会）

遠くなりにけり

渡辺絆吉（大阪支部）



降る雪や明治は遠くなりにけり

これは中村草田男の有名な句である。「や」とか「けり」と言う切字を二つも使っていて硬い表現のようだが、深い情緒をふんわりと真綿に包んだようないい句である。作者の年輪と言うものであろうか。この頃は社会性のない句は弱いとか、定型では満足な表現が出来ないとか言う人もあるが、こういう句をみると句のよし悪しそんな形や素材だけできまるものでないことが解る。

明治が終ってから六十年に近く、これを実感として受けとめ得る者はもう我々の年輩以降では少いようだ。明治は私なぞまだ小学校へ入る前のことで、小樽では自動車も珍しく、家の前を一台でも通ると「自動車が来たぞう」と馳け出して見に行った有様であった。

明治百年をむかえて、この句を知らなくとも「明治は遠く」と使う人が少くない。この「遠く」には「変った」と言うニュアンスを含めている場合が多い。つい先日は九月一日の関東大震災の日であった。毎年のように思い出話はするが、実感はうすれているようだ。明治や大正ばかりでなく、太平洋戦争も遠くなった

まんぴつ五人集

のではなかろうか。我々の生活しているこの地が戦場となり、毎日毎夜空襲のサイレンとB29の音におびえて暮らしたあの日であったが。殊に大阪での二十年三月十三日の空襲では十三万戸、五十万人の罹災者を出したと言うことであった。夜が明けてから大雨に見舞われ、あの御堂筋を乞食の群れのようにぞろぞろ歩いていく人々の姿は今も私の目から消えない。

私の家が焼かれたのは七月九日の夜半すぎ、私が日銀の奈良の事務所に宿直中に堺市の九割もやられた時のことであった。どのようにして空襲され、どのように逃げたか、その恐ろしさは私には本当には解らない。家内は一才の女児を背に、三児の手を引いて水田の中を逃げ歩いたと言う。翌日の夕方堺市の鳳へたどりついて、一人も欠けていない家族の者を焼っ原の中に得て、妻子の手を握った感激は忘れられない。

こげくさき汗くさき手を握りしめると素朴な一句が出来た。数日後、子供が引きづって逃げたトランク一個だけと言う世にも豪華な引越をして奈良の仮住居に移った。この時は家財のすべてを焼いたことに惜しさは感じなかった。だが終戦後電燈をつけられるようになって漸く蔵書を全部を焼いたことがいかにも口惜しく、又淋しくてならなかった。それから薯の蔓までたべて飢をしのばねばならぬ一時期がつづいた。之は私だけではなく、日本全体の実状であった。

その後二十三年、沖縄や北方領土の問題が片づかない限りは戦後は終ってないと言われる一方、昭和元禄と言われる位の生活が出来るような経済成長がもたらされた。よくもここまで遠く来たものだ、と思う。

だがここに私には残念に思われる変り方も少くない。昔の学生は、専門の学科の勉強の外、人生とは何かの問題を考え、論議し、誰もが文学や哲学の書を静かに読んだものである、そういう幸せをもっていた。今の学生にはそれがないのか、或は考える前に行動する不自然さがあるのだろうか。しかも雷同して、ヘルメットに覆面で角材を手に学園を占拠し、先生をつるし上げる。三尺下って師の影をふまず等とは言わないが、先生を、学生を、互に友としてゆっくり語り合うゆとりをもてないものだろうか、と考える。

民主々義と自由が我々の手に帰したのはいつか、超自由と無責任の時代が来たように思われる。権利だけは主張して、他のめいわくはおかまいなしというのである、又自分の利益はとことん守るが、国益や公益はどうでもよいと云うのもある。国旗や国歌は運動競技専用のアクセサリーにすぎないようでもこまる。

私は明治や大正や戦前のものが何もかも良かったと言うつもりはないが、何でも古いものはかなぐりすてて遠い所へおき去りにしてしまえと云う考えには同調出来ない。

次回は同期の近藤己芳氏にお願いします。（大阪銀行協会）

千代田火災海上

企業と家庭を守りつづけて71年

本　　店：東京都中央区京橋1－3　(535) 4671
名古屋支店：名古屋市中区上前津町66　(331) 8411
大阪支店：大阪市東区大川町66　(203) 2161
その他支店：全国主要都市

（まんぴつ執筆者）

（客員）松尾元教授、椎名元教授
（大三）高橋徹男、下吹越栄吉
（大四）八木康之助
（大六）伊東小四郎
（大七）白瀬治三郎、金栄西吉、草野義一、松浦文太郎、岡田栄吉
（大八）戸井正三、大野純一、三好長次、増井得三、谷本朋次、郡菊之助、西村百太郎、松本義一、大山謙吉、広岡一男、福田誠、藤居元三
（大九）菅谷重平、奥村義信、小島憲市、奥田直
（大一一）宮地邦介、小橋庸三、杉山昌作、神沢重治、梶川亨司、功刀素重、越崎宗一、大泉行雄、中田新平、中瀬秀一、松岡俊一、大田省三、井上巌
（大一二）田中弥三郎、塩谷精一郎、大久保鹿弌、大井義郎、渡辺一夫、小河成美、池田繁正、田中実、穴釜升夫、玉井武、日南田美文、佐藤信雄、若林周五郎
（大一三）古関周蔵
（大一四）畑信太郎、片岡亮一、小武海鉄郎、松原治郎、森下弘、北村良吉、桐田鉄郎
（大一五）増田常次郎、中野清一、白木小一郎、近藤徳弥、津久井七雄、大平善梠、西野嘉一郎、竹内隆、吉田荘太郎、祐村脩平、松村義公、川上貞光
（昭二）黒羽秀夫、牧野吉男、岡田政治郎、堂城不二人、友沢和一郎、小貫武、手島恒二郎、山中晴雄、太田英治、広瀬久一、石田平八、中沢勝平、加藤正善、古川敬止、清水文男、茂垣英夫、岩岡秀三、小西征夫、矢野健太郎、陸田清、実方正雄、渡部胖吉
（昭三）佐竹繁寿、樋山三郎
（昭四）小山健児、湊静男、高橋一男、玉井英雄、宇山慶三
（昭五）池田啓助、井藤久也、吉田友記、北村太治郎、横井七之助
（昭七）八家要、鹿島憬策
（昭八）土岐秀雄、本間広松、小池三郎、高見美雄、会津幸雄、鈴木三七
（昭九）梅野弥太郎、塚越誠、本田正一
（昭一〇）篠崎万治郎、若月雅司、北村匡弘
（昭一一）浅野潔、土屋龍郎、木下春雄、三崎嘉郎、島崎保信、中尾弘、中道良徳、川原俊一、松井要吉、進藤彰、越崎清二、中木平三郎、丸山一郎、紫竹亜津視、秋葉隆一郎、臺目英三、本間誠一、鎌田正三、木村頼雄、小林啓作、角谷栄作、上野茂、村山重三郎、国安猛、小島典春、砂子沢正、小池輝男
（昭一二）内藤好生、皆川荘一、矢野正郎、宮内美雄、木内武之助、牧田恒雄、本間英作、森川正明、石川孝一、浅田厚、岡田保司、山村太兵衛、佐々木成彰、岡本元次、立石市郎、佐藤清治、山下政道、高橋景則、金三郎、須永誠一、白潟良造、曽根重四郎、大井健一、梅原音次、森川正明、岡田春夫、加藤勇、福田政治、浜中学
（昭一三）江川裕一郎、若山永太郎、木村章三、山本俊雄、松ケ野寿夫、丸山弥、平木勇三、金垣英雄、柳川憲夫、西谷作太郎、森川正明
（昭一四）井原利勝、大沼誠治、北村幸、谷英純、沼田博、太田正勝、壱岐隼雄、河西辰男、沢村重一、石黒政夫、北条恒一、三浦正飛塚誠一、竹島篤二郎、金井勇、八木安、野村鉄太郎、福地貞雄、樫村久好、尾崎哲平、沢井道成、隈田鑽三、市橋宏一郎、内藤義信
（昭一五）柿本恒一
（昭一六）相原正美、相田正、河上鎮男
（昭一六後）中村平之助、小林芳美、松村克己、山内孝、杉原貢、久保宗司、若林幹一、阿部英一
（昭一七）籾谷真一、長尾昌弘、桑野泰次郎、阿部敬作、越智直行、山田光男
（昭一八）亀井尚一、湊誠、島田恵治、田森誠一郎、七戸真次、松沢久隆、一柳悦蔵、大橋啓男、野中雅夫、今栄蔵
（昭一九）高山博男、荻村茂雄、赤津俊樹
（昭二三）牧口富伍、福田和、服部奎吾、北野巧
（昭二五）我満博仁
（昭二九）古内一成
（昭三〇）石津洋三
（昭三一）小田島和夫
（昭三五）佐藤良雄、本前勝支朗、長津行高、猪浦淳一
（昭三六）神田隆志

〝緑丘〟綴込表紙は品切れでございます

『緑丘』43年度申込者氏名（五）
（十月二十日現在）

（あ）阿部敬作、浅野潔、会津幸雄
（い）伊藤吉雄、猪木金人、一谷秀男、池田友義、伊藤英二
（う）梅津正一、上野彦太郎
（え）江口武雄
（お）大平善梧、恩村政登、岡部武雄、大野整
（か）風間善一、河村靖一
（く）熊谷力
（こ）近藤己芳
（さ）斉藤慎二、佐藤司、佐々木徳治、斎藤純雄
（し）品川吉治、清水良夫
（た）高橋信三、高橋宏造、竹山涼一、竹田吉郎
（な）名雲賢、中村好次郎、中川清
（に）西浦謹一
（の）野崎信夫
（は）林友一、羽石錦次
（ひ）平松新造
（ふ）藤本得太郎
（ま）松川誠治、松本周三
（み）美浪治郎、南俊栄、水島弘
（む）村上武夫
（や）山崎吉郎、八木沢正男、山本信爾
（わ）和田順三
（よ）米川恒夫、横山正二、吉沢正雄

「前金切」の方に!!

御手数でしょうが至急五〇円切手二〇枚を送って下さい。

僕の書斎

西川正巳（大15年）
皇学館女子短大講師
（再登場）

「緑丘」六十一号の「僕の書斎」は僕の一番尊敬して止まぬ、畏友中野清一君の筆である。思わず飛びつく思いで一読して、僕は顔から火の出るような恥しさを感じた。高田保馬先生の「頭脳の中」の立派な御書斎や、小林象三先生の「書庫」そのものの様な充実した立派な御書斎のことは、読んでいて、「それぞれ一流の先生方の書斎の実情」はさもあらんと中野君の筆のあとに感服した。続いて同君が自分の書斎のことの書きにくい苦衷を表明されている一言に僕は「我が身を鞭打たれる気持」さえしたのである。――と云うのは、そもそもこの「僕の書斎」のトップバッターを、おかしな因縁で買って出て了ったのが、僕自身だったからである。こうした因縁で毎号この欄は特に興味をもって読ませて頂いていたのであるが、中野君の謙虚な一言が僕の耳朶を打ったのである。本や資料はただ並べたり積んだりしておくものではなくて、活用し吸収し、利用して生かすものでなければならない。[illegible]にある書物や資料はやがて他の新しい書物や資料に代るのだから僕の書斎は、空間的にも、そして又時間的にも「分散」、いや正確には「分裂」しているのである――と云う同君の言葉が僕の不勉強と、日頃のノンビリ振りを、叱咤激励してくれている気持がした。その僕が敢て本欄に再登場する不遜は大いに反省すべきであるとは十二分に承知乍ら、次号の「僕の書斎」の筆者紹介のないところから蓁目氏の苦労の一端がのぞかれる気がして、思い切って原稿紙に向ってみた。自分の駄文が少しでも同氏の労を少くすることが出来たらと思ったからである。

昨年八月、退職金で新築した小さい家に移ったのであるが、書斎兼応接間の設計についてだけは十二分に自分の我侭を許してもらって、身分不相応な書斎と名づけるものを作って貰った。写真はその一部であるが僕はこの一室ある故に、日常の生活に一つの大きな生きがいみたいなものを感じている。大学の方でも一室を与えられているので、英語関係の参考になる本は三分の一ほど、その方へ移した。日常の授業の準備と、少しばかりの勉強はこの研究室で足せる様にした。だから僕は青葉が窓際に冴えている、林の中の様なこの貧しい研究室も大好きである。学校にこの落ちついた雰囲気の小さい部屋があり、家に我侭一杯に無理を云って作った書斎ありで、僕は本当にこの現在の環境を心から感謝している。酒も煙草もマージャンも碁も知らない僕は、中野君や西野君の様な友人に恵まれ、学校でも家庭でも、狭い乍らも自分の本を読める場所が与えられている事に、この上なく感謝の気持で一杯である。

僕の書斎は、中野君の場合と違って、全く動かない、否動かすことを許さない書物の置き場所なのである。何処にどの本が、どの様に置かれているか、チャンと自分で記憶している。家の息子や娘が、たまに無断で僕の本を持出すと、一度に判る。家内が勝手に本の置き場所を変えるなどと云うことは絶対にあり得ないことなのである――と云うことは、僕の本への愛着は一種のメーニアで、本当の研究のための本好きなのではない証拠であることが、中野君の一文でハッキリ指摘された気がして、顔から火の出る思いがしたのである。

例えば写真の右側に写っている部分の下には、「緑丘」「緑丘会報」「小樽商大緑丘新聞」「緑丘五十年史」「小樽商科大学創立五十周年記念論文集」「小樽高等商業学校創立二十五周年記念論文集」「同二十周年記念論文集」をはじめ小林象三先生の英文論文集や編著、浜林先生の遺著、緑丘関係友人の諸著書が一杯である。又別の棚には、小林多喜二、伊藤整全集が一個所に集められている。大西先生の経済学全集は勿論大切に納められている。

僕には蒐集癖があるらしい。珍しい昔の英語雑誌のバックナンバーが、それも創刊号から終刊まで、揃わないと気のすまないのが、書棚の下に設けた戸棚の中に整理してある。英語青年を明治四十年の分から全部揃えていたのを、三重大学開校のとき、是非にとせがまれて、譲って了ったことを今に残念に思っている。

だから僕の書斎の本はどの本だって、チャンとそれぞれの置き場所が決っている。中野君の流動的なのと正に反対なのであるが、これがただ並べてあるだけで活用されないとしたら僕は慙死しなければならない。

村瀬先生の会計学に関する或本を人に貸したら返らないままで二十年たって了った。他の本と違って、この村瀬先生の会計学教科書（旧中等学校用）はもう出版元にもなければ先生その人も亡くなられたので、この欠本は今以て無念でならない。他の本はお貸しして返らない本もあるし、僕自身お借りして返さない本もあって兎や角言えた義理ではないのであるが、恩師の旧著への愛着は又別なものである。

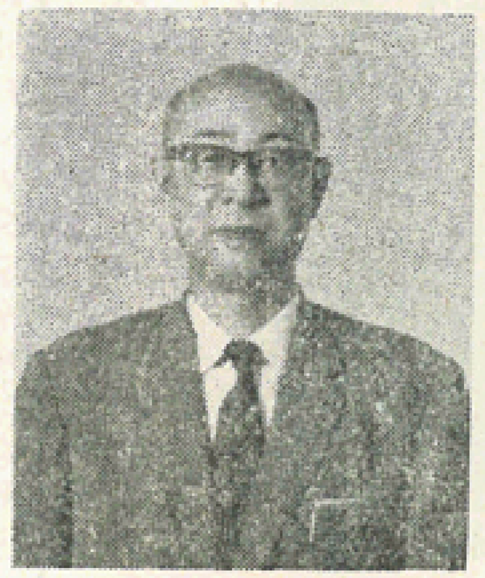
（次頁下段へつづく）

この「僕の書斎」の欄永く緑丘人の書斎生活を伝える資料として、続いてほしいと心から希うのである。

Gissing の The Private Papers の中の次の一節は僕がこの貧しい書斎にどんなに満足しているかと云うことを端的に表現していると思うので引用させて頂きます。

"In all England, the land of comfort, there is no room more comfortable than this in which I sit."

緑丘人物譚 (20)



株式会社 丹波屋
常務取締役
鎌田政隆氏（昭7）

私は昭和七年卒業ですが実は卒業試験の最中に虫垂炎となり御丁寧に医師の誤診もあって危く命を落とす処でしたが、どうやら助かって追試験を受け昭和七年卒業生の末席に連った次第です。当時は不況のどん底で国内には適当な就職口もなくどうせ拾った命だと云う気持もあって渡満して創立早々の満州中央銀行に入りました。

在満当時は若かったし大へん愉快に仕事をしましたが敗戦の結果昭和二十一年秋引揚げて来ました。それから第二の人生を郷里である北海道で送って居るわけです。引揚げてから五ケ月程旧師のおすすめもあり小樽双葉高女に席をおきましたが教育界になど居れる人柄でもありませんので、翌年三月学期が終りましたのでおひまを頂いて現在の株式会社丹波屋に関係するようになりました。

現社長とは在満当時、満洲中銀でいっしょに仕事をしておりましたのでお互人柄も知っており働き易いと思い入社しました。丹波屋は大正五年の創業で肥飼料問屋の老舗でしたが、入社当初は肥料も飼料も統制で何も出来ません。三、四名で細々と仕事をして居りました。入社したと云っても何も仕事はありませんし月給も働かねば出て来ませんので何でもやらねばならぬと思って下駄の鼻緒、鉛筆、電球等手当り次第手がけました。多少土地を持って居りましたので、それこそ売り喰いで、それを売っては一方では月給の足しにしたり多少でも余裕があれば将来に備えて社員をふやす方針をとりました。社長も私もコロイカルと云う動物用カルシウム剤販売に農家の一軒、一軒を廻ったのもその頃です。そんな事をして三、四年しました処昭和二十五年から六年に飼料、肥料と相ついで統制解除となり昔の仕事が戻って参りました。社員も十数名となって居り丁度間に合ったわけです。中小企業の商売の実態など中央銀行に居って金を貸して居た頃は何も知らないも同様、全く〃盲、蛇におぢず〃で今考えるとほんとうに冷汗ものですが夢中で肥料や飼料と取り組み初めたものです。統制解除当初の肥料商内は面白い程もうかりました。

先程述べました通り〃盲、蛇におぢず〃ですからどんどん農家へ置いて歩いたわけですが、さて決済となってつまづきました。仕入先への支払は手形決済ですからどんどん手形を振り出してありますし、売先からの入金は農協経由と小売商経由との二本建でしたが、その何れもが統制解除早々の事とて誠に不円滑で手形決済日に間に合はず社長も私も数ケ月間苦労しました。銀行に日参したり、仕入先へ手形切換を懇請したり中央銀行員では想像もつかぬ苦しみを味はい目方も三ケ月程で三貫匁も減りました。併し幸ひ銀行と仕入先のお蔭で、その大危機を乗り越える事が出来ました。それ以来、〃腹八分目〃と云う事も覚えましたし手形は便利すぎて現金より恐いものだと云う事も身にしみて覚えました。それが後年何回もの金融引締めと北海道農村の宿命でもある凶作の度々の訪れにも弾力ある運用をあやまらずやって来られた原因だとつくづく思はれます。日銀再割手形にならして貰った事も銀行信用を得る上に大変好果的だったし、融通手形を絶対発行しなかった事もその後の大けがの危険を免れ得た要因でした。

その後二十年、銀行屋二人で再開した経営も順調に推移してどうやら先人の名をはづかしめず昨年の暮には本拠を小樽から札幌へ移し来るべき日の飛躍に対応しようとして居ります。現在肥飼料に硝子、建材部門を加え、売上五十数億、社員百八十名、道内七ケ所に支店、営業所を設け、毎日都市に農村にセールスが走り廻って居ります。

四、五年と云はずごく近い将来、社員三百名、売上百億、資本金壱億を目指して設計をすすめて居り毎日々々がとてもいそがしく過ぎて行く現状です。

仕事が発展するにつれ、系列や関連の企業も増え、幅広い活動をいや応なしに要請されますし、何処まで行ったらよいものか、それが魅力でもあり、又時に空恐ろしい様な感じさへ持つ事もあります。私には子供が一人しか居りませんが会社には次々と後輩が育ってその一人一人がそれぞれのびて行くのを見る事は人生最大の喜びだと思って居ります。

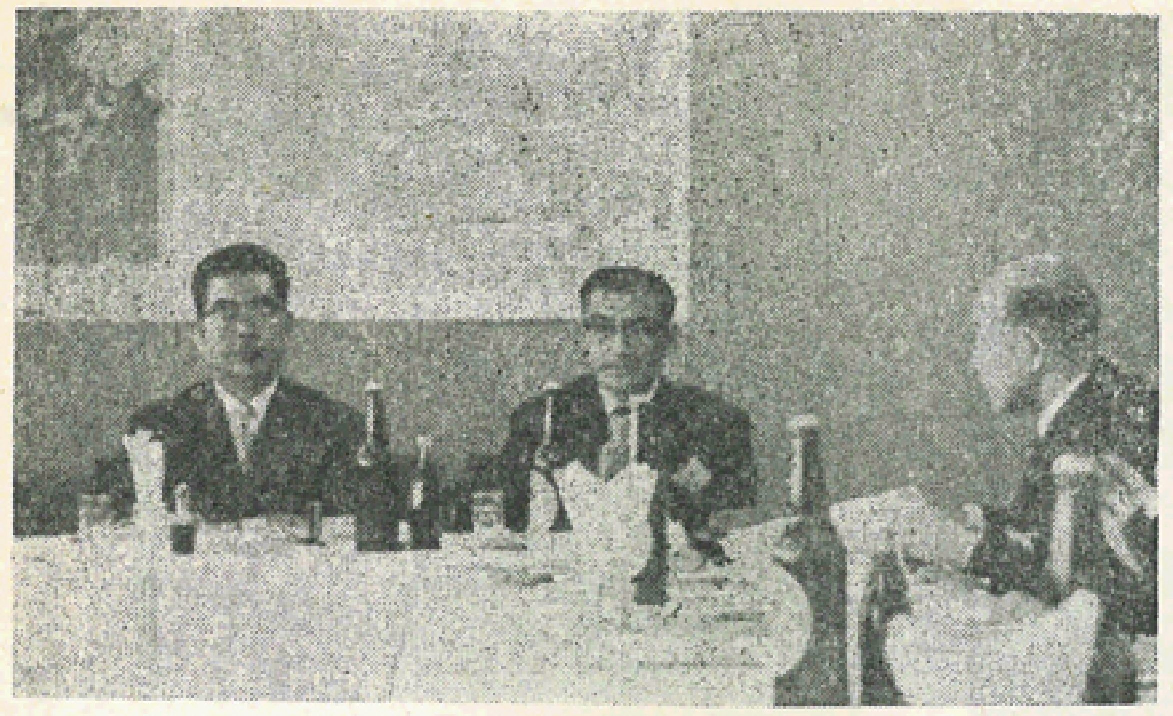
《特別企画》

緑丘人対談

若山永太郎氏 (S13) 「アメリカから学ぶもの」(丸嘉機械株式会社　専務)

北條恒一氏 (S15) 「欧州・ソ連から学ぶもの」(公認会計士・税政評論家)

司会　緑丘編集部　蟇目英三



(左) 北條恒一氏 (右) 若山永太郎氏 (右端) 司会者

司会者　緑丘会大阪支部十日会ではじめての試みとして、東京から北條恒一氏をお招きして昭和十三年卒若山永太郎氏との対談を計画しました。

若山永太郎氏は日本能率協会主催訪米セールスマネージメント研修チームに参加され、去る五月末より一ケ月余り北米各地を視察して参りました。

北條恒一氏は昭和十五年卒、ダイヤモンド社から「税金を軽くする事典」を出版されている事はご承知の通りですが、欧州税政研究のため六月初めから一ケ月余りソ連・西独・スエーデンなど各国を視察して帰りました。

本日はご両氏に訪問された国々から学ばれました事をお話し願いたいと思います。

まず最初に旅程、その目的などをかいつまんでお話し願います。

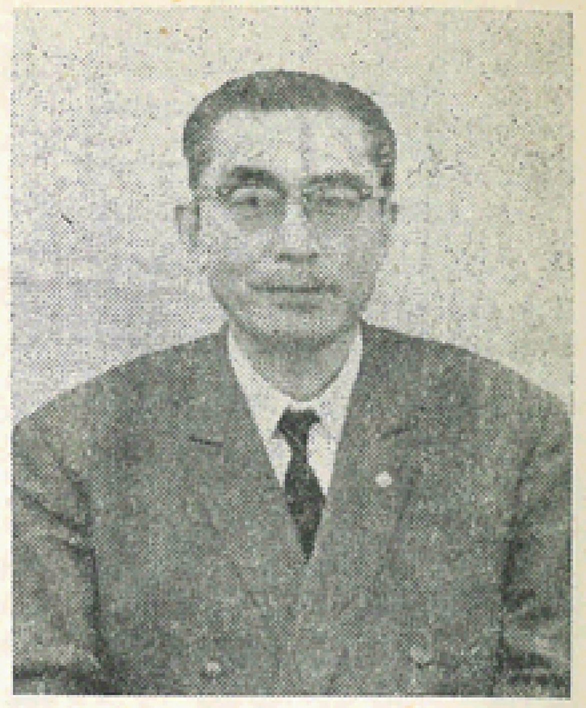
若山氏　実は七月はじめに帰ってまいりまして、七月の十日会でお役が済んだと思っておりましたところ、司会者の方から、北條さんに出て頂く関係上、お前も是非出ろ!!とのご要望でございました。そういうことであれば、止むを得ずやらせて貰いますということで出てまいりました。

講談、漫談、浪花節ではないですけれど、やっぱり真打だけが、ずばっと出たんでは、仲々話が回転しにくいということで、真打のための前座を私がつとめるという様な程度でお聞き取り願えれば、幸だと思っております。

今更アメリカのことを私がわずか一ケ月位歩いて来て、えらそうな事をいうことは、非常におこがましいのですが、私なりに見て来たところを若干申上げたいと思います。

只今から司会者のご要望で旅程と目的の成果の概況を十五分位で説明させていただきます。

MAX FACTOR
マックスファクター
北海道販売株式会社
取締役社長　石崎静夫
本社　札幌市北6条東3丁目　電話大代表(72)1161番
営業所　札幌・函館・室蘭・旭川・帯広・釧路・北見



(若山永太郎氏)

私は、五月三十日東京の羽田を発ちまして、ハワイからサンフランシスコ、ロスアンジェルス、ラスベガスからシカゴ、そして、オーエンイリノイズと云う、日本の佐々木硝子と提携している有名な会社で、矢張りガラス容器とか、そういうものを作っている有名な会社を訪問するため、オハイオ州のトレドーへ行き、シカゴに戻りました。それからはシカゴを拠点に、農業機械と建設機械をつくっておりますディアー・アンドカンパニという会社を訪問するためにモーリンを往復したり、バトルクリークにある東洋運搬機が業務提携いたしておりますクラーク・エクウィプメントという会社を視察しました。シカゴでは、アドミラル・コーポレーションという会社外数社を訪問し、次に有名な金銭登録機のナショナル・キャッシ・レジスター(NCR)会社のあるデートンを訪れ、ワシントンに入りました。

それからハリスバーグ。このハリスバーグのそばにゲテスバーグがありますが、これはリンカーンが「人民のための、人民による、人民の政治」という名セリフの有名なゲテスバーク演説をされたところです。

それからクリーブランドを経て、ニューヨークへ入りました。ニューヨークへ入りましたのは、六月の十九日で、更に四、五社見学しました。二十四日の晩は、緑丘会ニューヨーク支部で歓迎会を盛大に開いて頂きました。前号の緑丘誌に発表しました通りです。

それから社用で約十日間程ニューヨークに滞在、さらにボストンにとび、ケープコードの突端までドライブし、更に私がかねて行きたいと思っておりました、有名な一六二〇年にメイフラワー号が上陸したというプリマスで一泊、これを最後の土産にして、ニューヨークから七月三日に帰国しました。

この様な内容でございます。

見ると聞くとは

さて、目的は何であったかと申しますと、これは先程も司会者からお話がございました様に、日本能率協会がスポンサーいたしました〝訪米セールスマネジメント研修チーム〟というのが正式の名前です。かねがね私は会社の仕事の関係で、マーケティング研究をいたしており、その中で特に我々の様なディラー或はデストリビューターの場合には、セールスマネジメントが非常に大事だと考え自分なりに研究していたところ、たまたま今度そういうチームが結成され、参加させて貰った訳です。!

これが今度の大きな研修目的でもありますが、それでは一体どういうことを勉強して来たかと云うと、後程時間をとって詳しくお話ししたいと思いますが、約五年程前から、セールスマンシップ、セールスマネジメント、更にマーケティング研究をアメリカの文献を通じ、実際に会社で社員に教育をしながら、実行させてまいりました。

それとやはり現地に行って見て、非常に目を見張るような新しいものは余り見られませんでしたけれど、大体、自分でかねて研究しておったものが、カリフォルニア大学をはじめとして、あと十五の事業会社のそれぞれの何処かに、確かにあったということを知り、非常に嬉しく思いました。更に又、いろいろと自分の研究しておったところが違っていたところがあり、非常に勉強させて貰いました。

尚、その他に、アメリカというものをもう少し、歴史的にも勉強してみたいということで、これも三年前から私なりに研究しておった訳ですが、矢張り今度行ってみまして、いろいろと先程のマーケティングではありませんが、かねて読んでいた歴史のいろいろなものをこの目で見ていい勉強になったと思っております。

特に帰って来まして、アメリカのテレビを見る、或は、文献を見た場合に、土地観というものが非常に出てくる。この間もクリーブランドで黒人が騒いだ、ああ、あそこだなあという様な具合にピンピンと来る様になったことも非常にいい勉強になります。

丁度、ロスアンジェルスに入った日が、カリフォルニア州のいわゆる予備選挙の当日でございました。

R・ケネディ、マッカーシー等がここにヘッドコーターを設けて、選挙運動をやっておりました。それからその翌日ラスベガスへ行った時ですけれど、ホテルの部屋へ戻り、テレビを見ておりましたら、殆んど選挙の状況をやっておりました。仲々テレビで話していることが分らないが、出てくるのが全部R・ケネディの選挙事務所ばかり(アンバサダホテルでした)で、これを見ておって矢張り、ケネディの方が優勢なのかなあという感じをして夜三時頃迄テレビを見ていました。翌朝、七時頃ホテルロビーへ行きましたら、新聞に、ケネディショット　マッカーシーという記事が出ていました。矢張りカリフォルニアで勝ったのだなあということを考え、その日の午後に今度は、シカゴ経由でトレドへ行ったのですが、シカゴの空港で皆が新聞を見ているので、私も買って見ると、ケネディ　イズ　ショット(ケネディは撃たれた)なんです。朝、ラスベガスで見ましたのがケネディショットなんです。ケネディが引きはなしたというショットで、夕方には、ケネディ　イズ　ショット撃たれたという記事で非常に驚きました。

これは、奇妙な話で、四年半位前ですが、弊社の副社長が、日本生産性本部の機械セールスマン養成状況視察というチームで、アメリカへ行った時、兄のケネディ大統領が、ダラスで暗殺された時でした。今度は私が渡米した時、弟がやられたということで、何か因縁があるなあといった次第です。

これ位にして、真打の北條さんに

バトンをお渡しします。

北條氏　西ドイツへ一度行って見たいと考えておりましたのは、かれこれ五、六年前からでした。たまたま機会があって太平洋観光の高橋さんのお世話で六月に一寸ばかりのぞいて来た訳です。行って参りました日程の大体を申しますと、六月六日羽田発、例のモスクワ行直行便の大きな飛行機でモスクワ迄一気に行った訳です。

ソ連の飛行機はこりごり

この飛行機に私は実は二度とはのりたくないと考えております。と申しますのはさすがにソビエト式の図体の大きい、落ちても大丈夫のようながんじょうな飛行機ですが、いかにも中での音と振動、これには本当にやりきれないような十二時間を過した訳です。塔乗員は十五人おりますが、日本人のスチュアートとスチュアーデスが五人、あとは全部ソビエト人がのっております。

（北條　恒一氏）

大体日本をはなれるのに最終的には佐渡島しか見られなかったのですが、あとは樺太の沖合からシベリアの原野の上をとびっぱなしです。ただ途中で一寸見ましたのは山の中に兵舎じゃないかと思われるようなものが整然と建てられていました。

私出かけます時に、モスクワ飛行場では税関で品物をまきあげたり何かするというような、非常にこわいアドバイスを受けていましたが、そのようなことは全然なくいともなごやかに、なごやかといっても英語もろくに話せずドイツ語は更に話せないという、全くのやじ馬根性ででかけたものですから、とにかくたどたどしい英語でツーリストの連中がなんとか世話だけはやいて下さいました。

ドイツへ

モスクワから六月八日、朝八時二〇分の飛行機でチェコのプラハへとびました。ここでは一応降りる予定でビザだけはとってあったのですが、飛行場で約二時間、とにかくビールが美味しいのでゆっくりビヤホールで過して了いました。プラハからはじめて西ドイツの領土であるフランクフルトへ着きました。そこで飛行機をのりかえてボンの近くのケルンまでとびました。

プラハ迄はとにかく共産圏ですがそこから西ドイツの領土に入りますと、何となく矢張りホッとするような感じがします。これはどなたでもそうじゃないかと思います。

それでケルンからボンに着きましたが、たまたま土曜日午後二時すぎでしたから商店等は全部閉ってお り、まして翌九日は日曜日でこの日一杯休みです。私には大体へんな癖がありまして、外国のホテルへ行きますとすぐにそのホテルの回りをひとりで同心円を描いて地図をたよりに歩いてみる癖があるのです。その円を徐々に大きくしたり小さくしたり、縦横に歩いたりして歩きまわり、一日をすごしました。

ボンに着き十日の朝ボンの近くのバドゴデスベルグの西ドイツの日本大使館に参りまして、モスクワを出て六〇時間振りに日本語を使った訳です。

途中、プラハまではドイツ人も中にはいたと思いますが、ロシヤ人、チェコ人が相当のっておりまして、丁度一〇〇人のりの飛行機が満席という状態でした。

ボンで五日間すごしましてミュンヘンに参りました。飛行機で行くのもいいが、ラインのふちを汽車で行った方がむしろいいんじゃないかというようなことを大使館でアドバイスされまして、汽車にのったのですが、汽車にのって大変な失敗をやってしまいました。汽車だけ途中の駅で先に行ってしまって私だけ置かれてしまったというような失策もあります。ともあれミュンヘンにどうやらたどり着きまして、それからベルリン、ハンブルグ、ストックホルム、コペンハーゲンを経て日本へ帰ってきました。旅行の目的は何であるか、いろいろ考えてみましたが、私は妙な放浪癖がありまして時々あっちこっちご迷惑をかけることがあるのです。何か日本という国にまあ嫌気がさして来た、それと政治・経済の問題、いろいろな面に対する絶望感が、思い切って外国へ行かして、そして永久に自分が安らかに住める土地というものが何処かにあるのではないかと、それを求める感情が矢張りこういった旅行に駆りたてた、と、考えております。

それともう一つは一九四五年に日本もドイツも同じ年に戦争に負けて、二十数年経て今日ドイツの国民所得と日本の国民所得とを比較した時に、ドイツは日本の二・二倍にもなるということ、こういうことは何に原因があるのだろうか。又もう一歩私共の専門である税金の問題から考えましても、その国民所得に対する課税の最低限のあり方、これを考えた場合に日本のその課税のあり方というものが如何にも重くなっている。これは日本の貧困を象徴している訳です。

たまたまこの問題に関連しまして、せんだって中央公論から特急で差し替えの原稿を頼まれまして、九月号の「東風西風」に自分の好きなことを書いたんですが、あの記事を書きます時に、労働者の一人一時間当りの賃金が、日本はメキシコの下だったということを知りました。こういうことなどからしまして如何にも日本という国は何処かにおかしなひずみを持っている、そういう所をドイツに実際に行ってみて矢張り膚に触れてみなければいけないのじゃないかと考えていました。私毎日新聞に昭和四十年来原稿を書いておりますので、デスクの人とそのことを話をしておりまして、それではもう是非行こうと決心していました。

帰って来まして、矢張りいろいろ振り返ってみますと、矢張り私自身がもう少し語学をしっかり勉強していなくちゃいけないんじゃないかと、私、実は来年も行こうと思っているのでこれから少しドイツ語を勉強しなくちゃいけないというようなことを考えております。

そしてただ感じた、いわゆるドイツ国民としての生き方、そういうものについて、あの土地でドイツ人に接し、そして矢張り得て来たものは何かあると考えています。

司会者　アメリカ、ソ連、西独、スエーデンなど各国に於いて特に問題となっていたと思われます事や、学ぶべき数々のお話をお願いします。

若山氏　それでは、アメリカの方から話をいたします。

最初に非常に大きな期待を持っていろいろ勉強しようと、アメリカへ行った訳ですが、行って見て案外アメリカは、日本と違っておらんということがピンと来ました。

例えば、グリーブランドのアイランド・コール。これは石炭の販売会社ですが、親会社は石炭を掘っている会社です。この親会社の方の副社長で販売会社の社長いわく「事業は人なり」。丁度、うちの社長が云う様なことをパッと云う。そういうことが、十五の各会社随所に聞くことが出来ました。

自己申告とは

何かアメリカというと、非常に会社間の人の移動が激しい、一寸でも賃金が高ければよそへ行くとか、そういうように非常にドライに割切ってやる様なこと、特にセールスマンなんか移動がはげしいのではないかと考えていましたが、決してそうではない。むしろ一流のセールスマンになると、定着性がある。一面非常に違うと思われる点は、例えば人事考課状です。日本では従来は、自分の考課状は永久に自分が見ることは出来ない仕組みになっています。ところがアメリカの場合は、これは各社で聞きましたけれど、本人が自分の考課状を書くそうです。

自己申告書という見本が最近ありますが、その自己申告書を好きな様に自分が書き、それを自分の課長のところへ出すそうです。自分の総合点数は8点とつけている。ところが課長から見ると一寸甘い。6点だ。そうすると、そこに2点の開きが出来るので、二人が寄ってディスカッションをやるそうです。お互にいろいろの項目にわたって検討した上、一つの案に落付ける。そして今度は部長がもう一度検討し、更に上の方へ出すという具合に、その辺が話合いで行われる。こういうところが、矢張り、日本と非常に違っている。そういうやり方が、最近どんどん日本でも取り入れられてる様ですが、どうしてそういうことがアメリカでは行われ、日本の場合は行われなかったかということを考えて見た時、これは矢張り今までのアメリカの歴史というものと、日本の歴史というものを比較して見なければいけないと思います。

一六二〇年にプリマスに、メイフラワー号が百何人かの聖教徒をのせて上陸した。一方日本ではその二〇年前の一六〇〇年というのは、九月十五日が、有名な関ケ原の戦いが行われた年月日です。

あれから日本の場合は、いわゆる徳川幕府三〇〇年、秩序の社会というものが、あそこで出来上り、士農工商の階級制度、鎖国までして、いわゆる秩序を保とうという風な制度をとってきた。ところが、一方アメリカはそうではない。どんどん競争と自由ということによって今迄やってきた訳なんです。従っていろんな人種がどんどん入ってくる。だからこれは五〇の国があり、ユナイテッド・ステート・オブ・アメリカで、五〇のステートがあり、かつて皆違った国の人々であり、税金のお話は北条先生が本職でございますが、タバコの値段が、州によって違うんです。これは州税の関係です。田舎へ行ったら安く、ニューヨークで買うと高いのです。そういうふうに、非常に種々雑多な人間が混っている関係で、いわゆるコミュニケーションというものが非常に大事になってきます。アメリカから帰って来ての率直な感想はいろいろありますが、一つは、日本の国民というのは恐ろしい国民になるのではないかと思います。日本は非常に教育程度が統一されていて高い、しかも人種が一つですね。ところがアメリカへ行って見て、黒と白と並べて見たら、全く碁石の白と黒とまぜ合せるみたいなもので大変な状態なんです。

日本の国民というものは、非常に幸せだという反面、いわゆる先程の考課状の問題に戻りますが、何というか、日本の我々の場合には余りいろいろから指図をするよりも、いわゆる、顔と顔、肚と肚とでやることの方が案外スムーズに、コミュニケーションが行われている。ところがアメリカでは顔と顔といっても通じない。ソニーの盛田副社長さんがニューヨークへ行って販売会社を作り、セールスマンの募集をやったら、いろんなセールスマンが入ってくる。黒もあれば白もあると云った具合に、この製品をお前はこのマーケットへ行ってこの値段で売ってこい、代金はこう回収してこいということを、詳細に示さないと通用しないという状態であったそうである。そういうところが非常にアメリカと日本の相違点ではないかと思います。

黒人問題

特に黒人問題なんかも、いくら日本で新聞を見、我々が頭でこれを理論的に考えたり、或は、批判しても当らない。サンフランシスコに上陸して見る、或はシカゴのハレム街を自動車で一ペン通ってみたら、あるいはホテルで仕事に来る黒人を見ると、これはベトナム問題どころではない、大変な問題をはらんでいるのではないかとすぐ気がつく。飛行場のポーターなんか非常に体格が隆々としている。これは当り前だというんです。何故かと云うと、アフリカから最初奴隷で買って来た、そのころには大して体格はよくなかったんですが、使うのだから丈夫にしなければならないということで、馬匹改良のようにどんどん改良して来たそうですよ。それに対して白人は現在も SHAME を感じている。反対に黒人は、お前等は我々をこのように取扱ったではないかと甘えきっているという様なことで、非常に大問題

であると思います。

ベトナム感

次にベトナム問題は、向うへ行くと全く感じません。丁度、我々少年の頃から満州事変、北支事変、支那事変、或は、今度の大東亜戦争と、たびたび戦を自分なりに経験しておりますが、日の丸の旗を振って赤襷をかけ、歓呼の声に送られた、いわゆる戦争風景なんてものは、殆んどアメリカでは見られない。たまたま田舎のモーリンだとか、バトルクリークへ飛行機で着いた時に、ローカル線の飛行機に一人か二人必ず軍人が乗っている、あきらかにベトナム帰りなんです。飛行場には、必ず奥さん或は、母親、子供が来て涙を流して生きて帰って来たことを喜んでいる光景を見ると、ああ矢張り戦争をやっているのだなあというのが、そこで分るけれど、他では全然戦争の感じがない。まあそんなことで、日本の方がむしろ、シリアスに騒ぎ過ぎているのではないだろうかという具合に感じました。

北條氏　次に、特に問題となっていたことにつきましては、先程申しあげましたように語学力の不足から何も学んで来なかったといった方が正直ではないかと思います。ただモスクワの税金と物価のお話と西ドイツにおきましてドイツ人の税金に対する考え方と、いわゆる福利救済の問題について一寸お話をいたしたいと思っております。

モスクワの税金と物価

六月七日朝大使館から迎えの車が参りまして、この車が大使館からの電話で、お前さんはロシアの車はわからないだろうから日本のコロナを廻すからそれにのって来いといわれました。

ウクライナホテルの前に身体の大きいロシア人がコロナのわきに立っておりまして、お前が大使館に行く男であるかというようなことを聞いておりました。

大使館に参りまして大蔵省から派遣されております村山さんという一等書記官にいろいろとお話をうかがったのです。

たまたま一昨年ある新聞に日本共産党の支配下にあります民主商工会の悪口を書きましたところが、彼等の全国的な親玉と論争をしまして、ついに告発され、東京地検の特捜部の取調べを一年間受けました。いわゆる被告発人のような状態で、昨年十二月にけりがついたばかりで、そういう意味から共産主義者の国の状態というものはどういうようなものであるかということを少しばかりのぞいて見たいと思ったのでモスクワへ行きました。

モスクワでソビエト全体にいわゆる個人の所得に対して、矢張り所得税があるということに先づ驚きを感じました。ソビエトの経済のあり方、それに西欧化のきざしが見えかかっているということ、それともう一ついわゆるソビエトの国民、人民といいますか、生活必需物資が非常に値段の高いものである。そういう点から一般の国民が相当かせがないと食って行けない状態にあるというようなことを見たり聞いたりしました。

所得税の問題にしましても日本の独身者の課税最低限が月額にしまして二万六千五百円ですが、それがソビエトでは二万四千円が課税最低限になっている。それ以上の所得者は税金を払わなければならない。この税金の取り方も日本と同じように源泉徴収をされているということ。この外にいわゆる自由職業人、こういう人達だとか、特定の例えば大工さんだとか時計の修理をやっている人、小さな個人企業のような人にも矢張り所得税が課せられている。中には医師などで病院に勤めておって夜は自宅で患者をみる、というような場合には矢張りこの所得を合算して申告しなければいけない。

これについては一定の標準率があってそれによって課税をするように仕組まれている。こういったことなどについては、私は全く知りませんでしたが、矢張り日本と同じようじゃないかと感じ、それにいささか西欧化して来ているということは、企業はすべて国営ですが、その企業自体に個々の企業にデレクターと申しますか、企業の長がおりまして、その判断によって自由に利益の処分が出来る範囲は広まったということ、こういう考え方は矢張り自由主義諸国ですでに実行していることで、そういうようなやり方が一九六六年から出来ています。企業の固定資産の総額と流動資産の総額それに対する六%、これがいわゆる収益控除という形で国の方へ先づ取られてしまう。法人税に類するものです。

利益の中からそれを差引いた残り、その中からある程度をその企業の長の任意の判断によって従業員に対してボーナスを支給出来るようにしたということ。ですから企業の利益の出具合によってそのボーナスの高も違ってくる。それともう一つは社会文化的な施設に対して、矢張り企業の長の判断によって資金を流すことが出来る。このようなことはソビエトとして新しい転換だというような風に聞いて参りました。

欧州で一番大きいといわれている、モスクワにロシアホテルという新しいホテルが建っております。あいうことはロシア人が好きなことなんだそうです。部屋数が六千、非常に大きなホテルですが、そこで今度外務省の欧亜局長になられました有田さんがそこの公使をしていらっしゃいまして有田さんにご馳走になったのです。そのホテルを出まして若い書記官がついてくれまして、何処かえ行って見ますかということで丁度二時頃だったものですから、私はあまり人の行く所へ行ってもつまらない、あまり日本人の行かない所へ連れて行ってくれといいましたらそれじゃ行きましょうという訳で行った先が自由市場でした。

この自由市場は建物自体国有ですが、その中で売っている品物それから値段、これは全く自由になっております。品物が自由といいましても、大体売場が野菜売場と肉類の売場と花の売場と、こういった三つに分けられていました。野菜売場で驚きましたのは如何にも値段が高いということ、例えばじゃがいもが一キロ当り二ルーブル、日本円にしまして八〇〇円で、トマトが五ルーブル、いちごは私が北海道におりました時によく食べたような小粒のものですが、これが矢張り三ルーブルです。日本と同じようなニンニクが三ルーブルで、ただ安いと思いましたのは牛肉・鴨肉・豚肉これが大体一キロ当り二ルーブルをきっております。八〇〇円以下です。

こういうように物価もとくに野菜等が非常に高いということ、案内してくれました書記官の人がいっておりましたのは、大体ウクライナ人が売っていること、自分のコルホーズなどで作った品物を政府の機関に出して、残った物を自由に処分出来る物これを持って来て売っている。そうして馬鹿に値段が高いじゃないかというような話ですが、たしかに花一本にしましてもバラの花一本二百何十円と大した花じゃないんですがこのように物が高いことからソビエト人の生活の一端がうかがえたというように感じた訳です。

それともう一つは物の高いついでですが、ドルで物が買える店、特定の店が設けられておりまして、というのは矢張りソビエトもドルを蓄積したいという考え方からなんだそうです。ウクライナホテルなどにもドルショップという店があります。そこではルーブルでは絶対買えない米ドルかあるいは日本人の場合には日本円、それなら買えます。ここで買う場合には比較的良くて安い物が買える。たまたまホテルで食事をしておりましたら丁度九時の閉店まぎわで、お腹のまわりが二メートル位あるようなおばさんが一〇ルーブル紙幣を二枚出しまして二人ですが（ロシア人というのは、皆女性はある一定の年令に達すると急にまわりが大きくなるらしいのですが）私に靴を買って来てくれというのです。

ドルショップへ行って一〇ルーブルといいますと四、〇〇〇円ですがとにかくこれで買って来てくれと、いうようなことをいいましたが、いわゆる生活必需物資には比較的困っているんじゃないかと感じました。

それとセーター一枚にしましても、七〜八、〇〇〇円、日本と比べると比較的高いと思いますから共かせぎをしないといられない。舗装道路などによく安全横断の標識もありますが、あいった標識をつけている人を見ました所、四〜五〇位才のおばさん連中が五〜六人グループになって働いている。このようにいたる所に女の人が働いている、まあこのようなことを感じた訳です。

司会者　次に専門分野から研究テーマとその訪問先国の特色や私たちに参考となると思われますことをお話し下さいませんか。

現実の問題へ

若山氏　実は今度行くにあたり、会社の社長からいろいろな課題を貰いました。その課題の中の一つが、〝アメリカでいろいろと勉強して帰って来る迄会社の販売組織に関する変更の意見が営業の方から出ているが全部待たして、君が実際にアメリカでいろいろと勉強して帰って来た結果によって、会社のセールスオーガニゼーションを決定変更しようと思う。従ってよく研究してくれ〟こういう非常に大きな課題を貰って参りました。

と云いますのは、実はうちの会社も機械を販売する会社で、従って我々の場合には、あくまでもお客さんの方を向いて仕事をする、いわば顧客志向型という販売組織をたてなければいけない。顧客志向型というのが今度の私の研究の大きなテーマでした。成程アメリカへ行っていろいろと十五の会社を廻って、この顧客志向型というオーガニゼーションのシフトの仕方が極めて積極的に行われているということを発見いたしました。例えば、従来であると製品別に部門を分ける、地域テリトリー別に部門を分ける。ところが、これもある程度行われているのですが、それ以上に自分の会社がいわゆる製品を売るマーケットを業界別に分けている。例えば自動車産業にはお前のセクションはあるんだ、それからお前のセクションは農業機械と建設機械の業界に物を売るんだ。或いはお前の業界は航空機業界に突込んで行くんだ、という具合に、業界別にこのオーガニゼーションが組まれているという例が非常に多いのです。

私、そういうことがあるという事をある程度本では読んで行ったのですが、各所でそれが行われております。ところが今度十五の中のほとんどがどちらかといいますと二、三社を除いて生産財が多かったのですけど、そういう会社の販売組織を見まして、顧客志向型の仕方が非常に多かったということが一番勉強になった一つで、それから次はデビジョンという事で、まあアメリカのデビジ

三菱石油
住友石炭　特約店

（住友の冷暖房機）

増田商事株式会社

取締役社長　増田　宝

相談役　宮地邦介（大11）

給油所　福島　内本町　天神橋　壺屋町　緑橋東　鴫野

ョンというのは一つの会社をなしているのですけれども、例えばみなさんご存知の様に、会計機のユニバックという会社があります。あのユニバックはスペリーランドという親会社の中の単なる一事務機事業部門なんです。

ところがあのユニパックは知っているけれど、その親会社のスペリーランドの方は案外我々も見逃している様なんですが、デビジョン、デビジョンによってすきな様に販売組織をとっている。要は製品を売るために如何に便利な方法があるか、という様な仕方でやっている。だから同じ様に二つの部門があって、それぞれセールスマンは別な採用の仕方をしている。しかもいわゆるコンペンゼィションのやり方も違っているという例が、サンフランシスコのファイバー・ボードという会社でも拝見しまして実はびっくりした様なわけです。それから、非常にオーガニゼーションを変える場合にダイナミックに変えて行く、これも大変に刺激を受けました。けれども丁度最初にカリフォルニア大学マーケッティング担当ダンカン教授にいろいろとオリエンテーションをやって貰い、その最後にこういうことを言われたのが非常に印象に残って居ります。

「あなたが販売組織の変更をやらなければ、だれかがそれをねらっている」

うちの会社の場合私がやらなければいかんという様に、自分が自分に言い聞かせながら大きな変革を今計画し、大体プランができあがりました。

その外、例えばアメリカの場合、セールスマンは非常に能率給が多い、歩合制が多いと、いう具合に我々は考えますけれども、今度歩いた十五の会社では、わりに能率給（「インセンテブ」—刺激給とよんでいるケースが多い）の比率が少いということなんです。中には今迄やっていたけれどもうやめました、というようなことがあったり、大体全般が一〇〇なら一五％位が能率給である。一五％のインセンテブを出すために非常に細かいテーブルを作って計画している様な状態です。

北條氏　モスクワの話をいたしますとまだいろいろ私共考えなければ問題が沢山ありますが、肝心のドイツの話の時間がありませんので、税金の問題にからみましてドイツの話を少しばかり申しあげたいと思います。

ドイツの税金に対する考え方

ドイツの首都は現在ボンになっております。これは大使館の吉岡参事官に聞いた話ですが、フランクフルトを西ドイツの首都にするかボンを首都にするかということについて連邦議会で議論が伯仲しまして、たった一票の差でボンに決ったのだそうです。それで一応現在ボンが西ドイツの首都になっています。ボンでは一日間を置いて延二日間ボンの税務署長といろいろ話をしまして、ドイツの税務行政の税務管理の面からのお話を聞いたんですが、その中で心に残っております点を二つ三つお話をしてみたいと思います。

先づ日本の反税的団体から告発されたりしましたので、ドイツではそういった反税団体があるのかあればどういうような働きをしておるのかというような質問に対しまして、ドイツ人は税金が何のために払わなければならないかということについて、非常によく理解している。矢張り国として金がいるからには誰かが払わなければならないという考え方が徹底しているというような回答でした。このことからこれが実はドイツの今日の繁栄に結びついて来るんじゃないかとも思います。

先づ第一に、西ドイツでは戦争に負けたとたんに政府はどんな貧しい労働者でも日本でいえば2DKのアパートに住めるように、何はおいても住宅の建設ということに力を尽した。そういう様なことが今日大きく響いていることです。ですからどんな町を歩いて見ましても日本のように四帖半一間に何人も詰め込まれているというような所は何処にも見当りません。労働者の人達は安心して働けるということ、結局自分達が払った税金がそういう所にはっきり還元されているということを国民自体が膚で感じ取ることが出来るんじゃないか、そういう点から税金についてのいわゆる厭税的な考え方、そういうものが生まれて来ないというように感じさせられた訳です。

これが又、デンマークに参りました時にデンマーク大使館の福田参事官がわざわざ車で迎えに来て下さいましていろいろ話をしてくれましたが、中学校を出たばかりの少年が日本の円に直しまして月に六万円位給料を貰っている。その中一万円位が税金に取られて了う。ところが、誰一人として税金について文句をいうようなことを聞いたことがない。その自分達が払っておる税金が自分達が年をとった時にそれが社会保障というような形で還元されて来るということについて認識をしているからだと、こういうような話を二つ並べて見ますと成程そういう所に矢張り日本の政治のあり方と、ヨーロッパの政治のあり方との違いがあるんじゃないかというようなことを感じた訳です。

それときわめて事務的なことになりますが、これは国税庁の広報課長からとくに頼まれておりましたので西ドイツの税務行政上いわゆる広報活動、日本では盛んに国税庁がビラを作ったり、あるいはポスターを作ったり相当な予算を使っておりますが、そのような広報活動については、どういうようなやり方でやっておるのかということを聞きました所がそれは殆んどやっていない。というのは毎月のように新聞記者との定例会見がある。そこで中央紙、地方紙を問わず、新聞の記事にのった税金に関する問題については、ドイツの国民が知らないとはいわせないんだと非常に厳然として云われました。

しかしポスター位いくらかあるんじゃないですかと云うことを聞きましたら、納税時期等には教会とか公会堂こういう所に小さなポスターを貼ることもあると、その一枚を見本にくれないかといって貰って参りましたが、きわめて簡単なポスターでした。そういう所に金を使わなくて

もいいということは結局徴税のコストが安くあがっているということになるのではないかということを考えました。

それから西ドイツで日本と税務行政上大きな違いのありますことは、日本でも最近問題になっております納税者の権利救済の問題です。これはたまたま税務調査会で盛んにとりあげておりますので、国税庁の協議団本部長と話して矢張り向うの資料も少し貰って来るようにしたんですが、西ドイツにおきましては納税者の権利につきまして非常に手厚く保護をされている。と申しますのは矢張り申告納税制度で申告をいたしまして税務署がそれに対して、これは間違いだといってその更正をする。この更正に対して納税者が異議を申立てる、その異議を申立てた結果それが通らないということになりますと、直ちに州の租税裁判所にそれを持出すことが出来る。そこで州の租税裁判所で又採決がありましてまだ納税者が不服だということになりますと、今度はミュンヘンに租税についての最高裁判所があります。これを日本語に直しますと連邦財務院ということになるんですがそれが租税についての最高の裁判所になっております。

ここでは四十一人の裁判官がおりまして、最初の裁判は一人の裁判官がその書面だけで審理をして、それを五人の裁判官でいわゆる秘密非公開の裁判をする訳です。そして何等かの結論を出す。その結論を原告・被告に通知をする。それに対して不服がある場合にはもう一回連邦財務院に対して裁判を起すことが出来る。この時にはじめて公開で裁判を行うことになっております。私その公開の裁判所を見せていただきました。仲々そういう点についてドイツ人は理屈っぽいといいますか、権利救済の面につきましては非常に手厚い政治が行われておるというように感じて来た訳でございます。いろいろまだお話をしたいこともありますが、この辺で一応終らせていただきます。

司会者　ご多忙のところ有難うございました。

この「緑丘」を毎号アメリカ・ニューヨーク支部会員へ送ることについて若山永太郎氏がその費用を引き受ける旨申し出がありましたので紙上をかりてお礼申し上げます。

〃緑丘〃特集計画とお願い

次号は**大西猪之介教授特集号**そして続いて**二代校長伴房次郎先生の書翰と追憶**を計画しています。編集部は莫大な出費を覚悟の上この出版に踏切るのです。そのためこの十余年間続けて来た緑丘が空中分解するかもわかりません。どうぞ広告のご協力とまだ四三年度申込みのない方がたくさんおられますのでどうぞあなたからも購読をおすすめ願います。

《緑丘外史資料》

恩師考

校長更迭の経緯

伴、中村和之雄両先生の場合

神部 健之助(大一二)

初代校長渡辺さん、二代校長伴さん、この校長更迭の時は筆者が在学中であったので、渡辺先生の留任運動をやったが、「老齢地獄坂を登るに堪えず、二代校長として、人格識見共に優れた、伴先生が二代校長になるので」と訓辞を残して、名古屋高商へ赴任された。

然し、二代校長三代校長の更迭は、少し意味が異る。当時としては教授筆頭は文学士中村和之雄先生、次が苦米地英俊先生だったから、順序としては中村校長が実現するのが当然だった。時の文部大臣は松田源治であった。

読者は此の事を念頭に入れて、次の中村先生のお話を聞いて貰い度い。

昭和十年三月突然文部大臣から、伴校長に至急上京せよとの連絡が有り、伴校長が其時直感されたのは、渡辺校長が在職十年、自分も十年余やって来たので、さては辞職勧告かと考えて上京されたらしい。

正しく其通りで、大臣から「君も小樽の校長を十年余やって来たので、ここで挂冠して貰い度い」と言い出されたので、伴校長も残念だったらしいが、納得されるより他なかった。大臣は永い間のご苦労を謝し「時に、次の校長の件であるが」と今度は相談づくで言い出した。

「他の専門学校の校長の任命は何でもないが、小樽は特別の事情で誰でもいいとはいかない、本省でも色々考慮したのだが、次の校長には苦米地君になって貰う積りであるが、どうか?」と、伴校長の意見を求められた。伴校長は当然中村筆頭教授が推されると、思っていたので、賛否を答えず「此の件に関しては私は意見を申し上げ兼ねますし、私から中村教授には何も話しませぬ、私は直に帰樽致しますから、交替に(入違に)中村教授をお招き願って、直接大臣からお話し願い度い」旨答え、急遽帰途に就かれた。

中村教授は大臣からの招電に接し急ぎ上京した。伴校長の乗った列車と、中村教授の乗った列車は途中で擦れ違いになった。

中村教授は、伴校長がご滞在中だと思って上京したのに、ご退京を知って一人で文部省へ出頭、松田文相にお会いした。

文相は「伴校長は挂冠を承知して呉れた。それで、次の校長の件だが、高等学校なら当然文学士の君が、校長になって貰うのだが、小樽は専門学校だから其方の専門の苦米地君になって貰い度い。尚君は苦米地君の校長の下で教授は勤まらぬだろうから、専任講師となって苦米地君を援けて小樽高商の為に尽して貰い度い」と懇ろに頼まれた。大臣の招電、校長更迭を考えて上京した中村教授も、応諾せざるを得なかった。そして帰樽した。

× × ×

越えて四月苦米地教授の校長昇任が発令された。

中村和之雄先生は時々来校された。時には軽井沢の拙宅を宿にされた事が二、三度ある。此の話は母校講師になってからの先生と枕を並べての寝物語に聞かされた一節である。

伴先生は小樽に帰って直接中村先生に打開けかねて、大臣から直接話して貰った。伴先生は其程人情味、温情味が有った人だと中村先生が述懐して居られた事を茲に付言して置く。

× × ×

明治十一年大久保利通が殺される三十分前の朝、県令として赴任の挨拶に出向いた山吉盛典に向って訓した「物事の成就には三十年を要す。最初の十年は創成期、次の十年は守成期、此の二十年を過ぐると発展期に入る」と寔に名言である。

小樽高商もこの例に洩れない。

最初の十年は創意工夫の有る人の活躍時代、然し未だ混沌たる時代である。この時代を初代校長の渡辺龍聖先生がやられた。

次は守成の時代である。此の十年は創造した前十年をシッカリ踏襲してゆく時代である。此の時代を伴房次郎先生がやられた。そうすれば次は自然発展の時代に入るのである。

日本の明治維新も此例外ではなかった。十年迄は諸施政の初め又内乱が続出鎮定。次の二十年迄は全く守成の態勢だったので明治二十年代の発展の期に入ったのだ。即ち二十三年の憲法発布、両院の開設、世界的三大冒険、日清戦争の大勝と著しい発展の時期に入った。

小樽も創立二十年を過ぎた頃から、名門校として、世の人々の口にのぼる様になった。吾等地上に残る幼学徒は渡辺、伴両校長の偉業に感謝すべきである。又校長、学長が六十年間、僅に六人、これも同窓の団結を堅くしている理由の一つでもある。

開道百年祝典の日稿
於 横浜・白瀬廼舎

(訂正) 前号五七頁昭二会全国大会写真説明の氏名「前列」「後列」入れ違いにつき訂正します。

January15, 1968

RYOKKU KAI

《NEW YORK》

氏名	卒業年度	勤務先住所	自宅住所
Yajima, Kiichi 矢島喜市 (Adviser)	大13	Trapac Corp. 1412 Broadway New York, N.Y. 10018 LO 3-5484	Summit Road Port Washington, N.Y. 11050(516) PO 7-1952
Horiguchi, Mitsuo 堀口光夫	昭4		Apt 17-C, Bldg. Rome 96-10 57th Avenue Lefrak City, Rego PK AR 1-3746
Awano, Syunsuke 粟野俊助	昭12	Marubeni-Iida(America)Inc. 200 Park Avenue New York, N.Y. 10017 973-6500	53, Bayview Ave. Great Neck, N.Y. 11021 (516)466-3868
Tanaka, Yasuo 田中康夫	昭13	Ataka New York, Inc. 633 Third Avenue New York, N.Y. 10017 OX 7-7480	
Sawanobori, Motoharu 沢登源治	昭14	Mitsui & Co. (U.S.A), Inc. 973-4600	
Ueda, Masanao 上田正直	昭18	Mitsubishi Int' 1 Corp. 277 Park Avenue New York, N.Y. 10017 922-3700	
Otsuka, Naoyuki 大塚直行	昭18	Mitsui & Co. (U.S.A), Inc 200 Park Avenue New York, N.Y. 10017 973-4600	Hotel Master 310, Riverside Drive New York
Kusajima, Masataka 草島正隆	昭24	Iwai Incorporated 350 Fifth Avenue New York, N.Y. 10001 PE 6-1800	67-3413. 23rd Pl. Bayside, N.Y. 113641 BA 5-6540
Komazaki, Kazuo 駒崎一雄	昭25	Bank of Tokyo Trust Co. 100 Broadway New York, N.Y. 10005 577-6600	57-17, 90th St Elmhurst, N.Y. Apt 7-G
Harada, Takayuki 原田高行	昭25	C. Itoh & Co. (America)Inc. New York, N.Y. 10022 986-7900	5 Shore View Drive Yonkers, N.Y. 10710 (914)961-3928
Katsumata, Kazuya 勝股一哉	昭29	Maruka Machinery Co.,Ltd. 889-3843	2173-D N. Central Rd. Fort Lee, N.J. 947-9558
Nakamura, Tsugio 中村次雄	昭29	Mitsui OSK Lines, Ltd. 17 Battery Place New York, N.Y. 10004	74, Demott St. Tenafly, N.J. 567-2088
Sugimoto, Kanju 杉本寛十	昭31	Nomura Securities 61 Broadway New York, N.Y. 10006 BO 9-2895	186 Riverside Drive Apt. 13D New York, N.Y. 10024 TR 7-2473
Hosooka, Nobushige 細岡信重	昭30	Mitsui & Co. (U.S.A), Inc. 973-4600	69, Shoreview Drive Yonkers, N.Y. (914)SP 9-3260
Moori, Haruyasu 毛利治泰	昭30	The Tokai Bank Ltd 67, Broad st. N.Y. 1004 425-3434	
Oda, Toshiyuki 小田敏之	昭32	Mitsui & Co. (U.S.A), Inc. 973-4600	
Takamatsu, Yasuo 高松康雄	昭34	Nihon Keizai Shinbun 99 Wall st N.Y. 10005 269-1092	

緑丘会支部一覧

この一年間に緑丘会の支部所在地および支部長に変更がありましたので、ここに一括してお知らせします。なお、新入会員の皆様も各支部の活動に積極的に参加を望みます。

小樽支部
支部長　杉江　猛（大正十四年卒）
所在地　小樽市色内町一丁目六番一号　小樽漁網㈱気付

札幌支部
支部長　○○○○（欠員）
所在地　札幌市北四条西二〇の三　監査法人池田昇一事務所気付

函館支部
支部長　林　源太郎（大正四年卒）
所在地　函館市大手町十一番八号　中津会計事務所気付

旭川支部
支部長　岡田正雄（昭和十五年卒）
所在地　旭川市五条通十六丁目右一号　岡田正雄方

室蘭支部
支部長　栗林徳光（昭和十六年後期卒）
所在地　室蘭市海岸町一丁目二十二番地　栗林商会気付

釧路支部
支部長　吉田利和（大正九年卒）
所在地　釧路市南大通一丁目　釧路商工会議所内

十勝支部
支部長　野村勝次郎（昭和三年卒）
所在地　帯広市西一条南十の一　㈱郷商店気付

北見支部
支部長　佐藤　司（昭和八年卒）
所在地　北見市屯田町六一七　㈱三立商店内佐藤司気付

夕張支部
支部長　北村正久（昭和十年卒）
所在地　夕張市鹿の谷二丁目三番地　北村正久方

岩見沢支部
支部長　鈴木重男（昭二年卒）
所在地　岩見沢市一条東一丁目　㈱柿本商店気付

空知支部
支部長　竹田正俊（昭和十年卒）
所在地　砂川市西五条北七丁目　竹田正俊方

青森支部
支部長　奥寺雄一（大正九年卒）
所在地　青森市浪打四九四　奥村隆司方

秋田支部
支部長　京野　赳（大正十四年卒）
所在地　秋田市茶町菊之丁二二　秋田銀行気付

山形支部
支部長　三浦新兵衛（大正四年卒）
所在地　山形市本町九九〇　東北商事㈱内　五十嵐金五郎気付

宮城支部
支部長　早坂　明（大正十四年卒）
所在地　仙台市東二番丁七〇　電力ビル内　東北フライアッシュ㈱気付

福島県支部
支部長　大島英二（大正五年卒）
所在地　福島市栄町十二の七　大島農場気付

栃木支部
支部長　村上武夫（大正十一年卒）
所在地　宇都宮市今泉町　県立宇都宮商業高校気付

東京支部
支部長　上村甚四郎（大正四年卒）
所在地　東京都中央区銀座東七の六　双葉ビル六階

横浜支部
支部長　吉川　博（大正十年卒）
所在地　横浜市西区緑町一の一　三菱重工業㈱横浜造船所資材部　福吉俊夫気付

群馬県支部
支部長　下村寿之助（大正九年卒）
所在地　前橋市紅雲町四一　下村寿之助気付

静岡県支部
支部長　大石荘太郎（大正十一年卒）
所在地　静岡市紺屋町十一　第一浮月ビル内　公認会計士田辺三平気付

名古屋支部
支部長　浜井清一（昭和十二年卒）
所在地　名古屋市昭和区桜山町三－五八－三　東和金属㈱内　浜井清一気付

岐阜県支部
支部長　山崎丈夫（昭和二年卒）
所在地　岐阜市上土居狭間八一　三陽電機製作所内　中川和行気付

新潟支部
支部長　池田繁正（大正十二年卒）
所在地　新潟市上大川前通七　高杉隆平気付

富山県支部
支部長　飯野直義（大正十年卒）
所在地　礪波市本町二の一七　神沢重治気付

石川県支部
支部長　○○○○（欠員）
所在地　金沢市諸江町上丁二二五　赤座繊維工業㈱　亀井裕気付

福井支部
支部長　山口秀雄（大正十二年卒）
所在地　福井市中央三丁目一番五号　三谷ビル内　前田商事㈱内

京都支部
支部長　森下　弘（大正十四年卒）
所在地　京都市南区西大路八条下ル　日本新薬㈱森下弘気付

大阪支部
支部長　石田平八（昭和二年卒）
所在地　大阪市北区梅田八番地　新阪急ビル八階　サッポロビール㈱大阪支店気付

神戸支部
支部長　湊　静男（昭和三年卒）
所在地　神戸市生田区海岸通四の八清和ビル内　神戸海陸産物貿易同業組合内　本間広松気付

岡山支部
支部長　尾崎央男（昭和九年卒）
所在地　岡山市磨屋町九－一八－五〇一　農業会館内　兼松㈱岡山支店　和田益太郎気付

広島県支部
支部長　友沢和一郎（昭二年卒）
所在地　広島市八丁堀一六番一四号　第二広電ビル七階　丸嘉機械㈱広島営業所内　緑丘会広島支部連絡所

福岡支部
支部長　馬場清義（昭和三年卒）
所在地　福岡市薬院二丁目六番十八号　アンコール㈱気付

大牟田支部
支部長　萩尾英彦（大正十二年卒）
所在地　大牟田市大高町二三　㈱肥筑石炭気付

ニューヨーク支部
支部長　粟野俊助（S. Awano）（昭和十二年卒）
所在地　c/o Marubeni-Iida(America) Inc.
200 Park avenne New York.
N.Y. 10017 U.S.A

東急百貨店
電話本店・東横店（463）0111日本橋店（211）0511木曜定休
贈りものに東急百貨店の商品券を
新宿小田急　函館棒二森屋　札幌五番館でも
お使いいただけます

緑丘昭八会

昭八会
卒業満35年記念総会

日時　9月14、15日

場所　南伊豆、今井浜東急ホテル

一、嬉しき、感動の二十四時間
一、出席率　五〇%の快挙
一、昭八会全員緑丘を購読するに決定
一、基金四〇万円確保の決議
一、三年後小樽にて、母校六十周年記念に同調、夫人同伴開催決定
一、鈴木三七氏特別表彰

筆者は、何から筆を走らせてよいやら、わからない。未だ感激が胸打って居る為めか、（神戸にて九月十六日記）拙筆を詫ぶ、御寛恕乞ふ

出席率五〇%の快挙

集会定刻二時前に集った人員八〇%そして二〇%の出席者を待つこと一時間司会者（幹事）の名計らいで開会となった。

卒業人員　一八七名
物故者　四九名
現在員　一三二名
出席者　六一名
出席率　五〇%

＜ご招待の諸先生＞
大野純一先生
大谷敏治先生
久木久一先生
井上紫電先生
木村重義先生
南亮三郎先生（欠席）
中野清一先生（欠席）

開　会

横山（秀）司会者は先づ全員を小樽の三十五余年前に戻した。即ち全員に目をとじてもらい、地獄坂の登校を道順に語っていった。小樽公園からはたまた稲穂小学校からの登校の道順、左に四寮を見、右に高商クラブを送り、一方、日蓮宗の寺を右に見て、一同地獄坂にかかる。左に小樽庁商を見てのぼれば左に第一寮右に第二寮、その下に三寮が見えてくる。そして、正門に入る。左に柔剣道場、大講堂（元テニスコート）を見る。しかしその前に必らずといってよい程学友の故郷からの送金案内（学費到着案内の掲示板）に目をそそぐ、かくして胸算用よろしく、屋内休育場横の小さな玄関に吸収されていくのである。とそぞろに若き時代を思い出させるこの手法は誠に名司会であった。

物故者全員を読み上げて、ここに参会出来なかった学友の冥福を祈りつつ一分間の黙祷を捧げる。世話人代表八木氏の挨拶に続いて幹事内崎氏と宇尾氏によって会計報告や経過報告があった。

諸先生の挨拶を簡単に要点のみを記して、ご出席出来なかった学友のための参考に供しよう。

大野さん

私は五年前の熱海のウロコヤで諸君と今生の別れをした積りです。五年後の今、大挙した諸兄に逢ふことは感激でもあり感謝したい気持でもあります。然し今日も私は諸君に別れを告げに来ました。私は十五年前にこの世の人でなかった。倒れて現在迄生き延びたことは五年前に述べたとおりです。諸兄は若いが絶対に健康に留意していただきたい、

大谷敏治さん（学習院大学）

招待の謝意、多数の出席者と昭八会の盛大さを祝し、大谷令夫人よりも皆様によろしく。マッキノン先生全国を廻った時に皆様より絶大なる御厚志と御骨折を頂きましたことに対する謝意。

久木久一さん（専修大学）

小樽を定年でやめて目下専修大学の教授、小樽に赴任して一番先に教えたのが昭八会の学生、自宅は現在大野先生と近所なので何とか時間をさいて訪問され度しと。

木村重義さん（東京大学）

東大商学部元部長、孫八人と自慢話が出る。小樽に初めて講義したのは我々クラス。脚が振るえて何を教えたか解らない。東大は六〇才で定年との事で今度北海道大学の教授も兼任され、近く札幌に行くが、北大と高商と云う狭い考えでなく次代を負う青年を国家の為め育てるとのこと、又逢いましょう。

井上紫電さん（南山大学）

小樽時代に諸君に何を目的とし導くかを知らず拙なる講義をしたことを詫びる。人口論は南さんの専売特許と思ったのに計らずも法律家の井上さんより、現在の日本人の人口の構成一才－十五才、二、五〇〇万人一六才－三〇才迄、三、三〇〇万人であり、近き将来日本の人口は御推察の通りとなる。因って堕胎廃止法云々と優性保護法とのむづかしさを述べられた。筆者も二十年、三十年先の日本の人口構成を心配するものですと語る。

自己紹介

一人三分にして六十名、三時間を要する。短きを以って名挨拶とするも何分三十五年振りで皆に逢ったせいもあり次々に時間が延びていくのもまた止むを得ない。各人の嬉しさと感動がマイクを流れて何時終るとも知れない。司会者気をもむことしきり、午後五時になって自己紹介を一時中止し、次の議題をはかった。

決定事項

一、次回集会は小樽とし、母校六十周年記念に同調。（夫人同伴のこと）

二、本誌〝緑丘〟を全員講読に決定

三、鈴木三七氏の美挙に対し特別表彰のこと。

この昭八会が卒業以来続いてよく纒り、また名簿の整備につとめ、そのためこのような盛大なクラス会となっていることを思うとき、鈴木氏の功績は大いにたたえなければならない。（幹事から記念品を贈呈す）

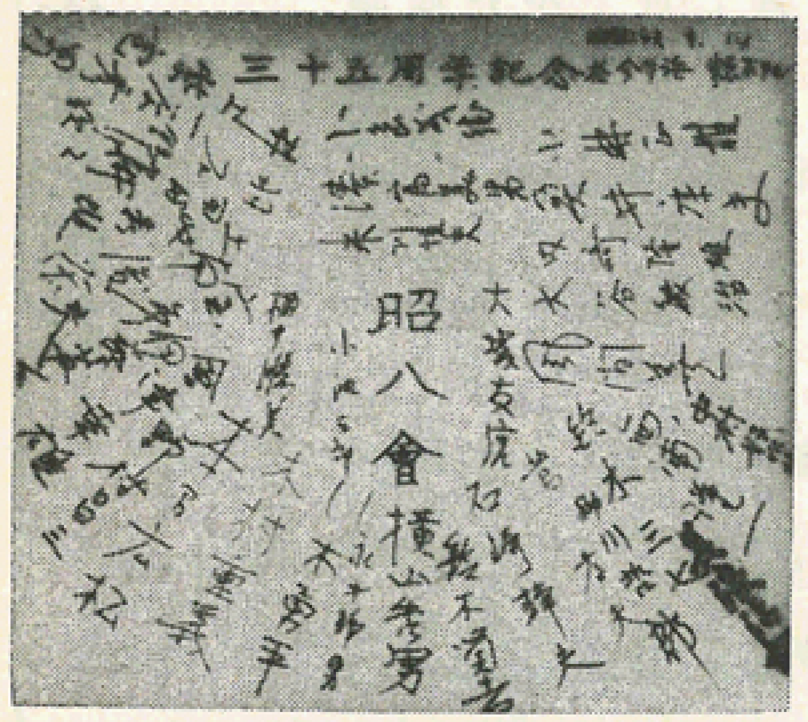
> ○卒業し三十五年菊の宴
> （横山幹事より緑丘を偲べと号令あり）
> ○眼つむれば地獄坂あり合歓の花
> ○眼っむれば銀杏大樹も色づきし
> ○祝ぎ申すわれら五十路の今日の秋
> ○また会わん地獄の坂の花の頃
> ○校庭の桜咲け咲け三年後も
> ○この伊豆の秋の湯宿に進軍歌
> ○別れきし伊豆の車窓に鰯雲
>
> 感ほどばしるまま愚作
>
> 在東京　助川哲郎

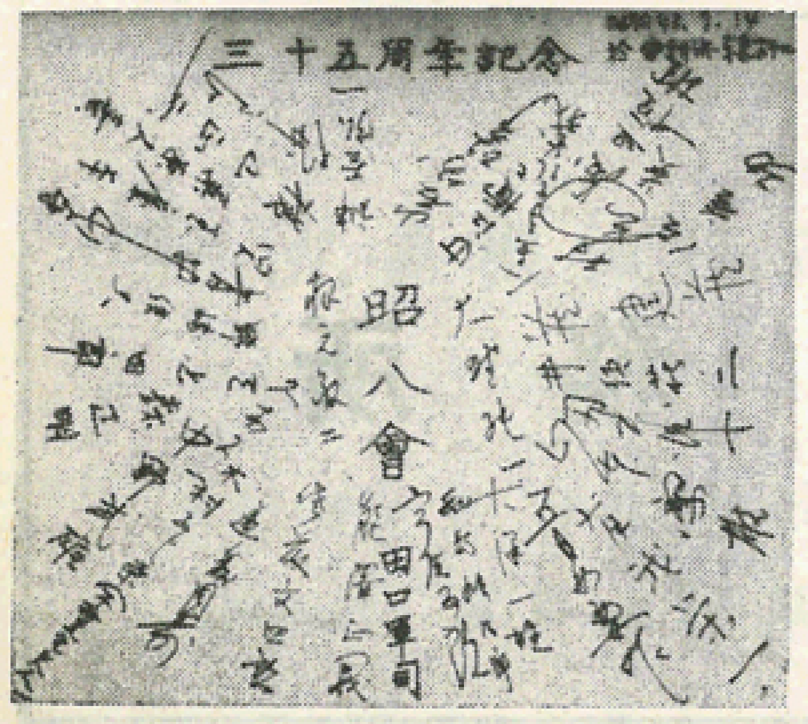
記念撮影を行い一時解散して入浴となる。

開　宴

大野先生の音頭で乾杯。第二次の自己紹介がはじまった。中には待ちこがれたこの乾杯。しかもたった一杯で、もう自己紹介中にのど自慢をはじめる。幹事が準備した下田芸者も「ソッチノケ」で次ぎ次ぎ自己紹介しても場内すでに騒然となり、一向に進まず。宴まさにたけなわ。自席をたってグループに囲み出した。N氏のストリップや関東の小唄に対抗して関西の代表の競演がはじまった。結局自己紹介は明朝の宴に譲ることとなる。

その間大宴会場は昂奮と感激の渦と化し、九時半、大谷さんの一声で、終宴とすべきところ校歌となり、進軍歌となりその時は腕を組み輪となり、全員、十九才か二十才の学生になっての大声（翌朝ノドを傷めたもの約七〇%）で何時終了するやら（筆者残念乍ら部屋に帰って記録とれず）





各部屋での二次会、下田芸者と一緒に数名（名をカクス）下田行？何時に帰ったか小生は知らない。

翌　朝

昂奮して眠れぬ者朝五時には浴場へ、U氏入浴場より裸で海水浴。昔の学友が心配して之も裸で見守るばかり。良俗に反するや甚しきものあり。朝食を早めて、第三次の自己紹介に入る。ビールと酒が昨夜に続いて今朝もお膳の前にならび、朝八時から迎え酒で別れを惜しむ宴が再び続いた。

その最中にせめてみんなに会いたいものとはるばる北海道から美浪治郎氏が到着。これを迎える嵐の如き拍手という感激の場面もあった。このようなあわただしい中にあって自己紹介がなおも続いていた。やがて解散予定を一時間超過して十一時、さしもの大会も幕を閉じた。

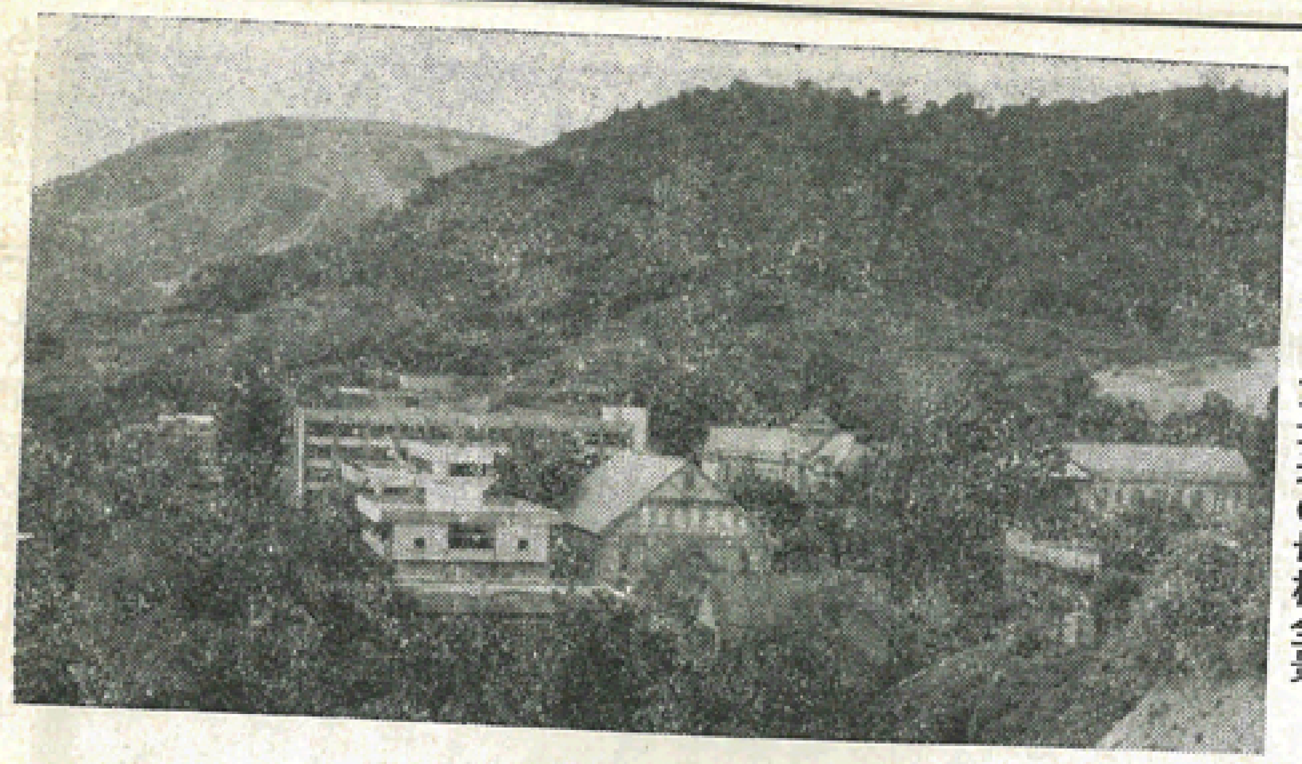
幹事五人（八木、一谷、横山、宇尾、本間）は夫れ夫れ分かれて各部屋の忘れものを注意し、未払を清算して、十二時半東急ホテルを後にし

た。

この文を結ぶに当って在京幹事、北海道の幹事の格別のご配慮に深く感謝しますと共に充分に語り得なかった筆者の拙文もお詫びします。

＜記念品＞
鋳物額皿（小樽商大全景）
タオル（高商の帽章入り）
＜寄　贈＞
マックスファクターセット（石崎）
小樽商大校舎全景写真（鈴木）
ファイブスター　サッポロビール

（本間広松記）


全員に配布した最近の母校全景

元陸軍中佐 深草厚之先生を悼む

鈴　木　三　七（昭八）

先生は小生等とほぼ同時代にご在職、配属将校（陸軍中佐）として故菅大尉、斎藤少尉殿とともに軍事教練を担当されました。小生等が二年生の時（昭和六年）満州事変が起こり、祖国が軍国主義へそして敗戦へつながる道を辿り始めた当時の軍教の教官としては誠に軍人らしからぬ軍人の様なご風格で我我にとってはありがたかったようです。太ったお身体で雪中教練も適当にやって下さいました。

卒業間近い雪中の授業時に『君達は緑丘学園いや薄給学園を間もなく卒業する……』（雪におおわれた白丘と薄給をもじられたのでしょう）と冗談めいたことを話された事が想い出されます。尤も不況のさ中で「学校は出たけれど」の時代、初任給も五十円前後の時代でした。小生等卒業後、間もなく退官されご郷里の熊本へ帰られました。小生、昭和十一年の秋、単身九州一周旅行の際、熊本駅のフォームへ羽織、袴の服装でお出迎えをうけ恐縮しました。それから熊本城、水前寺公園等をご案内下さって同夜は先生のお宅でお世話になりました。その上、翌日小生の阿蘇山見物にご同行下さって同夜熊本をあとに鹿児島へたつ迄言葉で云いつくせぬ程のご芳情に接しました。戦時中は青少年の鍛練に努力されておられたようです。六、七年前にお手造りの干柿のご恵送をうけ恐縮しました。二、三年前からか目をわずらわれ視力が不充分になられた由。ご老体のせいもあり小生等の卒業満三十年の記念全国クラス会（38・6・於熱海）にもご不参でした。

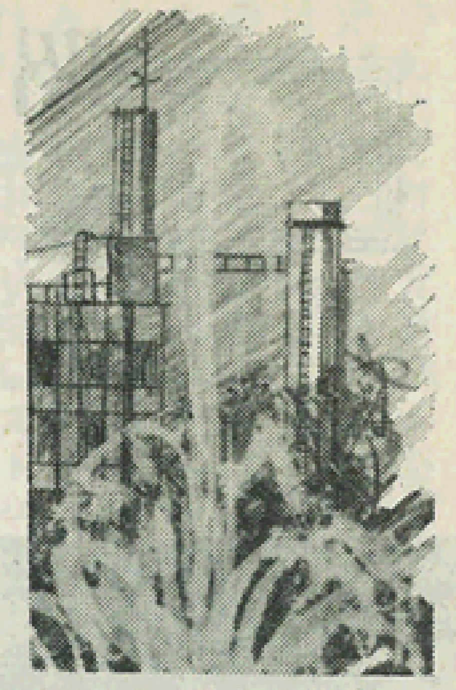
去る五月二十四日、ご家族からご逝去の電報に接し驚ろいた次第です、享年八十五才かと存ぜられます。我我の「緑丘昭八会」からもご香資を送りご冥福を祈りました。

このたびご遺族から我我の卒業満35年記念全国クラス会（9月14・15日、於南伊豆、今井浜東急ホテル）に際し小生あて金一封のご恵送があり敬服した次第です。このご芳志は今回のクラス会の他の世話人と諮り「緑丘昭八会」の基金に繰り入れ、クラス会の記念品とともに粗品を送ることにいたしました。

ご遺族――熊本県玉名郡菊水町久井原　深草いつ殿（ご令室）

公認会計士
税　理　士
小島典春事務所
東京都千代田区九段北1―2―12
電話東京（03）（261）2938
（263）4587

昭13会札幌だより



。大阪の西谷君札来

北海道観光旅行中の西谷作太郎君が去る8月4日夕札幌入りをしたので、同君の宿舎であるパークホテルのビヤガーデンで歓迎会をした。

同夕は同君多忙で、業者との懇親会があり、到着からそれまでのほんの数十分を利用したつかの間ではあったが、ジョッキーを傾け、歓談に花を咲かせた。

当日は日曜であったので、集る者地元から、進藤、馬場、宮窪、大津、戸谷のわずか5名であったが、宮窪、大津の両君とは卒業以来初の30年ぶりの対面、宮窪君とは同じ陸上競技部の仲間で大変なつかしい対面であった。

。進藤君の東京進出

北海道雑穀業界の大手、進藤君経営の（株）藤富商店は、さきに日本橋の芳町に支店を出し、東京へ進出したが、さらに営業拡大のため、こんど同君の私邸を鎌倉の長谷観音付近に、工費千数百万円を投じて新築した。

。札チョン族から阪チョンへの馬場君

拓銀総務部長馬場正治君の本宅は東京にあり、札幌では社宅で早寝早起きの一人暮らし、いわゆる『札チョン族』であった。今年の夏休みは奥さん、お子さんたちが揃って来ておったが、またまた転勤が決った。それは大阪支店長。今度は阪チョンか。

。百川君市農協問題で奮闘

8月5日付当地新聞によれば、市農林部長の百川君、札幌市農協設立委員会事務局長として、市内農協を合併、新組合を発足さすべく奮闘中の由。

。若山永太郎君来札

竹内晃君（昭四一）が小樽で結婚式を挙げるというので若山君渡道。十月九日来札したので朝里温泉に十五名集って歓迎会をかね、在道三〇周年記念会を催した。

SはQに優先する

わが社は〝最善の奉仕〟をモットーにSRQ方式による営業の推進をはかっております

S＝SERVICE（奉仕）
R＝RESULT　（貢献）
Q＝QUOTA　　（割当）

第1……お取引先に奉仕（SERVICE）する
第2……その奉仕がお取引先の業績・成果（RESULT）に貢献する。
第3……それにより初めてわれわれの割当（QUOTA）が達成される。

わが社の使命はお取引先の技術革新・生産性向上・合理化に貢献することであり，SERVICEを第一義とし，SはQに優先するを合言葉といたしております。

丸嘉機械株式会社
大阪市東区豊後町41 <(941)-0271>
専務取締役　若山永太郎（S―13）
常務取締役　高野憲一郎（S―13）

昭和13年会　卒業30周年記念
全国大会　盛大に挙行

時…昭和43年6月15日
所…伊豆稲取温泉赤尾ホテル

一年前から夫々の地区幹事にお願いして参加を呼びかけていた甲斐があって、当日は折悪しく集合時刻の午後三時頃になって、どしやぶりの雨となったが、会場の赤尾ホテル玄関には続々と会員が押し掛け、幹事は転手古舞するような盛況を呈した。

出席者は会員四十七名（出席者名後記）、会員夫人十五名、会員子女六名、総計六十八名の大部隊となりホテルの殆ど半分を占拠して、夫々の部屋に一先ず旅装を解いた。午後四時ホテルの集会室に全員が集まり高野幹事の司会で全国大会の行事が繰り拡げられた。

先ず幹事から開催に至る経過報告があった後出席会員の自己紹介もあって夫々の顔を確認しあった。三十年振りで初めて見る顔にも忽ち在学当時の俤が浮んでくるのは流石同窓生ならでは叶わぬことであるが、顔に刻まれた皺、頭の禿げ具合、頭髪の白さなど更めて三十年という時の経過をしみじみと噛みしめてお互いにうなずきあっている姿を、同伴の夫人達或いは子供達は、どんな思いで見ていたであろうか。

次いで戦死戦病死或いは不幸にして病に倒れた同窓二十五名の冥福を祈って一分間の黙祷を捧げた後、緑丘会が小樽商大創立五十周年記念として作成した映画『ああ我が母校緑が丘』を上映した。母校の変り行く姿、現代の我々後輩の寮生活の姿などを眼のあたりみて、夫々感慨を新たにしたことであろう。

大会行事はこれで終り夫々の部屋に引取り入浴を済ませた上で浴衣に着更えて午後六時大広間に集合、愈々待望の懇親会の幕が切って落とされた。ホテルのサービスによる幕明けのバンド演奏があった後、懇親会司会者河井弘之氏の音頭により乾杯が行なわれ、稲取名物の海の幸による舟作りの料理に舌鼓を打ちながら積もる話に花が咲いて行った。

興到るや三十年の間に夫々の立場で鍛えあげた腕を振う者、喉をきかせる者、踊りを披露する者等々、温泉芸者も顔負けの芸達者揃いに暫し時の経つのも忘れているうちに、頭の禿げ具合の見事な者だけを集めて記念写真を撮るもの現われ、それが終ると今度は白髪の者を集めて撮る次には未だ頭髪黒々と若さを誇る者が集って撮るなどこの珍趣向に一座はやんやの喝采を送る。愈々宴酣となって緑丘得意の進軍歌―「今ははや」のスクラム踊りとなり若き日の血湧き肉踊るの感激的場面を再現させてくれる。御夫人達はさぞ驚いたことであろう。踊り疲れ飲み疲れたところで一先ずお開きとなり、明朝のバス旅行或いは懇親ゴルフの成功を祈りながら寝に就く。

翌十六日午前八時出発の仕度を整えて集合、一同記念撮影をした後朝食に移る。昨夜来の雨は未だ衰えずゴルフ組は遂に中止と決定、バス旅行は決行を宣言して朝食後解散ということになった。

バス旅行に出掛ける者は夫人子女を含めて三十四名、ホテル玄関前に横付けされた観光バスに乗り込み、雨の霽れるのを待ち望んだ。出発後間もなく幸にして視界を遮っていた霧も拭うが如く霽れ上って伊豆海岸

を石廊崎に向うバスは快調なペースで走り続けた。石廊崎で休憩、豪雨のあとだけに足許悪く灯台まで足を延ばすことはできなかったが、天気は時が経つにつれて益々快晴そのものとなり北方に向きを変えて走るバスの車中では冷たい缶ビール、ジュースに喉をうるほしながら全く打ちとけて和気靄々たる雰囲気に満たされた。途中弓ケ浜レストハウスで昼食。伊東から新コーススカイラインに入るやその景観の素晴らしさに暫し感歎の声があちこちで聞かれた。

五時間に亘るバス旅行も車が熱海駅前に静かに停車した時をもって遂に終りを告げ、夫々名残りを惜しみながら北に南に散っていったのである。

ああ本当に楽しかった。三十年振りにあった同窓の若者達、姿形は夫々三十年の年輪を刻み込んではいたが、気持は依然として三十年前と少しの変りもない青年そのものである。来る三十五周年にも四十周年にも又元気な姿で、万年青年の気持で相会おうではないか。（木村記）

出席者次の通り（ＡＢＣ順）

一、夫人並に子女同伴者

秋田谷清、青塚寛二、藤城敏雄、福田次助、金垣英雄、木村章三、木村実、室谷邦雄、西谷作太郎、大野陽之助、篠原守、進藤潔、高野憲一郎、戸谷太通三、横本昌直、米光徳蔵　以上十六組

二、単身参加者

江川裕一郎、羽鳥忠二、一柳茂樹、今井健一、鎌谷勧、河井弘之、窪田多々男、前山竜男、丸山伝治、松ケ野寿夫、三森竜次、村田謹也、中川春雄、中条市部、信田英吉、小田乾三、岡部武雄、佐藤勇、佐々木勇仁、関根鍈郎、鈴木暉吉、鈴木啓介、田口俊太、田村耕一、高杉（仲）隆平、富永義、和田善四郎、山家利典、山本亀雄、山本祐一、柳川憲夫　以上三十一名

追而、卒業三十周年記念アルバム作成が決議されましたので最近の家族全員の写真ネガを左記宛お送り下さい。（大会に参加できなかった方も是非お願いします）

小樽市花園町東二の九
グラフ商会　佐々木勇仁殿
（電話小樽二一三、三一一）

異動

栄転

松橋忠光（昭一九）
警察庁内閣調査室警視長

紀野重仁（昭九）
住金鋼管工事㈱常務取締役
大阪府堺市出島西町二番地

川久保恒雄（昭三七）
大阪郵政局郵務部集配課長（北海道栗山郵便局長）

大友敏弘（昭一九）
安田信託銀行不動産部（錦糸町支店）

望月鷹雄（昭八）
㈱新都市開発センター常務取締役
東京都千代田丸ノ内三丁目四
新国際ビル八階

進藤彰（昭一一）
日産農薬サービス㈱（日産化学㈱）
大阪支店次長

平賀泰正（昭一一）
三菱地所業務部長（総務部副長）

中道良徳（昭一一）
大東通運株式会社隅田川支店（十条製紙株式会社）
東京都荒川区南千住四丁目一番地

細川信四郎（昭一四）
三菱銀行検査部（大阪駐在）（同行下関支店）

中野孝太郎（昭一一）
富士鉄本社大阪営業所長（本社輸出部長）

越崎清二（昭一一）
白鷺燐寸製造所東京営業所
東京都千代田区神田佐久間町三ー三八

住所変更

滝沢中（昭三）
(158)東京都世田谷区上用賀二丁目五番一ー八〇一（馬事公苑前ハイム）

紀野重仁（昭九）
奈良市学園大和町三丁目二一八

川久保恒雄（昭三七）
(535)大阪市旭区生江町二ー四八ー一八　郵政一号宿舎三号

西野嘉一郎（大一五）
(145)東京都大田区鵜の木二丁目二十三番七号（表示変更）

浜林正夫（元教授）
東京都北多摩郡久留米町大門町二ー四第二住宅三ー二〇八

進藤彰（昭一一）
大阪府池田市石橋四丁目二〇ー九

亀井尚一（昭一八）
西宮市塩瀬町青葉台七二番地

鈴木丙午郎（昭三）
(047)小樽市緑三丁目十六番地二五号（表示変更）

酒井誠（昭一一）
名古屋市千種区都通二丁目一〇都通ビル六〇五号

大平善梧（大一五）
(167)東京都杉並区上荻三丁目二三番四号（表示変更）

松本浩三郎（昭一二）
東京都杉並区下井草四ー二三ー三

細川信四郎（昭一四）
伊丹市稲野町六丁目二四

根田順治（昭三）
(227)横浜市港北区元石川町六〇六〇

大場忠久（昭四）
(145)東京都大田区上池台三丁目十三号（表示変更）

≪お願い≫　ご栄転・住所変更のご通知有難くお礼申し上げます。誠に恐縮でございますが、必らず卒業年次をお書き添え下さいますようお願い申し上げます。

黄地幸造（大一一）

九月二十二日午後二時十分心筋硬そくのため急逝。告別式は二十四日午後二時より自宅で仏式により営まれた。自宅は東京都文京区目白台二丁目三番一三号、喪主黄地幸昌氏。

渥美静雄（昭五臨）

（北海道柔道連盟理事長、北海道学生柔道連盟副会長、小樽柔道会会長、講道館柔館八段）

九月二十一日午後一時四十分、急性心不全のため小樽市立病院で急逝。六十二才。葬儀は二十三日午前十時から小樽市立小学校体育館で執り行なわれた。

（自宅）小樽市入舟二ー四ー一四
喪主＝渥美静子

昭和15年会開催

9月14日 午後5時
東京・築地「田村」

東京の真中、下町情緒の漂う築地料亭「田村」で催されたのは九月十四日の土曜日午後五時。先づ玄関を入ると「懐石料理たむら」と銘打った靴ベラを贈呈されました。土曜日なので五時という時間は無理でなく、むしろ余る位なので小樽時間を吹き飛ばし、ジャストに開会されました。

招待先生は英語の岩田一男教授、諸々方々に会があり多忙の中を飛行機で駆け付けて下さいまして、幹事一同感激の至りでした。先生、気力は若壮の我々を凌ぐ風情あり、スピーチも回顧談よりも前向きの内容に溢れていました。床の間を背にして、頻りなしに伺いに来る会員諸氏と別誂のウイスキーをチビチビたしなんでおられました。

先ず、幹事総代三菱ジェントルマン吉田重敏氏の開会の辞に始まり、井内幹事の今後の運営方針、世話役の選出に移り、結局会長には序列を踏んで、松下木材新社長門脇利次郎氏、それから常任幹事に矢野正康、井内忠義、杉浦重敏の各氏、事務局長に貫洞慎一郎氏が決定され貫禄充分の税制評論家北条恒一氏の音頭により乾杯……続いて写真撮影が非常に早く（あまり酔払わぬうちが良いとかで）終了しましたが、見渡す所ハレーションを起しそうな頭の人はこの会には一人も居らず、自称ロマンスグレー型を始め、中には緑丘時代のアルバムからそのまま抜け出た様な清新組も多く、仲々若々しいのには誇りを感じました。

杯が廻り、懐旧談、自慢談、エッチ談などガヤガヤワイワイで「女中の数がもう少し多いといいが」など贅沢な事を云う輩も出てくる始末。東北魂一番の貫洞名幹事の徹底した呼掛けにより遙々仙台（笹原）群馬（真下）埼玉（高田）と言う遠来組の多いのも目立ちました。北海道からは祝電（小野寺一夫）一通あり。長々一時間遅刻して来た西沢氏が小軀をヒッサゲて躍り込んで来て、早速呼出し「清吉」の様な美声を以て漫談を始めていたのが目立ちました。この人、校歌・応援歌などのリーダーにも大分推されましたが「体操なら兎も角」と言って固辞していました。我々大正生れの昭和十五年会は戦争生き残りの会です。数多くの有能な友達が遙か故国を離れて戦死しています。そして戦前の修身、斎家・治国・平天下の教育を受けた最後のゼネレーションです。

こんなわけで会は極めて盛会裡に終り、最後に肩を組んでの校歌・応援歌の大合唱で幕を閉じました。

（E生記）

「招待者」
岩田一男一橋大教授

「出席者」
阿部・井内・飯田・宇野・奥沢・大野・大河内・長田・小田・海老原・加納・貫洞・北村・小西・笹原・杉山・杉浦・東・高田・立川・高橋・真下・村岡・矢野・西沢・若木・北条

夢想三十年

（昭和十二年入学一年E組の友人達）

貫洞慎一郎（昭一五）

想えば昭和十二年春未だ浅い四月地獄坂を父兄に伴われ緑丘学園に第一歩を印した私達でした。入学式当日畏友苫米地英彦君の厳父英俊校長の入学の辞は青春の血たぎる紅顔の美少年達に興奮と希望を与え大いなる明日への飛躍を約束してくれた。入学式翌日商業出のE組に編入され見知らぬ友と共に一年を夢の如く過しました。

商業組は数学不得手とされ、当時白面の美青年であった現東北大教授、林五郎さんの教導を受けその熱心なる講義に耳を傾けたものだった。同級生の総数約五十名前後、現在は父と呼ばれる良い家庭人と思われるが往時は全国各地より笈を負うて北海の地小樽に憧憬を抱きながら馳せ参じた夢多き若者達だった。

三十年を過ぎし今日、四、五人の同級生と会う度毎に白髪を気にしながら、往時を語る姿を見て実に光陰矢の如しとか、感無量に堪えぬ。同級生の現状を述れば正に昭和元禄の名に反かず、在京人には、日商に大野君、東商に植木君、岩井産業に上海こと飯田清四郎君、日銀本店に加納宣雄君、三井銀行本店に上田延三君、日産火災に安井君、日本ストリツクに小田賢一君、高崎製紙に宮崎英吉君、藤田組に阿部卓治君、栗本鉄工に大場賢治君、雪印乳業に東登太郎君、横浜には三菱重工横浜造船所に同郷の高橋真一郎君、全く多士済々清記商会、昭和自動車には一匹猥の矢野正康社長俊鋭雲霞の如しと言うか。

第二の故郷小樽には母校教授経営学博士伊藤森右ヱ門君、島崎茂君、岸下栄君、余市の仁木高校には工藤悦信君、札幌には秀才応援団長小林庸吉君、赤沢一義君、根室には海産商を営む大隅君、旭川には経理の大先生古谷信勝君、小室緑郎君、苫小枚には竹内万敏君、深川には学生当時真面目一方だった見海君、函館には石塚弥一郎君、津軽の海を越えれば盛岡には岩手共済連参事、岩手大学講師、親友鎌田義雄君、南に目を転ずれば清水には片山正治君、岐阜には老眼鏡と総入歯を嘆く今西信之君、滋賀県には塚田光夫君、大阪には交通公社に松本義夫君、大和銀行に神谷彰一君、九州日銀には小林豊君等全く有能な人達ばかりだった。

在学当時の教授連は英俊校長始め一流の碩学一々御尊名を列挙するのももったいない位の優秀な俊鋭ばかりだった。

立派な教授連のもとに猛将の下、弱卒なしの例え通り、せんだんは双葉より芳し、今日の諸君の躍進を観る。

併し今にして小生は想う。一年E組出身の同級生の今日の社会的地位ありとすれば本人達の才態と努力は勿論の事乍ら、不幸にして第二次大戦の華と散りし幾多の同級生又病魔に襲われ若き生命を絶った人達の御陰である事を。

物故者の御尊名を綴れば地元樽商出身の網谷清君、中村賢二郎教授の御長男秀才美男子改造君、特攻隊の先陣として敵艦めがけて壮烈に突入したと思われる道場七郎君、伊勢崎商業出身の江差追分を良くしたひげ男久保田賢太郎君、神戸出身の福来義信君、函館出身の竹内信男君、八戸出身の細越武夫君、今西君、同郷の稲場正之君、高木久義君、其后不幸にして病没した曽山勇記君、古沢清君、藤井吉雄君等々。

全く口惜しい友人達を失った。彼等が若し今、生あるとすれば現在諸兄に負けずとも劣らぬ隆盛を見、恥多き今世に一沫の涼気と爽風を吹き込んだものと思われ御遺族の方々と共に痛恨涙して夭折を悲しむや切。

去る九月十四日築地料亭田村に於て昭和十五年卒の同期会が開かれ、同席上同期の物故者の慰霊祭も行なわれた。雄魂安らかに昇天し同級生の今後に希望と倖わせを賜わらん事を。

合掌

爽かな剃り心地
緑丘人のおヒゲ剃りには
資生堂スーパー・ポアン
――ステンレス替刃――

昭12卒 関西銘々伝(三)

関西銘々伝は一応この項で終りますが次は関東にバトンを渡しますのでご準備願います。（森川正明）

山本清君

山本君は同期会へはあまり顔を出さない。それは、彼のズボラからではなく、彼の環境が同期会へ出席出来ない程の多忙さを彼に強いているのである。

昭和十二年卒業と同時に三和銀行へ入行、戦後同行の札幌支店開設準備委員、昭和三十二年上野支店長を皮切りに、日比谷支店長、ロンドン支店長、東京経理部長、室町支店長、京都支店長を歴任して、現在、取締役本店営業部長という、サラリーマンとしては最高の光栄に輝く地位を、彼の努力が獲ち得たのである。

今や、銀行を中心とした企業集団三和グループの指導的役割を果しており、関西財界の、否日本財界の中に大きくクローズアップされる立場にある。その目の廻るような多忙さも推測出来ると云うものである。だが彼がこの多忙さから解放される時こそ、同期会へ、熱心に顔を出して緑丘の想い出を語る時であろう。その時を楽しみに今暫く山本君の健闘を蔭乍ら祈ることとしよう。

山村太兵衛君

『卒業と同時に朝鮮京城の三中井百貨店（滋賀県出身姻戚関係）に入社。昭和十三年、京都師団工兵聯隊へ現役入営。経理部幹部候補生として、東京若松台の陸軍経理学校入校。昭和十五年十六年は陸軍会計監督官として名古屋造兵廠に勤務。昭和十七年結婚、同年十二月召集解除。昭和十八年一月再び朝鮮の勤務に復帰。南教授を京城にお迎えしたことを想い出す。

昭和十九年四月、三中井平壌支店長として転任。途端に再度の召集により、豹兵団捜索連隊付主計として比島へ出征。台湾沖で第一回の魚雷攻撃を受け基隆へ上陸。バシー海峡で第二回目の魚雷攻撃に遭いマニラを経てミンダナオ島に転戦す。米軍上陸後山中に潜む。敗戦により米軍の収容所に入る。昭和二十一年三月浦賀に上陸帰還。この船中で牧田恒雄君に出会う。

昭和二十三年一月京都にて三優社を設立開業して現在に到る。』

以上、山村君の寄せられた略歴をそのまま写したのであるが、卒業後十年間を殆んど軍隊、戦線で送られ而かも後半は困難な収容所生活を経験されたことは、全く頭の下がる想いである。然し、現在の経営者としての自信に満ちた山村君を見ていると、十年間の苦難を克服された軍隊生活の経験が、三優社の優秀な業績に凝結されているのではないかと思われるのである。御家族の状況。

『妻、富美子　四八才
長男、精一　二四才
日本新薬㈱東京支社勤務
次男、正道　二一才
京都市立美術大学デザイン科三回生。
三男、信幸　一九才
神戸大学工学部二回生』

岡田保司君

『昭和一二年三月、卒業と同時に大阪市にある中小規模の株式会社丸宮商店という靴下輸出製造問屋に入社将来独立貿易商を夢みて努力した積りだが、途中、与件の変化で現在は一介のサラリーマン。当時の親会社である『郡是』の取締役工場長東原氏と営業課長大島氏は同窓の大先輩で新米の私を陰に陽にバックアップしてくれたが、両氏共既に故人となられ当時の思い出と感謝のみが残っている。

昭和十五年十月、縁あって大阪在住の岡田家と養子縁組、旧姓富田を岡田と改姓。『小糠三合あったら婿に行くな』と気にしながら、兎も角家庭人となる。

昭和十六年七月、三代目で初めて待望の男子出生、現在慶応病院医局員として藪にならぬよう勉強中。

昭和十七年七月。支那事変拡大に伴い輸出産業不振、勤務先も経営沈滞、親会社である郡是製糸㈱に入社爾来現在に到る。

昭和十八年七月、二男出生、現在松下電器産業㈱勤務。

昭和二〇年四月、太平洋戦争のため応召。勇躍朝鮮龍山部隊に入隊。前線投入前終戦となり、九月内地に復員帰還。

昭和二一年十一月、三男出生目下慶応大学工学部三学年在学中。

昭和二三年四月、学業初の役職就任。塚口工場営業課長、本当の処非常に感激したが、その頃より初心の独立貿易商としての夢が薄らいで来たのはサラリーマン根生が身についたのか、それとも三人の子の親としての生活環境の変化か。その後大阪、東京と営業畑の本社課長として勤務。

昭和三六年八月、ニューヨーク駐在員として、初の本社スタッフ業務に従事。昭和三八年一月、帰国後、営業総務部次長就任。昭和四〇年一月営業総務部長に就任現在に到る』

以上、岡田君に寄せていただいた『卒業後の足跡』を写させて貰った。在学時代、講演部員としての彼が演壇に上り、体をやや斜めに構えて口を切った瞬間の彼のスタイルが目に浮ぶのであるが、今日においても彼は尚、依然として、よい意味におけるスタイリストであり、瀟洒たる紳士である。グンゼ㈱営業総務部長としての貫録充分。彼の堅実な手腕が、混乱の繊維業界においてグンゼの株価を上昇せしめるだろうことを期待している。

関西在住の同期諸君は、まだ、左の通り健在であり、活躍されているが、残念ながら、略歴を頂戴出来なかった。

浅田厚君（旧姓太田）
住友機械工業㈱経理部長。

寺坂嘉兵衛君
日本勧業銀行堺筋支店長。

牧野正治君
㈱牧野商店自営

内藤好生君
㈱永柳コルク製作所勤務

筆者

○

偖て、どんぢりに簡単な自己紹介を。

昭和十二年卒業と同時に朝鮮銀行に入行。保証人には苫米地校長がなって下さった。

終戦迄同行大阪支店勤務。戦争中二度応召。終戦後の昭和二十年九月末銀行が進駐軍に接収され、翌年二月清算事務が開始されたが、その折清算人日銀大阪支店長一萬田尚登氏の代理で、先輩の渡辺文郎氏が来られていた。

同年六月、清算事務が完了したので、北陸銀行大阪支店へ入行。支店長は先輩の四谷宗義氏で、随分お世話になり、先輩の有難さをしみじみと味合った。二年半で同行を退き、硝子会社の経理担当役員に就職したが、銀行員の温室生活を改めて思い知らされると共に、現経済体制の中の中小企業の制度的脆弱さに憤りを持ったのが、会計事務所を開いた理由である。だから、現在、中小企業の一人でも二人でも、防衛することができたらと願いつつ、仕事を続けている。

○

では、拙い筆で、関西在住の同期諸君の足跡をお伝え出来たかどうか危惧しているが、御容謝願いたい。

東京の諸君の波瀾にとんだ足跡を期待しております。

（森川正明記）

《函館支部便り》

一九六八年十勝沖地震に於ける函館大学復旧募金について

既報の如く昭和四十三年五月十六日午前九時四十九分突如北海道及び東北地方を襲った大地震の為め函館大学は甚大なる被害を蒙り皆様に多大な御心配を辱うしましたことは既に新聞、テレビ等により報道されました。同大学の復旧費は約二億三千万円であり、其の七割五分は私立学校振興会から融資を受けてこれをまかない、残額の約五千万円は、国、道、函館市の助成金又は貸付金を陳情してこれを調達しなければならないとのことですが、其の殆んどが借入金となり今後の学校経営に少なからざる支障を来すことを予想されるとのことです。

翻って函館大学の創立者野又貞夫氏は小樽高商第十回生、大正十二年卒業後函館水電株式会社に就職、一年にして函館市の私立女学校の教員となり十五ケ年、其後独立して学校経営に携り三十年間、現在経営している学校は別記の通りであり、其の卒業生約一万名、在学生約四千五百名を有し、各校の長を兼ねております。

小樽高商卒業生で学校経営の理事長兼（校、園、院）長をしている人は唯一人野又貞夫氏のみであります。同氏は本年六月教育功労者として藍綬褒章を受賞致しました。

野又学園の経営校には野又学長の他緑丘会員十数者が教職にありますことを御諒承願います。

函館市では「函館大学震災復興期生会」が結成され、全市を挙げて協力態勢に入って居りますが、函館市としても此の度の震災により広大な埋立地の陥没或は岸壁の崩壊等により莫大なる損害を蒙ったことであり財政的に豊でない函館市としても容易なことではないのであります。聞くところによれば野又学園では現在の在校生約四千五百名が、一人当り千円宛の寄附金が出されることになり、又教職員全員約二百名は五月分給料の半額を復旧費の一部として寄附することに決定されたとのことであります。

緑丘会函館支部には現在約百六十名の会員が居りますが、去る六月二十二日開催の支部定時総会に於て此の問題を討議した結果、全国の緑丘会員の有志並に函館支部会員の有志に呼びかけ函館大学復旧募金に全面的に援助することを決議致しました。

野又貞夫氏は、何分にも公共性のある教育事業をやって居りますので同窓生である氏の為めに否我国教育界発展の為め全国の緑丘会員有志並に函館支部会員有志の応分の御援助を御願いする次第です。

なお募金の具体案としては一口壱千円以上とし全国緑丘会有志の分は御手数乍ら各支部毎にこれを御取纒めの上函館市豊川町十五番二十号北陸銀行函館支店の緑丘会函館支部口座に御払込を御願い申上げます。

追て御送金手数料はこれを差引き又金額御芳名を緑丘会函館支部に御通知下さる様申添えます。

昭和四十三年八月

緑丘会函館支部長　林　源太郎
緑丘会有志　佐々木周一
（緑丘会理事長）
同　金栄　西吉
（緑丘会副理事長）

緑丘会各支部殿

記

《学校法人野又学園経営校》

一、函館大学　商学部
一、函館短期大学　食物、栄養科
一、函館有斗高等学校　普通科、商業科、工業、化学科
一、函館女子商業高等学校　商業科
一、函館保育専門学校　幼稚園教諭養成科、保母養成科
一、函館高等実務専修学校　調理師養成科
一、函館短期大学附属幼稚園　一、二、三年保育

（文責中津正之）

《次号予告》

次号は大西猪之介教授特集号を発刊いたします。

亡き友を憶う
岡田禎君(昭11)の場合

小野寺 佐（昭一一）

岡田君の訃報を受けたのは、入梅も本格的に明けた蒸し暑い、じっとしていても汗が脇下から滴れる七月二十七日の午後三時頃でした。大阪の蟇目君が知らせて呉れました。

一体どうしたと云うのだろう。日頃剣道で練った体で筋骨隆々ととても小生如きの及ぶ所でない頑健なる体の持主であるし、一昨年だったか赤羽の家に訪問した時も年に似合わぬ漆黒の房々した長髪をかき上げかき上げ談論風発病気の話などは一つも出ず昔の緑丘時代と少しも変らず、その万年青年振りには驚いたものである。その点齢既に五十幾才白髪どころか、毎朝顔を洗うにも櫛のお世話にならなくなってから幾年、今ではあきらめるものは総てあきらめ、少しの坂も何度か途中休み、三百米もあるとためらわず、ハイヤーの空車に手を掲げねばならぬ小生なぞ、只々驚嘆と羨望のみして淋しい想いをし辞して来たものである。

人生とは解らぬものである。糖尿病、心臓病、高血圧症の病名のもと幾度か眼底出血で眼盲となり、メニエル氏病等と云う駆出しの医者など知らぬ病名さえ頂戴し、福島大学、新潟大学、東大等行ける処は皆行き、病魔と斗う事十数年、口の悪い者に未だお前生きていたのかとよく云われる小生を、「酒を飲むな、莨を吸うな、酒と莨ばかりが人生ではない、お前には文学の世界があり、短歌の世界がある実に羨ましい」とビールで上気した顔で小生を諫め慰め人生は此れからだ、俺にも二人の娘があるが夫々適令期にも成ったので片附けたら第二の人生に再出発する元気を出せ小野寺と泣き事気の弱い小生を叱咤激励して呉れた岡田君が、突然先に逝くとは何たる事だ。

先に橋本正雄君（昭和ゴム札幌支店長）が、洞爺丸で遭難し、一早く他界し岡田君又小生を尻目に逝く、これで昭和八年多感なる夢を抱いて地獄坂を登った会津中学三人組は、小生一人取り残され子供が仲間から外れベソをかいている心境がよく解る。人生の淋しさ儚なさそして空しさに啾々と泣き度い気持です。

岡田君は、中学時代も寄宿生で心のやさしい少年で眉目秀麗、剣道をよくし（父が職業軍人であったせいかどうか）紺の袴がよく似合い、自宅が浦和市のため、浦高を志望したが机を隣にした小生の影響か文学に耽溺し浦高が駄目なら小樽だと二人で決めてしまっていた。もう一人小樽組がいる、此れが人も知るかっての左翼運動家の飯坂君（若商高校教諭）殊に飯坂君は小林多喜二と親交もあり、且つソビエト文学の第一人者で母校教授であった（現在は札幌大学教授）高崎徹先生宅に小生と共に下宿を御願いし夜毎日小林多喜二文学の研究に没頭して居った事は、部屋を同じくした小生の最もよく知る処である。此処に岡田君が一枚加わると冬の夜の更けるのも、意に介せずストーブの火の燃え尽きるのを知らず、長髪白面の高崎先生の顔は、益々高潮し談論とどまるところを知らず北海の夜は更けり北極星は輝きを更に増した多感な青春時代を送った岡田君であった。

当時（昭和初年）如何に小林多喜二の影響が大であったかを物語る一証ともなるであろう。緑丘に入って明石重信君と共に下宿を共にし小説を書き、その幾編かは小生も読まされたが、明石君の如く校友会誌に書きまくるまでには行かなかったと思うし、明石君の如くペン一本にて口を糊ぐ事なく台湾の製紙会社に就職し現在の良妻を得られた訳であるが、応召幾度戦傷して除隊内地帰還矢張り、製紙関係の会社を転々とせられ最後には同志と謀り会社設立その経営も順調とか聞いておりました。岡田君の人物は一寮（北斗寮）生でしたので小生の他にも書く人もあるでしょうが、決して人と争わず常にスマイルを旨とし人に接するに暖かく困った事、愚痴等は絶対に口にしませんでしたが、そのセンスは文学的でありインテリ的であり、幼少よりよく人に好かれた事は万人の認める処であります。

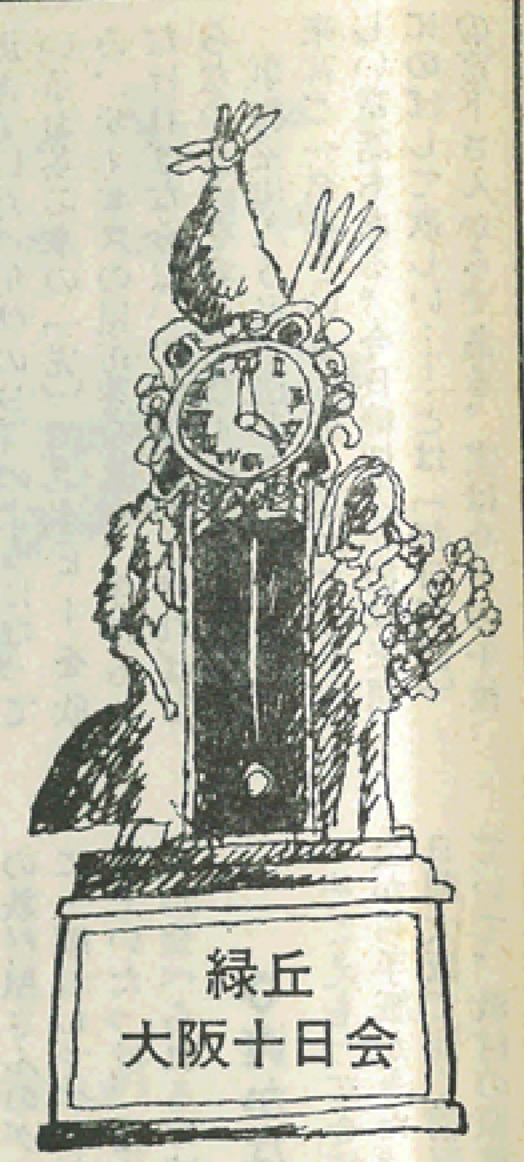
この原稿を書いている処に小島典春君（公認会計士）より電話あり、岡田君の病気は脳血栓症との事であり脳出血に類似しており、七月十九日朝自宅にて出勤準備中突然起ったとの事、同級生では高橋正敬君（太陽海上保険）と二人で代表して弔意並に焼香をして来たので心配なく追悼文は明石重信君か、君が書くのが最も適当であると夜分電話して来た。此れで彼の死は決定的である。あんなに元気で夢多き青年とも云う可き実業家は、かくて幾多の希望と抱負、家族子供の悲嘆を他に忽然と他界した。まるでそれは毎日見るテレビドラマの一駒のように然し現実は厳しく人生は空しく儚ない夢遊病者のように半日を過した後ペンを執ったが、遅々として進まず往きて還らぬ小樽時代の青春時代の彼氏の事のみ眼前に浮ぶが何卒クラスメートの諸君此処らで己れの健康管理に活を入れ岡田君の如く前途有望豊富な人生計劃に座折を来さざるよう仕事も結構だが、人間ドックにでも入って見ようではないか。

今朝は早朝浦和の遺宅に電話して奥様に弔意を表し、その詳細を知るを得た。願わくは在天の彼の霊よ安らかに眠り遺子の成長と安泰を永遠に見護れ、岡田君よさようなら御冥福を祈る事切である。（昭四三、八、一）合掌

〈原稿募集〉

同期のニュースはこの緑丘で交流しましょう。一行十六字で原稿を書いて下さい。

九月例会



対談「アメリカから学ぶもの」「欧州ソ連から学ぶもの」

八月夏休みで一時中止しました大阪支部の十日会は九月の再開で対談を試みた。

それは大阪支部若山永太郎氏（昭一三）と東京支部北条恒一氏（一五）の対談。（32頁参照）

この珍らしい対談形式の十日会に大阪支部員の関心を集め三十名の出席という最近には稀れな集いとなった。

本日の司会者蟇目副支部長は最初松尾正路先生文集について簡単な説明があり大阪支部で、三〇部を引受けていただきたい旨を告げる。

次いで北海道栗山郵便局長から今度大阪郵便局郵務部集配課長になった（昭三七）川久保恒雄氏を大阪支部会員に紹介、同氏より自己紹介があった。

（出席者）

宮地 邦介（大一一）
大久保鹿弌（大一二）
天野 雅司（大一五）
岡田 保司（昭一二）
若山永太郎（昭一三）
加藤 保英（昭一三）
木村 章三（昭一三）
西谷作太郎（昭一三）
市橋宏一郎（昭一四）
河上 鎮男（昭一六前）
阿部 敬作（昭一七）
川久保恒雄（昭三七）
竹内 晃（昭四一）
石田 平八（昭二）
渡辺 祥吉（昭二）
樋山 三郎（昭三）
玉井 英雄（昭四）
堀池 善弥（昭五）
内田 彦士（昭七）
田代 耕二（昭八）
藤井 幸男（昭九）
蟇目 英三（昭一一）

緑丘通信

小樽商大の開放講座

☆小樽商大は、ことしの文部省委嘱大学開放講座として「株式会社経営の問題点」を取上げ、十一月八、九、十五、十六の四日間、札幌の拓銀本店九階会議室で連続講座を開く。講師として実方学長や伊藤森右衛門教授らがあたり、会社経営の法律問題、取締役会の運営、インフレと会社会計、不渡手形などを講義する。受講者は六十人、受講料は二千円。

☆人事院勧告の完全実施を要求する日教組は十月八日実力行使として、三十都道府県が〃早朝一時間カット〃に突入すにことをきめた。日教組加盟大学で実力行使にはいる国、公立三十六大学。北海道では北大や小樽商大も午前八時半から一時間のストに入ると北海道新聞は報じている。

名物〃地獄会〃開催

グランプリーは石田平八氏（昭二）に

しばらく途絶えていた〃地獄会〃（昭和十一年卒から昭和四十三年までの歌祭り）が再開されました。今回は特に極楽会も参加され地獄、極楽会対抗ノド自慢になりました。

日時　十月二十一日（月）
場所　ミュヘン北大使館

多数の緑丘人より景品を寄贈され、全員参加賞を受けて賑かなノド自慢大会を終りました

《受賞者》石田平八氏（昭二）大塚武雄（大一五）清水摂三（昭一六後）亀井尚一（昭一八）種市宏（昭二八）堀池善弥（昭五）藤井幸男（昭九）

某月某日

北条恒一
（税政評論家）

昨夜はちょっと飲みすぎた。そのせいかちょっとばかり頭が冴えない、悪い癖である。伊豆山で開かれた或る会合で「とられるばかりが能じゃない」を一席やったあと、あまりにも気分のいい会合であったので、講師先生いささか酩酊遊ばされたわけである。演芸の時間とはなりまして、童謡「野ばら」を日本語とドイツ語とで歌い車で熱海駅まで送られ、新幹線で東京駅へ着いたら車掌に起されていた始末であった。

朝になって電車が動いていないらしいということをおぼろげに聞いたが、近頃は腹が立たなくなった。私は近頃、日本という国にあまり希望を持てなくなったので、電車のストにも別に怒りを感じない。政府が予算のうちからいくらか国鉄に回してくれれば、国労や動労の方だってもう少しおだやかにやる方法だってあるのに、それができないのが日本の政府だ。兵隊ゴッコや鬼ゴッコみたいなことにはよく金を出す癖になんて……くだらないことを考えるには、わが家の洋式便所は静かで便利である。

◇締切り延期でホッとする◇

東京駅へ着いたら、もう十時五十分を過ぎていた。毎朝の日課のようになっているお茶の水の「虎」でコーヒーを飲み、サービスの昆布茶を飲み、今日もしなければならないこと、行かなければならないことを考えたりすること十五分。

事務室に入ると不在中の電話が五本、来客ご一名様という次第。なかにはうれしい電話もある。今日締切の原稿は来週にのばして欲しい……とは「毎日新聞」の宮下さんからである。実は今日の午後一時には書き上げなければならない原稿だったが、昨夜の予定が狂い、なにか書こうか書くべきか迷っていたところだったのである。ホッとした。大蔵財務協会の葛西さんが寄られたのは、来年出す新しい本の企画の打合せをいつやろうかということなのだ。新しい本を企画するのは、ほんとに楽しいことである。新しい恋人を得て、初めてデートの約束ができたときのような気持だ……そうな。〈私にはとんと経験がない〉

銀座のとあるバーのママから昼すぎまで家で待っているから電話をくれという伝言。いくらかけたってプープー。ばかやろう。昼間はお化けだと意識していねえのかよ。実業之日本社の雑誌の小川さんからの電話は原稿の依頼電話にちがいない。クワバラ、クワバラ。私はそう体が続きません。塩野義の赤津君の電話は、蟇目先輩からこの原稿の督促の伝言があったということ。

昼食をすませて、車で国税局その他三件用事をすませて、眼医者により疲れた目の治療。事務室に入ると三時すぎ、また実業之日本社から電話があった由。それより俺の「明解・税務簿記」はどうなってんだと出版部長に電話したら、どうしても十月の初めだとのこと、勝手にしやがれてな気持になる。一年もおくれたんだから。

富山県から電話、十月の十四、十五日の二日間、是非頼むということ。そういえば忘れちゃいけない、午前中に五反田の鉄材屋さんのグループが十月の十二日に一席おしゃべりを頼むというので引受けていたっけ。富山へ行くとうまい鰤ずしが食べられるので、否も応もない。

◇爽かな冷水浴◇

そこえもってきて総合経営なんとか協会から手紙がきた。十月の八、九日の二日間大阪で開く講習会の案内ビラが入っていて、教材の原稿を頼むというのである。これにはまいった。私は正式に引受けていないのである。確かに九月初めに話があったが、会場がとれたらいずれ改めて正式にご依頼に伺うといって帰ってゆかれたきりであった。しかし、私がその非礼を理由に断ったらどうなるだろう。すでにお客様が申込んでいるとすれば、気の毒なのはお客様だ。講習屋の餌食になるのは本意じゃないが、ゆかざなるまい。

書きかけの原稿が入った重い鞄を抱えてＹＭＣＡへ。今夜は徹夜してもやらなきゃならない仕事がワンサとある。オート・バイシクルで十分間全身を動かして汗、鉄亜鈴で腕と脇腹の運動、両肩の運動、かれこれ二〇分。スチーム・バスで流れるように汗を出し、そして冷水をシャワーでかぶる、これを二回繰り返す、その爽快なこと。

十七日にサンケイの記者がサラリーマン減税について私の談話をとったが、そろそろ出る頃じゃないかと東京駅でサンケイ夕刊を買う。わが家に帰り着いたら八時二〇分。珍しく早いご帰館に愛犬ペックが、うれしがって吠えていた。秋虫の声が鮮やかな夜更けである。

編集後記

☆この号の早く出版されることを祈りつつ月蝕の十五夜に校正を開始しました。特別企画として「アメリカから学ぶもの」「欧州・ソ連から学ぶもの」の対談をやって見ましたが如何でしょう。

☆四回にわたる外人講師特集号は好評裡に終りましたが特に大谷敏治先生の〝緑丘の異人さん達〟には万雷の拍手。いよいよ〝大西猪之介教授特集号〟の編集にかかりました。御期待願います。

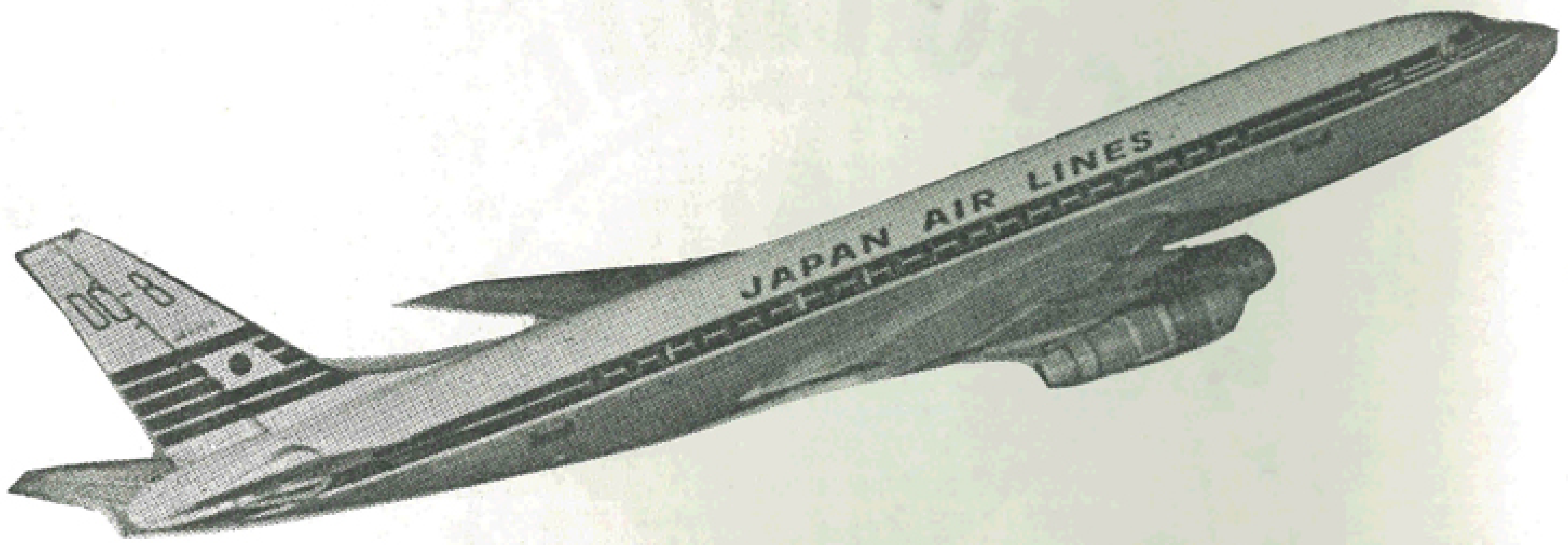
公認会計士　鈴木啓介事務所

所長　鈴木啓介（昭13）

豊橋市駅前大通3丁目113の2

電話　豊橋〈0532〉(53) 4351

世界のどこへでも　お好きなときに！



ジャルパック新コース発表　（下記の数字は出発本数です）

コース名	期間	総経費（円）	12月発	1月発	2月発
台湾・沖縄	6日	東京 133,000 大阪 125,700	2 2	1 1	0 0
香港・マカオ・台北	7日	東京 179,000 大阪 179,000	9 9	3 2	4 4
アンコールワットと東南アジア	12日	東京 268,000 大阪 268,000	1 1	1 0	2 1
ハワイ	7日	東京 293,000	8	3	3
香港エコノミー	4日	東京 129,000 大阪 129,000	0 0	2 2	2 2
ハワイエコノミー	7日	東京 211,000	1	1	2

（太平洋観光へどうぞ　お問合せお申込みは）

そのほかジャルパックは，アメリカコース，ヨーロッパコース
世界一周コースなどいろいろございます

太平洋観光㈱は大阪営業所を新設致しましたので
国内旅行、海外旅行、何んでもご相談下さい

IATA（国際航空運送協会）公認代理店
世界中の航空会社の代理店です。日航，全日空，国内航空はもちろんです

JATA（国際旅行業者協会）会員
ASTA（米国旅行業者協会）会員
PATA（太平洋観光協会）会員
UFTAA（国際旅行業者連盟）

太平洋観光株式会社

本社／東京都千代田区丸の内2の18 岸本ビル　TEL (281) 9864〜5
銀座営業所／東京都中央区銀座5丁目2番地　TEL (573) 5416 ㈹
札幌営業所／札幌市北2条西3丁目（越山ビル）　TEL (24) 7913
大阪営業所／大阪市東区北久宝寺町2-13(マエダビル)　TEL (271) 6481〜2